

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

整理番号 \_\_\_\_\_

## 農 薬 抄 録

一般名 ジノテフラン  
【殺虫剤】

(作成年月日):平成 12 年 8 月 22 日

改訂:平成 19 年 9 月 19 日

改訂:平成 21 年 9 月 30 日

改訂:平成 21 年 10 月 21 日

改訂:平成 24 年 1 月 11 日

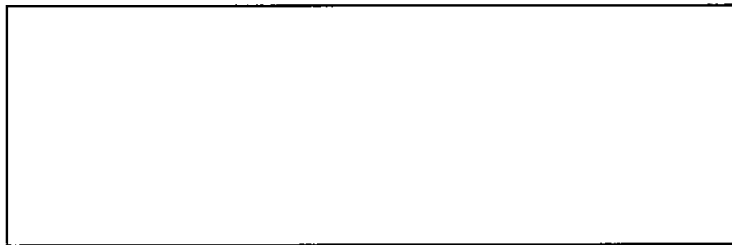
改訂:平成 24 年 11 月 21 日

改訂:平成 25 年 6 月 21 日

改訂:平成 26 年 10 月 10 日

改訂:平成 27 年 10 月 31 日

(作成会社名) 三井化学アグロ株式会社  
(作成責任者・所属) 研究開発本部開発登録部長



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

## 目次

	頁
I. 開発の経緯 .....	1
II. 物理的・化学的性状 .....	3
III. 生物活性 .....	15
IV. 適用及び使用上の注意事項 .....	18
V. 農薬残留量 .....	54
VI. 有用動植物等に及ぼす影響 .....	165
VII. 使用時安全上の注意、解毒法等 .....	216
VIII. 毒性 .....	218
1. 原体 .....	229
(1) 急性毒性 .....	229
(2) 眼及び皮膚に対する刺激性 .....	235
(3) 皮膚感作性 .....	238
(4) 急性神経毒性 .....	240
(5) 90日間反復経口投与毒性 .....	243
(6) 反復経口投与神経毒性 .....	264
(7) 1年間反復経口投与毒性及び発がん性 .....	269
(8) 繁殖毒性及び催奇形性 .....	353
(9) 変異原性 .....	394
(10) 生体機能影響 .....	403
(11) その他 .....	410
2. 原体混在物及び代謝物 .....	423
3. 製剤 .....	496
IX. 動植物及び土壌等における代謝分解 .....	583
【附】ジノテフランの開発年表	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

## I. 開発の経緯

平成4年から、当社のライフサイエンス研究所農薬グループはアセチルコリンをリード化合物として新規骨格を有する殺虫剤の探索を開始した。

その結果、平成5年に化学構造が既存クロロニコチル系とまったく異なった置換基を有するジノテフランを見出した。

既存クロロニコチル系殺虫剤が化学構造的にクロロピリジルメチル基を有しており、しかもそれが殺虫活性を発現する必須条件のように考えられてきたなかで、クロロピリジルメチル基ではなくテトラヒドロフリルメチル基を有する本剤の発見は農薬研究者の間で評価されている。

本剤の有効性について：

平成6年に社内における基礎的薬効薬害試験及び基礎的変異原性試験を実施し、平成7年よりMTI-446の試験名にて(社)日本植物防疫協会を通して全国規模の公式委託試験を開始した。剤型としては、水稲用は箱施用粒剤、本田施用粒剤及び粉剤を供試し、野菜・果樹用は土壌施用粒剤、顆粒水溶剤とした。その結果、水稲についてはウンカ・ヨコバイ類、カメムシ類等の害虫に有効であり、野菜・果樹用ではアブラムシ類、コナジラミ類、コナカイガラムシ類等の植物を吸汁加害する半翅目害虫の防除に実用性の有ることが判明した。特に、近年薬剤抵抗性問題が顕在化しつつあるイネドロオイムシや重要な土壌害虫であるキスジノミハムシ等の甲虫目害虫に卓越した効果を有する。また、野菜・花卉・果樹の重要害虫であるマメハモグリバエ等の双翅目や、コナガ、シンクイガ等の鱗翅目にも有効である。

また、本剤は天敵のカブリダニ、クモ等に影響が少ないため、リサージェンスを起こさないことが認められている。

更に、過去の委託試験及び社内の膨大な件数の薬害試験の事例から、各種作物に対する安全性が高いことも特徴の一つである。平成11年度からは水稲用粒剤を中心に、他のいもち病剤との混合剤の試験も実施し、併発する病虫害の同時防除を確立した。

既存ネオニコチノイド剤との関連について：

ジノテフランは植物体への高い浸透移行性を有し、各種害虫に対しニコチン様の殺虫活性を示す化合物である。

一方、化学構造が新規で特異なことから、既存ネオニコチノイド剤との比較で幾つかの相違点が挙げられる。一つは、既存ネオニコチノイド化合物は、一般的に哺乳類・鳥類に対する毒性が強いのに対し、本剤は哺乳類・鳥類に対する毒性が低く安全性の面で格段に優れている。次に、既存ネオニコチノイド剤の効果が期待出来ない害虫、マメハモグリバエ等の双翅目、ゴキブリ等の直翅目に卓効を示し殺虫スペクトルに相違があることが判明している。

また、本剤の昆虫に対する作用機構研究から既存ネオニコチノイド剤とは別の作用点の存在が示唆されている。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

安全性について:

本剤の安全性に関する試験は平成8年より着手した。慢性毒性、発癌性試験、発生毒性試験及び動物代謝試験等の主要な毒性試験は、に委託して実施した。

国内外の開発状況について:



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

## 2.有効成分の物理的・化学的性状

項目	測定値(測定条件)	測定方法/試験機関
1) 外観 臭気	白色結晶 無臭(常温常圧)	JIS Z 8723/三井化学 1999年 官能法/三井化学 1999年
2) 密度	1.40 g/cm <sup>3</sup> (20.0°C)	OECD109 比重瓶法/Ricerca 2000年 GLP
3) 融点	107.5°C	OECD102 DSC 法/Ricerca 2000年 GLP
4) 沸点	測定不能 208°C(100.2kPa)で分解	OECD103 DSC 法/Ricerca 2000年 GLP
5) 蒸気圧	<1.7×10 <sup>-6</sup> Pa (30.0°C)	OECD104 気体流動法/Ricerca 2000年 GLP
6) 溶解度		
水	40 g/l (20.0°C,pH6.98)	OECD105 フラスコ法/Ricerca 2000年 GLP
ヘキサン	9.0×10 <sup>-6</sup> g/l (20.0°C)	OECD105 フラスコ法/Ricerca 2000年 GLP
ヘプタン	11×10 <sup>-6</sup> g/l (20.0°C)	OECD105 フラスコ法/Ricerca 2000年 GLP
キシレン	72×10 <sup>-3</sup> g/l (20.0°C)	OECD105 フラスコ法/Ricerca 2000年 GLP
トルエン	150×10 <sup>-3</sup> g/l (20.0°C)	OECD105 フラスコ法/Ricerca 2000年 GLP
ジクロロメタン	61 g/l (20.0°C)	OECD105 フラスコ法/Ricerca 2000年 GLP
アセトン	58 g/l (20.0°C)	OECD105 フラスコ法/Ricerca 2000年 GLP
メタノール	57 g/l (20.0°C)	OECD105 フラスコ法/Ricerca 2000年 GLP
エタノール	19 g/l (20.0°C)	OECD105 フラスコ法/Ricerca 2000年 GLP
酢酸エチル	5.2 g/l (20.0°C)	OECD105 フラスコ法/Ricerca 2000年 GLP
7) 解離定数	pKa=12.6 (20.0°C)	OECD112 分光光度法/Ricerca 2000年 GLP
8) オクタノール/水分配 係数(log P <sub>ow</sub> )	-0.549 (25°C)	OECD107 フラスコ振とう法/Ricerca 2000年 GLP
9) 安定性		
①熱	安定 (150°C)	OECD113 DSC,TGA 法/Ricerca 2000年 GLP
②加水分解性	1年以上 (25°C,pH4,7,9)	OECD111/化学分析コンサルタント 2000年 GLP
③水中光分解性		
蒸留水(滅菌)	3.8時間 (25°C, 400W/m <sup>2</sup> ,300-800nm)	9農産第5089号/ 化学分析コンサルタント 2000年 GLP
自然水	3.8時間 (25°C, 416W/m <sup>2</sup> ,300-800nm)	9農産第5089号/ 化学分析コンサルタント 2000年 GLP

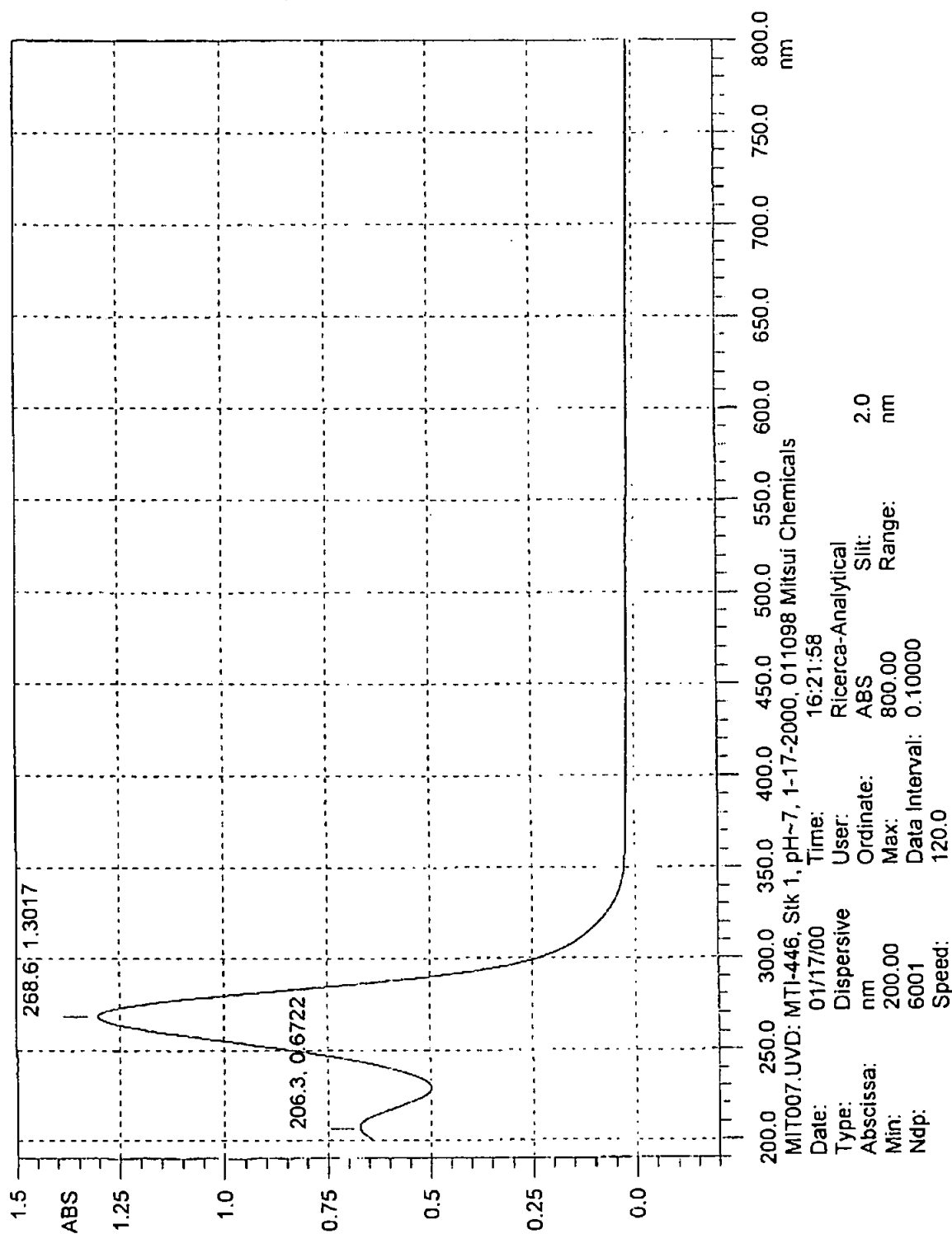
本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

10) UV、可視、赤外、MS、NMR 等のスペクトル

a) 紫外・可視部吸収スペクトル

pH	試料濃度	温度	最大吸収波長/吸光度	モル吸光係数
7	$1.04 \times 10^{-4}$ M	25°C	268 nm/1.3017	$12500 \text{ M}^{-1}\text{cm}^{-1}$

ジノテフラン水溶液(pH7)のスペクトル 25°C

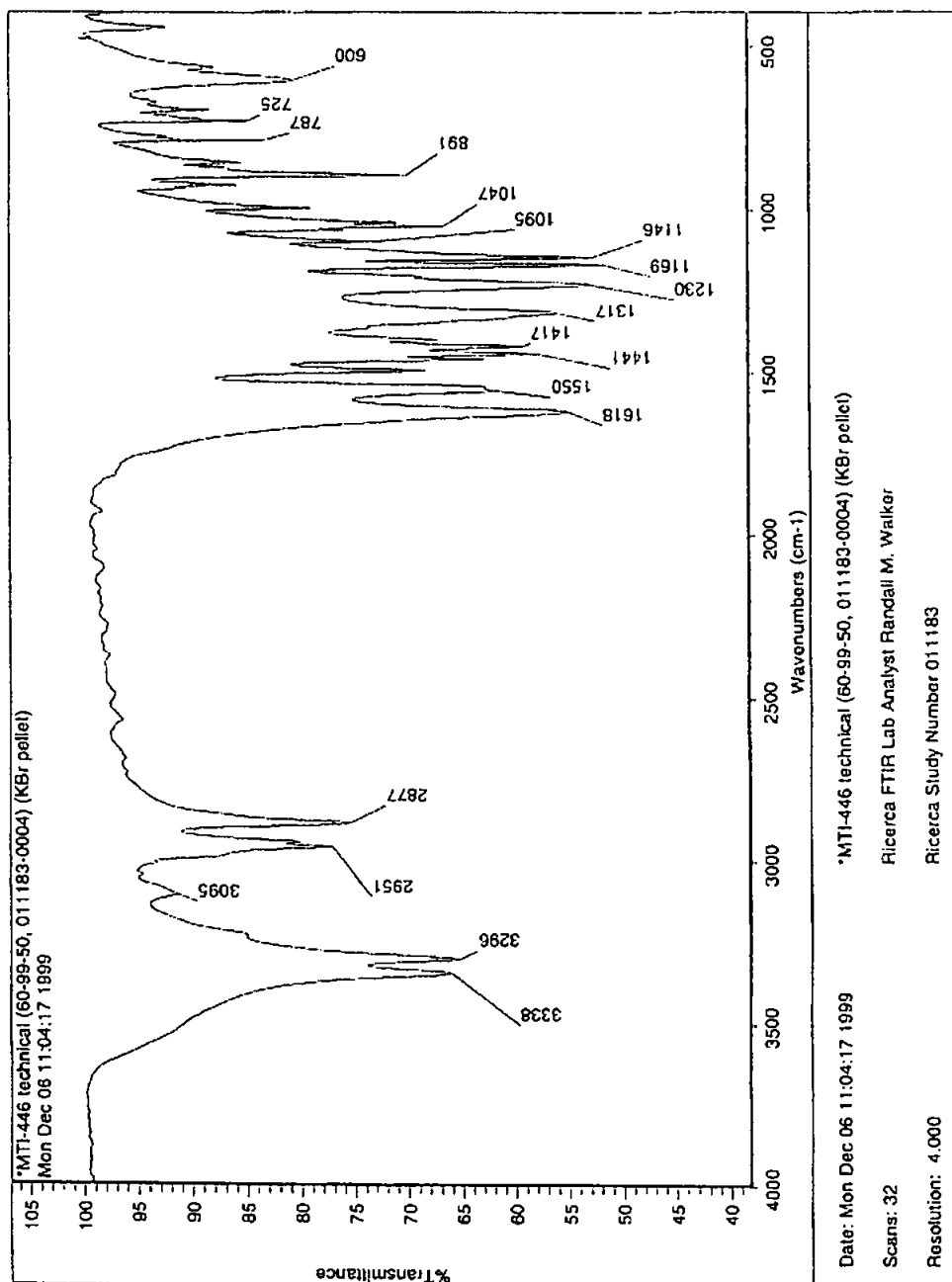


本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

b)赤外吸収スペクトル

赤外吸収スペクトル (cm <sup>-1</sup> )	スペクトルの帰属
3338, 3296	N-H 伸縮振動
2951, 2877	C-H 伸縮振動
1618	C=N 伸縮振動
1550	NO <sub>2</sub> 逆対称伸縮振動
1317	NO <sub>2</sub> 対称伸縮振動
1230, 1169, 1146	C-N 伸縮振動
1047	C-O-C 逆対称伸縮振動
600	NO <sub>2</sub> 変角振動

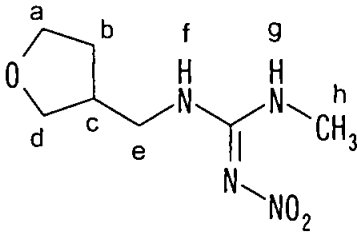
ジノテフラン KBr 錠剤のスペクトル





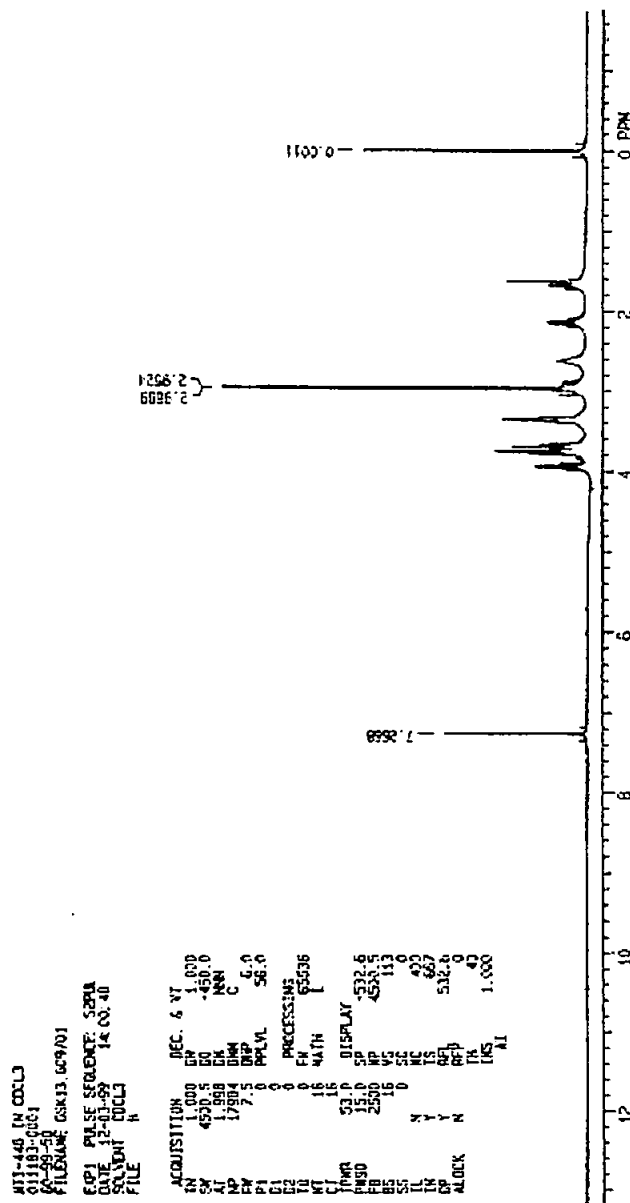
本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

c) <sup>1</sup>H 核磁気共鳴スペクトル



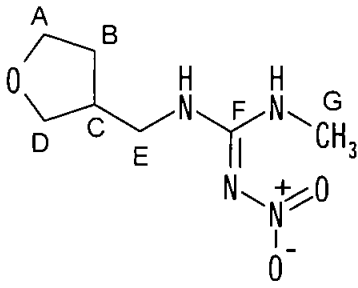
化学シフト	多重度	水素数	帰属
1.62-1.74	m	1H	b + 不純物
2.08-2.22	m	1H	b
2.56-2.68	m	1H	c
2.95, 2.97	d	3H	h
3.33, 3.35, 3.37	t	2H	a
3.64-3.72	m	3H	d
3.72-3.82	m		d + e
3.90-4.00	m	1H	e
ピーク無し	-	-	f + g

ジノテフラン重クロロホルム溶液のスペクトル



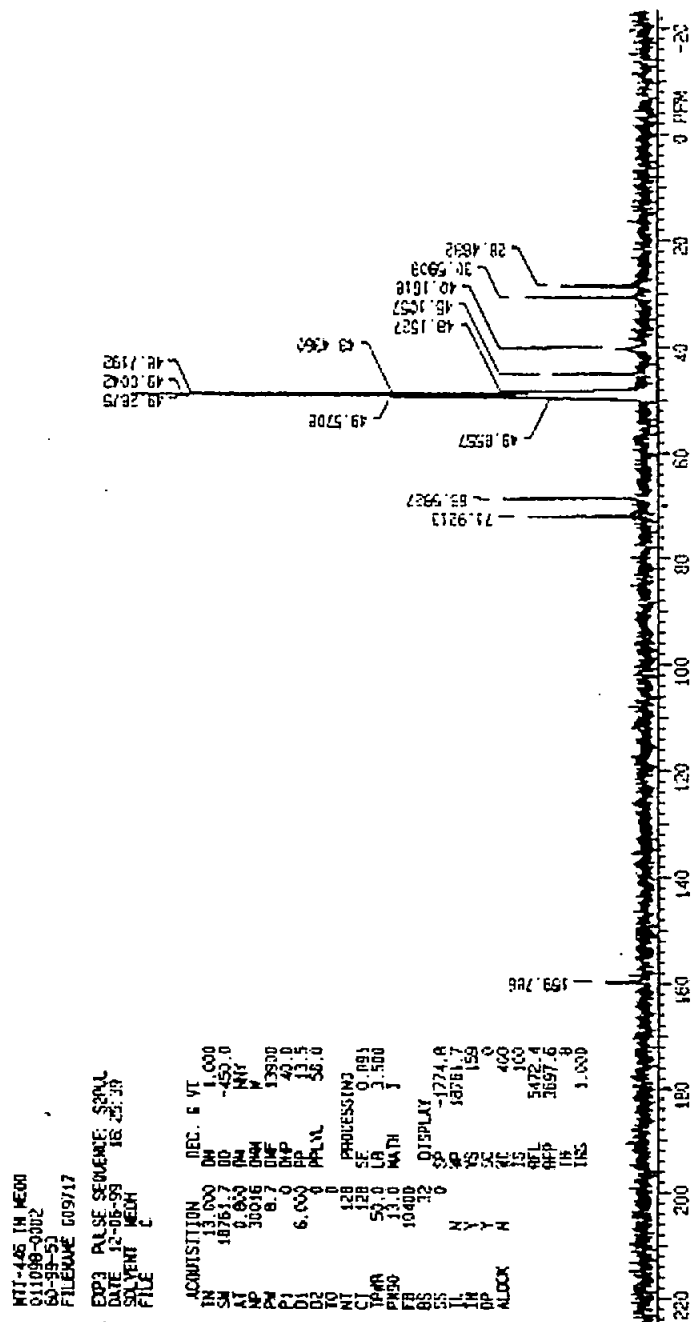
本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

d) <sup>13</sup>C 核磁気共鳴スペクトル



化学シフト (ppm)	帰属
28.6	G
30.7	B
40.3	C or E
45.3	E or C
48.3-50.0	溶媒
68.7	A
72.1	D
159.9	F

ジノテフラン重メタノール溶液のスペクトル

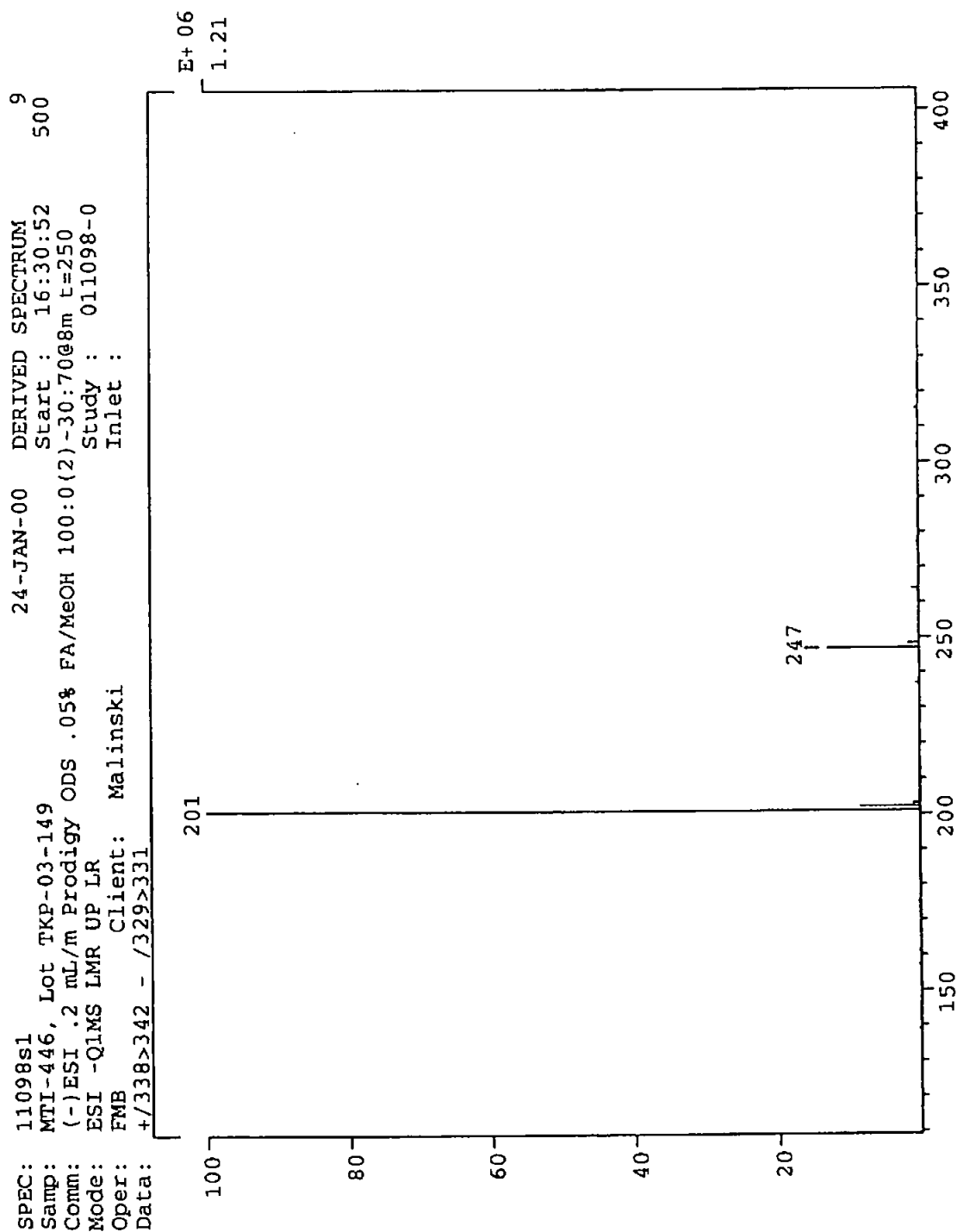


本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

e)質量スペクトル

ジノテフランの液体クロマトグラフィー/質量スペクトル

(移動相: 蟻酸水溶液/メタノール、イオン化法: 電子スプレーイオン化(陰性))



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

2-1. ジノテフランの主要代謝分解物の物理的・化学的性状

項目	測定値(測定条件)	測定方法/試験機関
1) 外観 臭気		
2) 密度		
3) 融点		
4) 沸点		
5) 蒸気圧		
6) 溶解度		
水		
ヘキサン		
ヘプタン		
キシレン		
トルエン		
ジクロロメタン		
アセトン		
メタノール		
エタノール		
酢酸エチル		
7) 解離定数		
8) オクタノール/水分配 係数(log P <sub>ow</sub> )		
9) 安定性		
①熱		
②加水分解性		
③水中光分解性		
緩衝液(滅菌)	-----	
自然水		

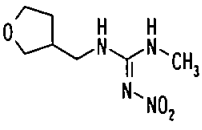
本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

2-2. ジノテフランの主要代謝分解物 の物理的・化学的性状

項目	測定値(測定条件)	測定方法/試験機関
1) 外観 臭気		
2) 密度		
3) 融点		
4) 沸点		
5) 蒸気圧		
6) 溶解度		
水		
ヘキサン		
ヘプタン		
キシレン		
トルエン		
ジクロロメタン		
アセトン		
メタノール		
エタノール		
酢酸エチル		
7) 解離定数		
8) オクタノール/水分配 係数(log P <sub>ow</sub> )		
9) 安定性		
①熱		
②加水分解性		
③水中光分解性		
緩衝液(滅菌)		
自然水		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

### 3. 原体の成分組成

区分	名称		構造式	分子式	分子量	含有量 (%)	
	一般名	化学名				規格値	通常値またはレンジ
有効成分    原体混在物	ジノテフラン	(RS)-1-メチル-2-ニトロ-3-(テトラヒドロ-3-フリルメチル)グアニジン		C <sub>7</sub> H <sub>14</sub> N <sub>4</sub> O <sub>3</sub>	202.21		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

#### 4. 製剤の組成

##### 1) 1%粒剤

ジノテフラン原体 .....	1.0%
鉍物質微粉等 .....	99.0%

##### 2) 2%粒剤

ジノテフラン原体 .....	2.0%
鉍物質微粉等 .....	98.0%

##### 3) 3%粒剤

ジノテフラン原体 .....	3.0%
鉍物質微粉等 .....	97.0%

##### 4) 12%粒剤

ジノテフラン原体 .....	12.0%
鉍物質微粉等 .....	88.0%

##### 5) 12%剤 (スタークル豆つぶ)

ジノテフラン原体 .....	12.0%
鉍物質微粉等 .....	88.0%

##### 6) 0.35%粉剤

ジノテフラン原体 .....	0.35%
鉍物質微粉、有機溶媒、凝集剤等 .....	99.65%

##### 7) 0.5%粉剤

ジノテフラン原体 .....	0.50%
鉍物質微粉、凝集剤等 .....	99.5%

##### 8) 20%水溶剤

ジノテフラン原体 .....	20.0%
界面活性剤等 .....	80.0%

##### 9) 50%水溶剤

ジノテフラン原体 .....	50.0%
界面活性剤等 .....	50.0%

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

10) 10%液剤	
ジノテフラン原体 .....	10.0%
有機溶剤、水等 .....	90.0%
11) 40%水和剤	
ジノテフラン原体 .....	40.0%
鉍物質微粉、界面活性剤等 .....	60.0%
12) 側条オリゼメートスタークル顆粒水和剤	
ジノテフラン原体 .....	4.0%
プロベナゾール原体 .....	48.0%
鉍物質微粉、界面活性剤等 .....	48.0%
13) ビームエイトスタークルゾル	
ジノテフラン原体 .....	10.0%
トリシクラゾール原体 .....	8.0%
水、界面活性剤等 .....	82.0%



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

### Ⅲ. 生物活性

#### 1. 活性の範囲

ジノテフランは稲、野菜、果樹等の重要な半翅目害虫全般ならびに、主要な鱗翅目、甲虫目、双翅目、アザミウマ目害虫に高い殺虫活性を有するスペクトラムの広い殺虫剤である。

ジノテフラン粒剤(1%)は、稲の湛水散布処理及び園芸作物の土壌混和処理にて、半翅目のウンカ・ヨコバイ類、アブラムシ類、コナジラミ類、鱗翅目のニカメイチュウ、コナガ、アオムシ、甲虫目のキスジノミハムシ、アザミウマ目のミナミキイロアザミウマ、双翅目のマメハモグリバエ等に高い殺虫効果を示す。

ジノテフラン粒剤(2%)は、稲の育苗箱処理でウンカ・ヨコバイ類、甲虫目のイネミズゾウムシ、イネドロオイムシ等に対して高い効果を示す。

ジノテフラン水溶剤(20%)は、茎葉散布にてアブラムシ類、コナジラミ類、アザミウマ類に加え、半翅目のコナカイガラムシ類、鱗翅目のシンクイムシ類、ハモグリガ類等に対して高い効果を示す。

ジノテフラン粉剤(0.5%)は、稲のウンカ・ヨコバイ類、ニカメイチュウに加え、半翅目のカメムシ類、直翅目のイナゴ類等に対して高い効果を示す。

以下にジノテフランの各種主要害虫に対するLD<sub>50</sub>値(またはLC<sub>50</sub>値)を示す。

目	害虫名	ステージ	処理方法	LD <sub>50</sub> またはLC <sub>50</sub>
鱗翅目	ハスモンヨトウ	2令幼虫	局所施用	21.5 μg/g
	ニカメイチュウ	4令幼虫	局所施用	6.0 μg/g
	コナガ	2令幼虫	根部浸漬	2.8ppm
	アオムシ	2令幼虫	根部浸漬	4.8ppm
半翅目	ツマグロヨコバイ	雌成虫	局所施用	0.21 μg/g
	トビイロウンカ	雌成虫	局所施用	0.08 μg/g
	ヒメトビウンカ	雌成虫	局所施用	0.18 μg/g
	セジロウンカ	雌成虫	局所施用	0.15 μg/g
	ワタアブラムシ	幼、成虫	根部浸漬	0.108ppm
	モモアカアブラムシ	幼、成虫	根部浸漬	0.04ppm
	シルバーリーフコナジラミ	幼虫	根部浸漬	0.138ppm
	オオトゲシラホシカメムシ	雌成虫	局所施用	0.038 μg/g
	クモヘリカメムシ	雌成虫	局所施用	0.033 μg/g
	ミナミアオカメムシ	成虫	局所施用	0.082 μg/g
フジコナカイガラムシ	幼虫	葉片浸漬	<12.5ppm	
甲虫目	イネミズゾウムシ	成虫	局所施用	10.0 μg/g
	イネドロオイムシ	成虫	局所施用	0.035 μg/g
	キスジノミハムシ	成虫	葉片浸漬	5.05ppm
直翅目	コバネイナゴ	雌成虫	散布	<30ppm

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

アザミウマ目	ミナミキイロアザミウマ	幼虫	散布	35.7ppm
双翅目	マメハモグリバエ	幼虫	土壌混和	1.8mg/株

(試験機関: 三井化学株式会社 ライフサイエンス研究所)

各種代謝分解試験で同定された主要な代謝分解物において、殺虫、殺菌および除草活性は認められなかった。

## 2. 作用機構

ラット培養細胞系を用いたシングルチャネルパッチクランプ法において、本剤を処理することにより発生するイオン電流量から、本剤にはニコチン性アセチルコリンレセプター(nAChR)に対するアゴニスト作用があることが判明した。また、発生したイオン電流を比較すると、既知のネオニコチノイド殺虫剤と同様のコンダクタンスレベルが観察された(筑波大学正野教授、平成 11 年実施)。

ワモンゴキブリ神経節を用いた試験系で、本剤の電気生理学的作用を検討した結果、薬剤処理直後は激しいスパイクが観察され、その後イオンチャネルの脱感作によりスパイク数は急激に減少した。その結果、本剤の神経節における主作用点は、nAChR 等の神経伝達部位と推定された。スパイク数の減少速度と殺虫活性を比較すると、既知のネオニコチノイド殺虫剤と類似の相関が認められた(大阪府立大学西村教授、平成 11 年実施)。

nAChR アゴニストである $[^3\text{H}]$ エピバチジン(EPI)及び nAChR アンタゴニストである $[^3\text{H}]$  $\alpha$ -ブンガロキシン(BGT)のワモンゴキブリ胸腹部神経系膜画分への特異的結合に対する阻害率を測定し、50%阻害濃度値  $\text{IC}_{50}$  を求めた。 $\text{IC}_{50}$  値と殺虫活性を比較した結果、本剤は既知のネオニコチノイド殺虫剤に比べて上記レセプターとの親和性が非常に弱く、殺虫活性との相関が低いことから別の作用点の存在や殺虫活性に及ぼす別の要因が示唆された(島根大学尾添教授、平成 11 年実施)。

以上のように本剤の昆虫に対する作用機構について、電気生理学的な観点からは主作用点は神経伝達部位と推定され、既知のネオニコチノイド殺虫剤と類似の相関が認められた。しかしながら、レセプターとのバインディングアッセイの結果から、本剤は既知のレセプターとの親和性が非常に弱く、既知のネオニコチノイド殺虫剤とは別の作用点の存在や殺虫活性に及ぼす別の要因が示唆された。

## 3. 作用特性と防除上の利点等

### (1) 浸透移行性

ジノテフラン水溶液(0.1ppm)に水稻苗の根部を 3 日間浸漬処理すると、茎葉部にてツマグロヨコバイに対して 100%の殺虫効果を示した。また、ジノテフラン水溶液(2ppm)にトマト苗の根部を 3 日間浸漬処理すると、トマト葉に寄生したシルバーリーフコナジラミ幼虫に対して 100%の殺虫効果を示した。従ってジノテフランは高い浸透移行性を有する薬剤である。

更に、ジノテフラン水溶液(100ppm)をきゅうり葉の表側に塗布すると、葉裏のワタアブラムシに対して 100%殺虫効果が認められることから、葉部浸透性を有する薬剤である。

### (2) 接触毒と経口毒作用の比較

オオトゲシラホシカメムシ雌成虫にジノテフランを局所施用すると  $\text{LD}_{50}$  値は 9.79ng/頭であり、経口投

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

与すると 1.17ng/頭であり、経口毒としてより高い作用を示した。一方、チャバネゴキブリ雄成虫を用いた実験では、局所施用による LD<sub>50</sub> 値は 0.03 μg/頭、経口投与すると 0.85 μg/頭であり、接触毒としてより高い作用を示した。従って、ジノテフランの接触及び経口投与による活性差は虫種により異なることが示唆される。

### (3) 他剤感受性低下害虫に対する効果

有機リン剤、カーバメート剤に対する感受性が低下したツマグロヨコバイの系統、カーバメート剤に対する感受性が低下したイネドロオイムシの系統、合成ピレスロイド剤に対する感受性が低下したワタアブラムシの系統に対し、ジノテフランの殺虫効果は高く、感受性系統とほぼ同等の LD<sub>50</sub> 値あるいは LC<sub>50</sub> 値が得られることから、ジノテフランはこれらの剤との交差抵抗性のないことが示唆される。

### (4) 残効性

ジノテフラン粒剤(2%)を 50g/箱にて水稻育苗箱処理すると、ツマグロヨコバイに対して 80%以上の高い殺虫効果が 70 日間以上持続した。またジノテフラン粒剤(1%)を 2g/株にてきゅうり苗の定植時に植穴土壌混和処理すると、28 日間以上にわたりワタアブラムシを低密度に抑えた。従って、ジノテフランは十分な残効性を有する薬剤である。

### (5) 耐雨性

ジノテフラン水溶剤(20%)の 2000 倍液をきゅうりに散布し、24 時間後に人工的に降雨(10mm/13分)処理したところ、ワタアブラムシに対する殺虫効果は無降雨条件下に比較しやや低下した程度であり、実用的には十分な効果が認められ、耐雨性を十分備えた薬剤である。

### (6) 他剤との混用

ジノテフラン水溶剤(20%)は、各種殺虫剤、各種殺菌剤と混用し使用しても活性の低下はなく、果樹及び野菜用に安心して使える薬剤である。

### (7) 作物に対する薬害

ジノテフラン粒剤(1%、2%)、水溶剤(20%)、粉剤(0.5%)を実用薬量の 2 倍の薬量で稲、果樹、野菜、花卉、花木等に処理したところ、薬害は認められず安心して使える薬剤である。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

#### IV. 適用及び使用上の注意事項

##### 1. 適用病害虫の範囲及び使用方法

###### 0.35%粉剤(スタークルシ粉剤 DL)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)
	カメムシ類	3~4kg/10a				

###### 0.50%粉剤 (スタークル粉剤 DL)

作物名	適用場所	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	—	ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメムシ類 イナゴ類 イネドロオイムシ ニカメイチュウ フタオビコヤガ	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)
だいち		カメムシ類 フタスジヒメハムシ ダイズサヤタマバエ			2回以内		3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
えだまめ							2回以内
水田作物、畑作物(休耕田)	ヨシ、オギ、ススキ、セタカアワ、ダチソウ等の多年生雑草が優占している休耕田	カメムシ類		—	3回以内		3回以内

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

10.0%液剤 (スタークル液剤 10)

作物名	適用場所	適用病虫害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジメフランを含む農薬の総使用回数
稲	—	ツマグロヨコバイ	1000倍	60~150L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリコプターによる散布は合計3回以内)
		カメムシ類 ウンカ類	300倍	25L/10a				
			8倍	0.8L/10a				
			30倍	3L/10a				
さとうきび**	—	カンシャコバネナガカメムシ	1000倍	100~300L/10a	収穫45日前まで	散布	5回以内 (粒剤は2回以内、液剤は3回以内)	
だいず	—	カメムシ類 フタスジヒメハムシ	8倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内	無人ヘリコプターによる散布 空中散布	3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
		カメムシ類						
えだまめ	—	カメムシ類 フタスジヒメハムシ	1000倍	100~300L/10a	—	—	—	2回以内
水田作物、畑作物 (休耕田)	ヨシ、オキ、ススキ、セイタカアワダチソウ等の多年生雑草が優占している休耕田	カメムシ類	1000倍	60~150L/10a	—	3回以内	散布	3回以内

\*\* 平成27年7月29日付 適用拡大申請中

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

0.010%液剤（オールスターズプレー）

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 時期	本剤の 使用回数	使用方法	シノテフランを 含む農薬の 総使用回数
ピーマン	コナジラミ類、アザミウマ類	原液	収穫前日 まで	2回以内	希釈せず そのまま 散布する	3回以内 (育苗期の 株元散布及び 定植時の土壌混 和は合計1回 以内、散布及び定 植後の株元 散布は合計2回 以内)
トマト ミニトマト	コナジラミ類					5回以内 (育苗期の株元散 布は1回 以内、定植時の 灌注は1回 以内、定植時の 土壌混和は 1回以内、散布及 び定植後の 株元散布は 合計2回以内)
なす	アザミウマ類、コナジラミ類					3回以内 (育苗期の株元散 布、定植時の土 壌混和及び 定植時の株元散 布は合計1回以 内、散布及び 定植後の株元散 布は合計2回 以内)
すいか	アブラムシ類		収穫7日前まで			4回以内 (育苗期の株元 散布及び定植時 の土壌混和は合 計1回以内、定植 後の株元 散布は1回 以内、散布は 2回以内)
とうがらし類	コナジラミ類、アザミウマ類		収穫前日 まで			3回以内 (定植時の土壌混 和は1回 以内、散布は 2回以内)
とうがらし (葉)			収穫14日前ま で			3回以内 (定植時の土壌混 和は1回 以内、散布は 2回以内)
にがうり	コナジラミ類		収穫前日 まで			3回以内 (定植時の土壌混 和は1回 以内、散布は 2回以内)
かぼちゃ	アブラムシ類					

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 時期	本剤の 使用回数	使用方法	シノテフランを 含む農薬の 総使用回数
ズッキーニ	アブラムシ類	原液	収穫前日 まで	2回以内	希釈せず そのまま散 布する	4回以内 (定植時の土壌 混和は1回 以内、定植後の 株元散布は1回 以内、散布は 2回以内)
メロン	コナジラミ類、アザミウマ類		収穫3日前まで			3回以内 (育苗期の株元散 布、定植時の土 壌混和及び 定植時の株元散 布は合計1回以 内、散布は2回 以内)
きゅうり	アブラムシ類、コナジラミ類、 アザミウマ類、ウリハムシ		収穫前日 まで			4回以内 (育苗期の株元散 布、定植時の土 壌混和及び定植 時の株元散布は 合計1回以内、定 植後の株元散布 は1回 以内、散布は 2回以内)
はくさい	アブラムシ類、キスジノミハムシ		収穫3日前まで			3回以内 (定植時の土壌混 和及び灌注は合 計1回以内、散布 は2回以内)
ブロッコリー	アブラムシ類					3回以内 (育苗期の株元散 布、定植時の土壌 混和及び灌注は 合計1回以内、散 布は2回以内)
キャベツ						3回以内 (は種時の 土壌混和は1回 以内、散布は 2回以内)
非結球あぶら な科葉菜類 (チンゲンサイを除 く) なばな類 かぶ	キスジノミハムシ					3回以内 (は種時及び 定植時の土壌混 和は合計1回 以内、散布は 2回以内)
チンゲンサイ			3回以内 (は種時及び 定植時の土壌混 和は合計1回 以内、散布は 2回以内)			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 時期	本剤の 使用回数	使用方法	シノテフランを 含む農薬の 総使用回数
だいこん	アブラムシ類	原液	収穫7日前まで	2回以内	希釈せず そのまま散 布する	5回以内 (は種時の播種土 壌混和は1回以 内、は種時の 全面土壌混和は 1回以内、粒剤の 散布は1回以内、 水溶剤及び液剤 の散布は 合計2回以内)
レタス 非結球レタス	アブラムシ類		収穫3日前まで			4回以内 (は種前の培土混 和は1回 以内、育苗期の 株元散布、定植 時の土壌混和及 び育苗トレイへの 灌注は合計 1回以内、 散布は2回 以内)
ねぎ	アザミウマ類					4回以内 (は種時の土壌混 和、育苗トレイへの 灌注及び 定植時の株元散 布は合計1回 以内、生育期の 株元灌注は1回 以内、散布及び 定植後の株元散 布は合計2回 以内)
にら	アブラムシ類、ネギアザミウマ		収穫前日 まで	3回以内 (生育期の株元灌 注は1回 以内、散布は 2回以内)		
アスパラガス	アザミウマ類、コナジラミ類、 ジウシホシクビナガハムシ、 カメムシ類			3回以内		3回以内
らっきょう	アザミウマ類					
未成熟 とうもろこし 畑わさび	アブラムシ類		収穫3日前まで			
セルリー			収穫14日前ま で	2回以内		3回以内 (定植時の土壌混 和は1回 以内、散布は 2回以内)



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 時期	本剤の 使用回数	使用方法	シノテフランを 含む農薬の 総使用回数
にんじん	アブラムシ類	原液	収穫7日前まで	2回以内	希釈せず そのまま散布する	4回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、生育期の株元灌注は1回以内、散布は2回以内)
だいず	カメムシ類、ダイスサヤタマハエ					3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
えだまめ	カメムシ類、ダイスサヤタマハエ					2回以内
さやえんどう	アブラムシ類、ハモグリハエ類		収穫前日まで	1回		3回以内 (株元散布は1回以内、散布は2回以内)
さやいんげん	アブラムシ類、コナジラミ類					2回以内
オクラ	アブラムシ類					1回
しょうが	クロハネキノコハエ類		収穫7日前まで	2回以内		3回以内 (灌注は1回以内、散布は2回以内)
てんさい	アブラムシ類、 テンサイモグリハナハエ、 カメノコハムシ					2回以内
ばれいしょ	ワタアブラムシ					1回
かんしょ	コナジラミ類		収穫3日前まで	2回以内		2回以内
すいぜんじな	アブラムシ類					3回以内 (土壌表面散布は1回以内、散布は2回以内)
ふき	コナジラミ類		収穫前日まで	3回以内		3回以内
りんご	アブラムシ類、キンモンホソガ、 シンクイムシ類、 キンモンハモグリガ、 コナカイガラムシ類、カメムシ類					
もも ネクタリン	アブラムシ類、モモハモグリガ、 シンクイムシ類、 カメムシ類、モモチョッキリゾウムシ					
なし	アブラムシ類、シンクイムシ類、 カメムシ類、ケムシ類、 コナカイガラムシ類					
かんきつ	アブラムシ類、ミカンハモグリガ、 カメムシ類、コアオハナムグリ、 ケシキスイ類、ミカンハエ、 アカマルカイガラムシ、 ヤノネカイガラムシ、 ミカンキジラミ、コナジラミ類、 チャノミドリヒメコバイ、 サンホーゼカイガラムシ、 チャノキイロアサミウマ、 コナカイガラムシ類					
小粒核果類	アブラムシ類、カメムシ類					
マンゴー	チャノキイロアサミウマ					

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 時期	本剤の 使用回数	使用方法	シノテフランを 含む農薬の 総使用回数	
キウイフルーツ	カメムシ類	原液	収穫前日 まで	3回以内	希釈せず そのまま散 布する	3回以内	
かき	カメムシ類、コナカイガラムシ類、 カキノヘタムシガ、 チャノキイロアザミウマ、 カキクダアザミウマ					4回以内 (塗布は1回 以内、散布は 3回以内)	
	ぶどう					カメムシ類、フトウトラカミキリ、 チャノキイロアザミウマ、 コナカイガラムシ類	3回以内 (塗布は1回 以内)
おうとう	オウトウショウジョウバエ、カメムシ類					2回以内	2回以内
びわ	カメムシ類、ヒワキンラム						
あけび(果実)	カメムシ類		収穫14日前 まで	発生初期		5回以内	5回以内 (土壌混和は 1回以内)
花き類・観葉植 物(きくを除く)	アブラムシ類、コナジラミ類						
きく	アブラムシ類、コナジラミ類、 カメムシ類						
樹木類 (つつじ類を 除く)	ケムシ類		5回以内				
つつじ類	ケムシ類、ツツジゲンバイ						5回以内

3.0%水和剤 (トレボンスターフロアブル)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	エトフェン <sup>®</sup> ロックス を含む農薬の 総使用回数	シノテフランを 含む農薬の 総使用回数
稲	カメムシ類 ウンカ類 コブノメイガ ツマグロヨコバイ フタオビコヤガ	1000倍	60~ 150L/10a	収穫14日 前まで	3回以内	散布	3回以内	4回以内 (育苗箱への 処理及び側 条施用は合 計1回以内、 本田での散 布、空中散 布、無人ヘリ 散布は合計 3回以内)
	カメムシ類	300倍	25L/10a					
だいた	カメムシ類	8倍	0.8L/10a		2回以内	無人ヘリコ プターに よる散布	2回以内	3回以内 (は種時の 土壌混和は 1回以内、 散布は2回 以内)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

4.0%水和剤（側条オリゼメートスタークル顆粒水和剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ ウンカ類	500g/10a	移植時	1回	ペースト肥料に混合し側条施肥田植機で施用する	4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	2回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内)

10.0%水和剤（ビームエイトスタークルゾル）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数	トリクラゾールを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメムシ類	1000倍	60～150L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱への処理および側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	4回以内 (育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)
		250～300倍	25L/10a					
		8倍	0.8L/10a			無人ヘリコプターによる散布		

15.0%水和剤（キックオフ顆粒水和剤）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントリニプロールを含む農薬の総使用回数	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
キャベツ	アブラムシ類 アザミウマ類 コナガ アオムシ ヨウムシ ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ	100倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm・使用土壌約1.5～4.0L)当り0.5L	定植前日～定植時	1回	灌注	4回以内 (定植時までの処理は1回以内、散布は3回以内)	3回以内 (育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び灌注は合計1回以内、散布は2回以内)
はくさい	アブラムシ類 コナガ アオムシ ヨウムシ ハイマダラノメイガ							3回以内 (定植時の土壌混和及び灌注は合計1回以内、散布は2回以内)
ブロッコリー	アブラムシ類 コナガ アオムシ ハスモンヨトウ							2回以内

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	クロラントリプロ ールを含む 農薬の 総使用回数	ジノテフランを 含む 農薬の 総使用回数
レタス	アブラムシ類 オオタバコガ カブラヤガ ナモグリハエ ハスモンヨトウ	100 倍	セル成型育苗トレイ 1 箱または ペーパーポット 1 冊 (30×60cm・ 使用土壌 約 1.5～4.0L) 当り 0.5L	定植 前日 ～ 定植時	1 回	灌注	4 回以内 (定植時まで の処理は 1 回以内、 散布は 3 回 以内)	4 回以内 (は種前の培 土混和は 1 回以内、育 苗期の株元 散布、定植 時の土壌混 和及び育苗ト レイへの灌注 は合計 1 回 以内、散布は 2 回以内)
非結球 レタス							4 回以内 (灌注は 1 回以内、 散布は 3 回 以内)	
ねぎ	ハモグリハエ類 アザミウマ類 シロイチモジヨトウ							

40.0%水和剤 (スケルカット顆粒水和剤)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ジノテフラン を含む 農薬の総 使用回数
りんご	コナカイガラムシ類	2000 倍	200～ 700L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

1.0%粒剤 (スタークル粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ イネドロオイムシ カメムシ類	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)
さとうきび**	カンシャコバネナガ カメムシ	6~9kg/10a	生育期 但し、収穫 45日前まで	2回以内		5回以内 (粒剤は2回以内、液剤は3回以内)
きゅうり	ハモグリバエ類	2g/株	育苗期	1回	株元散布	4回以内 (育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び定植時の株元散布は合計1回以内、定植後の株元散布は1回以内、散布は2回以内)
	ハモグリバエ類 アザミウマ類		定植時		植穴 土壌混和	
	コナジラミ類	1~2g/株	育苗期	株元散布		
	アブラムシ類	1g/株	生育期 但し、収穫 14日前まで	株元散布		
コナジラミ類 アブラムシ類	1~2g/株		定植時	植穴 土壌混和		
うり類 (漬物用)	アザミウマ類	2g/株	定植時	1回	植穴 土壌混和	3回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
	アブラムシ類 コナジラミ類	1~2g/株				
メロン	アブラムシ類	1g/株	育苗期	1回	株元散布	3回以内 (育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び定植時の株元散布は合計1回以内、散布は2回以内)
			定植時		植穴 土壌混和	
	コナジラミ類	1~2g/株	育苗期		株元散布	
			定植時		植穴 土壌混和	
	ハモグリバエ類 アザミウマ類	2g/株	育苗期		株元散布	
定植時			植穴 土壌混和			

\*\* 平成27年7月29日付 適用拡大申請中

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
すいか	ワタアブラムシ	2g/株	定植時	1回	植穴 土壌混和	4回以内 (育苗期の 株元散布及 び定植時の 土壌混和は 合計1回以 内、定植後 の株元散布 は1回以内、 散布は 2回以内)
			生育期 但し、収穫 21日前まで		株元散布	
			育苗期			
かぼちゃ	アブラムシ類 コナジラミ類	2g/株	定植時	1回	植穴 土壌混和	3回以内 (定植時の土 壌混和は1回 以内、散布は 2回以内)
にがうり	コナジラミ類		定植時			
ズッキーニ	コナジラミ類		1g/株		定植時	
	アブラムシ類	生育期 但し、 収穫14日前 まで		株元散布		
なす	ハモグリバエ類	2g/株	育苗期	2回以内	株元散布	3回以内 (育苗期の株 元散布、定 植時の土壌 混和及び定 植時の株元 散布は合計1 回以内、散布 及び定植後 の株元散布 は合計 2回以内)
	ハモグリバエ類 アザミウマ類	1~2g/株	定植時		植穴 土壌混和	
	コナジラミ類		育苗期		株元散布	
	アブラムシ類	1g/株	定植時		植穴 土壌混和	
	コナジラミ類 アブラムシ類		生育期 但し、 収穫前日まで		株元散布	
ピーマン	アザミウマ類	1~2g/株	定植時	1回	植穴 土壌混和	3回以内 (育苗期の株 元散布及び定 植時の土壌混 和は合計1回 以内、散布及 び定植後の株 元散布は合計 2回以内)
	アブラムシ類	1g/株	生育期 但し、 収穫前日まで	2回以内	株元散布	
			育苗期	1回		
	コナジラミ類					

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
トマト ミニトマト	ハモグリバエ類 コナジラミ類	1~2g/株	定植時	1回	植穴 土壌混和	5回以内 (育苗期の株元 散布は1回以 内、定植時の 灌注は1回以 内、定植時の 土壌混和は 1回以内、散布 及び定植後の 株元散布は 合計2回以内)
			育苗期		株元散布	
	コナジラミ類	1g/株	生育期 但し、 収穫前日まで	2回以内	植穴 土壌混和	
アブラムシ類	定植時					
とうがらし類	アザミウマ類	1~2g/株	定植時	1回	植穴 土壌混和	4回以内 (育苗期の株 元散布及び 定植時の土 壌混和は合 計1回以内、 定植後の株 元散布は 1回以内、 散布は2回 以内)
	アブラムシ類	1g/株	生育期 但し、 収穫14日前 まで		株元散布	
			育苗期			
とうがらし(葉)	アザミウマ類 アブラムシ類	1g/株	定植時 但し、収穫 30日前まで		植穴 土壌混和	3回以内 (定植時の 土壌混和は 1回以内、 散布は2回 以内)
キャベツ	アブラムシ類	2g/株	育苗期	1回	株元散布	3回以内 (育苗期の株 元散布、定 植時の土壌 混和及び灌 注は合計 1回以内、 散布は2回 以内)
	アオムシ コナガ	2~3g/株	定植時		植穴 土壌混和	
	ハイマダラノメイガ	3g/株				
はくさい	アブラムシ類	2g/株	定植時	1回	植穴 土壌混和	3回以内 (定植時の 土壌混和及 び灌注は合 計1回以内、 散布は 2回以内)
	アオムシ コナガ	2~3g/株				
	ハイマダラノメイガ	3g/株				
ブロッコリー	アブラムシ類 コナガ	2g/株				

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
ねぎ	アザミウマ類 ハモグリバエ類	6kg/10a	は種時	1回	播溝 土壌混和	4回以内 (は種時の土 壌混和、育 苗トレイへの 灌注及び定 植時の株元 散布は合計 1回以内、生 育期の株元 灌注は1回 以内、散布 及び定植後 の株元散布 は合計2回 以内)
			定植時			
	アザミウマ類	6～9kg /10a	生育期 但し、 収穫3日前 まで	2回以内	株元散布	
	ハモグリバエ類					
わけぎ*	アザミウマ類 ハモグリバエ類	6kg/10a	生育期 但し、 収穫21日前 まで	1回	株元散布	4回以内 (定植後の株 元散布は 1回以内、生 育期の株元 灌注は1回 以内、散布 は2回以内)
にんじん	ハモグリバエ類	9kg/10a	は種時	1回	播溝 土壌混和	4回以内 (は種時の土 壌混和は1 回以内、生 育期の株元 灌注は1回 以内、散布 は2回以内)
セルリー	アブラムシ類	2g/株	定植時		植穴 土壌混和	3回以内 (定植時の 土壌混和は 1回以内、 散布は2回 以内)
だいこん	アブラムシ類	6kg/10a	は種時	1回	播溝 土壌混和	5回以内 (は種時の播溝 土壌混和は 1回以内、は種 時の全面土壌 混和は1回 以内、粒剤の 散布は1回 以内、水溶剤 及び液剤の 散布は合計 2回以内)
	キスジノミハムシ	4～6kg/10a				
		9～12kg/10a				
	6kg/10a	生育期 但し、 収穫30日前 まで	散布			

\* 平成26年3月18日付 適用拡大申請中



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジメフランを含む農薬の総使用回数	
チンゲンサイ	キスジノミハムシ	6kg/10a	定植時	1回	土壌混和	3回以内 (は種時及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)	
	アブラムシ類		は種時		播溝土壌混和		
非結球あぶらな科葉菜類 (チンゲンサイを除く)	アブラムシ類 キスジノミハムシ					3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)	
かぶ							
なばな類 ほうれんそう	アブラムシ類	ナモグリハエ	培土1L 当り 15g		は種前	培土混和	4回以内 (は種前の培土混和は1回以内、育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び育苗トレイへの灌注は合計1回以内、散布は2回以内)
レタス 非結球レタス	アブラムシ類 ナモグリハエ	1g/株	育苗期後半		株元散布		
		2g/株	定植時		植穴土壌混和		
しゅんぎく	ハモグリバエ類	9kg/10a	は種時		1回	播溝土壌混和	3回以内 (は種時及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)
			定植時	植溝土壌混和			
いちご	ワタアブラムシ	0.5~1g/株				植穴土壌混和	1回
かんきつ (苗木)	ミカンハモグリガ	20g/株	育苗期	5回以内	株元散布	5回以内	
くわい	アブラムシ類	3kg/10a	収穫30日前まで	3回以内	散布	3回以内	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
ふき	アブラムシ類	20kg/10a	定植後～生育期 (草丈20cm頃まで) 但し、 収穫45日前まで	1回	土壌表面 散布	3回以内 (土壌表面 散布は1回 以内、散布は 2回以内)
しょうが	クロハネキノコバエ類	9kg/10a	生育期 但し、収穫14 日前まで		株元散布	3回以内 (株元散布は 1回以内、 散布は 2回以内)
オクラ	アブラムシ類		生育期 但し、収穫開始 14日前まで			
さやえんどう 実えんどう	ハモグリバエ類					
さやいんげん	アブラムシ類					
だいず	フタスジヒメハムシ	6kg/10a	は種時		播溝 土壌混和	3回以内 (は種時の 土壌混和は 1回以内、 散布は2回 以内)
しそ	マテイラコナカイガラムシ	2g/株 (但し、10a 当り25kg まで)	定植時	植穴 土壌混和	3回以内 (定植時の 土壌混和は 1回以内、 散布は 2回以内)	
食用ぎく	アブラムシ類	1g/株 (但し、10a 当り30kg まで)				
	マメハモグリバエ	2g/株 (但し、10a 当り30kg まで)				
茶	クワシロカイガラムシ	12kg/10a	摘採7日前 まで	2回以内	株元 土壌混和	2回以内
きく ガーベラ	マメハモグリバエ	2g/株 (但し、10a 当り30kg まで)	定植時	1回	植穴 土壌混和	5回以内 (土壌混和 は1回以内)
	コナジラミ類 アブラムシ類	1g/株 (但し、10a 当り30kg まで)				
	アブラムシ類	20kg/10a	生育期	5回以内	株元散布	
花き類・ 観葉植物 (きく、 ガーベラを 除く)	コナジラミ類 アブラムシ類	1g/株 (但し、10a 当り30kg まで)	定植時	1回	植穴 土壌混和	
	アブラムシ類	20kg/10a	生育期	5回以内	株元散布	
つつじ類	ツツジゲンバイ	6kg/10a	発生初期			5回以内

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

1.0%粒剤 (オンコルスタークル粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数	ヘンフラカルブを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	イネドロオウムシ イネミズゾウムシ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50g	移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	1回
きく	アザミマ類	6kg/10a	生育期	3回以内	株元散布	5回以内 (土壌混和は1回以内)	4回以内

2.0%粒剤 (スタークル箱粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネミズゾウムシ イネドロオウムシ イネクロカメムシ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50g	は種前	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)
			は種時覆土前～移植当日		育苗箱の上から均一に散布する。	
	移植3日前～移植当日					
	ニカメイチュウ フタオビコヤガ					

3.0%粒剤 (スタークル1キロH粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメムシ類	1kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布  無人ヘリコプターによる散布	4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

5.0%粒剤 (コラトップスタークル 1 キロ粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数	ピロキロンを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 ウンカ類 カメムシ類 ツマグロヨコバイ	1kg/10a	出穂5日 前まで	2回以内	散布	4回以内 (育苗箱への 処理及び 側条施用は 合計1回以内、 本田での 散布、空中散 布、無人ヘリ 散布は合計 3回以内)	3回以内 (育苗箱散布 は1回以内、 本田では 2回以内)
					無人ヘリコプ ターによる 散布		

12%粒剤 (アトラクトン箱粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	カメムシ類	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50g	移植当日	1回	育苗箱 の上から 均一に 散布する。	4回以内 (育苗箱への 処理及び 側条施用は 合計1回以内、 本田での散布、 空中散布、無人 ヘリ散布は合計 3回以内)
	ウンカ類 イネズグウムシ イトロイムシ イカリガエ		移植3日前 ～移植当日			

12.0%剤 (スタークル豆つぶ)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	カメムシ類	250g/10a	収穫 7日前 まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用 は合計1回以内、 本田での散布、空中散布、 無人ヘリ散布は合計3回以内)
	ウンカ類 ツマグロヨコバイ	250～500g/ 10a				

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

20.0%水溶剤（スタークル顆粒水溶剤）

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲		カメムシ類	2000倍	60～150L /10a	収穫7日前まで	3回以内		4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)
		ウンカ類 ツマグロヨコバイ	3000倍					
未成熟 とうもろこし		アブラムシ類 カメムシ類	2000倍				散布	3回以内
とうもろこし (子実)		ムキクビレアブラムシ カメムシ類						
ピーマン		アブラムシ類	3000倍	100～300L /10a	収穫前日まで	2回以内		3回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)
		コナジラミ類	2000～ 3000倍					
		アザミウマ類	2000倍					
トマト ミニトマト		コナジラミ類	100倍	セル成型育苗 トレイ1箱または ペーパーポット1冊 (30×60cm・ 使用土壌 約1.5～4.0L) 当り0.5L	定植時	1回	灌注	5回以内 (育苗期の株元散布は1回以内、定植時の灌注は1回以内、定植時の土壌混和は1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)
			2000～ 3000倍					
なす		アブラムシ類	3000倍	100～300L /10a	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内 (育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び定植時の株元散布は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)
		アザミウマ類	2000倍					

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数	
とうがらし類	—	アブラムシ類	3000 倍	100~300L /10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	4 回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、定植後の株元散布は 1 回以内、散布は 2 回以内)	
		コナジラミ類	2000~3000 倍						
		アザミウマ類	2000 倍						
とうがらし(葉)		コナジラミ類	2000~3000 倍		収穫 14 日前まで			3 回以内 (定植時の土壌混和は 1 回以内、散布は 2 回以内)	
		アブラムシ類	3000 倍						
		アザミウマ類	2000 倍						
かぼちゃ		アブラムシ類	2000 倍		収穫前日まで			3 回以内 (定植時の土壌混和は 1 回以内、散布は 2 回以内)	
きゅうり		アブラムシ類 コナジラミ類	2000~3000 倍						4 回以内 (育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び定植時の株元散布は合計 1 回以内、定植後の株元散布は 1 回以内、散布は 2 回以内)
		アザミウマ類 ウリハムシ	2000 倍						
すいか	アブラムシ類	2000~3000 倍	収穫 7 日前まで	4 回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、定植後の株元散布は 1 回以内、散布は 2 回以内)					
メロン	コナジラミ類	2000~3000 倍	収穫 3 日前まで	3 回以内 (育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び定植時の株元散布は合計 1 回以内、散布は 2 回以内)					
	アブラムシ類	3000 倍							
	アザミウマ類	2000 倍							

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数			
うり類 (漬物用)	—	コナジラミ類 アザミウマ類	2000 倍	100～300L /10a	収穫 7 日 前まで	2 回以内	散布	3 回以内 (定植時の土壌 混和は 1 回以 内、 散布は 2 回 以内)			
		アブラムシ類	2000～ 3000 倍								
にがうり		コナジラミ類	2000 倍		収穫前日 まで			4 回以内 (定植時の土壌 混和は 1 回以 内、定植後の株 元散布は 1 回 以内、散布は 2 回以内)			
ズッキーニ		アブラムシ類									
まくわうり		アブラムシ類 コナジラミ類	3000 倍		収穫 3 日 前まで			2 回以内			
きゅうり(葉)					収穫 前日まで						
きゅうり(花)		アブラムシ類	2000～ 3000 倍		収穫 3 日 前まで			3 回以内 (定植時の土壌 混和及び灌注は 合計 1 回以内、 散布は 2 回 以内)			
ブロッコリー					アブラムシ類 コナガ				100 倍	セル成型育苗 トレイ1箱または ペーパーポット1冊 (30×60cm・ 使用土壌 約 1.5～4.0L) 当り 0.5L	定植時
はくさい		アブラムシ類	2000～ 3000 倍		100～300L /10a			収穫 3 日 前まで	2 回以内	散布	3 回以内 (定植時の土壌 混和及び灌注は 合計 1 回以内、 散布は 2 回 以内)
		キスジノミハムシ	2000 倍								
キャベツ	アブラムシ類	2000～ 3000 倍	50～ 100 倍	セル成型育苗 トレイ1箱または ペーパーポット1冊 (30×60cm・ 使用土壌約 3L) 当り 0.5L	定植前日 ～定植時	1 回	灌注	3 回以内 (育苗期の株元 散布、定植時の 土壌混和及び 灌注は合計 1 回 以内、散布は 2 回以内)			
	アブラムシ類 コナガ アオムシ ハイマダラノメイガ										

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数	
レタス 非結球レタス	-	アブラムシ類	2000～3000倍	100～300L /10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	4回以内 (は種前の培土混和は1回以内、育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び育苗トレイへの灌注は合計1回以内、散布は2回以内)	
		ハスモンヨトウ	50倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm・使用土壌約1.5～4.0L) 当り0.5L	定植前日～定植時	1回	灌注		
チンゲンサイ	-	アブラムシ類	3000倍		100～300L /10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	3回以内 (は種時及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)
非結球あぶらな科葉菜類 (チンゲンサイを除く) なばな類 かぶ		キスジノミハムシ	2000倍	3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)					
		アブラムシ類	3000倍						
だいこん		アブラムシ類	2000～3000倍	1000倍					
	キスジノミハムシ	1000倍	3回以内		3回以内				
クレソン	-	アブラムシ類	3000倍		収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内	



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
ねぎ		アザミウマ類	2000倍	100～300L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	4回以内 (は種時の土壌混和、育苗トレイへの灌注及び定植時の株元散布は合計1回以内、生育期の株元灌注は1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)
		アザミウマ類 ハモグリハエ類 シロイチモジヨトウ タバエ ネギコガ	50倍	セル成型育苗 トレイ1箱または ペーパーポット1冊 (30×60cm・ 使用土壌 約1.5～4.0L) 当り0.5L	定植前 日～ 定植時	1回	灌注	
		アザミウマ類 ハモグリハエ類 トビイロヒョウタンゾウムシ	400倍	0.4L/m <sup>2</sup>	生育期 但し、収 穫14日前 まで		株元 灌注	
にら	ネギアザミウマ	2000倍				100～300L/10a	収穫 前日まで	2回以内
わけぎ*		アザミウマ類	2000倍	100～300L/10a	収穫 前日まで	2回以内	散布	4回以内 (定植後の株 元散布は1回 以内、生育期 の株元灌注は 1回以内、散 布は2回以内)
		アザミウマ類 ハモグリハエ類	400倍		400倍			
アスパラガス		コナジラミ類 アザミウマ類 カメムシ類 ジュウシホシクビナガハムシ	2000倍	100～800L/10a	収穫 前日まで	3回以内	散布	3回以内
らっきょう		アザミウマ類	2000倍	100～300L/10a	収穫 前日まで	3回以内	散布	3回以内
にんじん		アブラムシ類						
			トビイロヒョウタンゾウムシ	400倍	0.4L/m <sup>2</sup>	生育期 但し、 収穫21日 前まで	1回	株元 灌注

\* 平成26年3月18日付 適用拡大申請中

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数			
セルリー	—	アブラムシ類	2000 倍	100~300L /10a	収穫 14 日前まで	2 回以内	散布	3 回以内 (定植時の土壌混和は 1 回以内、散布は 2 回以内)			
ほうれんそう			3000 倍		収穫 3 日前まで			3 回以内 (は種時の土壌混和は 1 回以内、散布は 2 回以内)			
しゅんぎく			2000 倍		収穫前日まで	2 回以内 (は種時及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、散布は 2 回以内)					
あずき*			3000 倍		3 回以内	3 回以内					
だいず			カメムシ類 ダイズサヤタマハエ		2000 倍	収穫 7 日前まで		2 回以内	3 回以内 (は種時の土壌混和は 1 回以内、散布は 2 回以内)		
			フタスジヒメハムシ		3000 倍						
えだまめ			カメムシ類 ダイズサヤタマハエ		2000 倍	2 回以内		2 回以内	2 回以内		
			フタスジヒメハムシ		3000 倍						
未成熟さざげ			アブラムシ類		2000 倍	2 回以内		収穫前日まで	3 回以内 (株元散布は 1 回以内、散布は 2 回以内)		
さやいんげん			アブラムシ類 コナジラミ類								
さやえんどう 実えんどう			アブラムシ類 ハモグリハエ類 ウラナミジミ								
			しょうが							クロハネキノコハエ類	
オクラ			アブラムシ類								
ばれいしょ			ワタアブラムシ							収穫 7 日前まで	2 回以内
かんしょ			コナジラミ類							収穫 3 日前まで	1 回
せり	水田	アブラムシ類	2000 倍	収穫 7 日前まで			3 回以内			3 回以内	
せり (水耕栽培)	ガラス室等の施設			収穫 3 日前まで							
すいぜんじな	—			コナジラミ類			2 回以内				2 回以内
なんてん(葉)											
ふき	—	コナジラミ類	2 回以内	3 回以内 (土壌表面散布は 1 回以内、散布は 2 回以内)							

\* 平成 26 年 3 月 18 日付 適用拡大申請中

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数		
りんご	—	アブラムシ類 キンモンホソガ シンクイムシ類 キンモンハモグリガ コナカイガラムシ類 カメムシ類	2000 倍	200～700L /10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内		
もも ネクタリン		アブラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類 カメムシ類 モモチョッキリゾウムシ								
おうとう		オウトウショウジョウバエ カメムシ類							2 回以内	2 回以内
なし		アブラムシ類 シンクイムシ類 カメムシ類 ケムシ類 コナカイガラムシ類 チュウゴクナシキンラミ							3 回以内	3 回以内
かき		カメムシ類 コナカイガラムシ類 カキノヘタムシガ チャノキイロアサミウマ カキクダアサミウマ	4 回以内 (塗布は 1 回以内、散 布は3 回以内)							
ぶどう		フタテンヒメヨコバイ	3000 倍							
		カメムシ類 フトウトラカミキリ	2000 倍			3 回以内 (塗布は 1 回 以内)				
		チャノキイロアサミウマ コナカイガラムシ類	1000～ 2000 倍							
かんきつ		チャノキイロアサミウマ コナカイガラムシ類	1000～ 2000 倍							
		ゴマダラカミキリ	1000 倍							
		アブラムシ類 ミカンハモグリガ カメムシ類 コアオハナムグリ ケシキスイ類 ミカンバエ アカマルカイガラムシ ヤノネカイガラムシ サンホーゼカイガラムシ ミカンキンラミ コナシラミ類 チャノミドリヒメヨコバイ	2000 倍			3 回以内		3 回以内		
		アブラムシ類 カメムシ類								
	アブラムシ類 カメムシ類									
小粒核果類										
キウイフルーツ	カメムシ類	1000～ 2000 倍								
マンゴー	チャノキイロアサミウマ	2000 倍								

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数	
びわ	—	カメムシ類 ビワキジラミ	2000 倍	200～700L /10a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	2 回以内	
オリーブ*		カメムシ類			収穫 14 日 前まで				
あけび(果実)				200～400L /10a	摘採 7 日 前まで				
茶		チャノホソガ チャノトリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ ツマグロアオカスミカメ コカンアブラムシ	2000～ 3000 倍	100～300L /10a	収穫 7 日 前まで	2 回以内		3 回以内 (灌注は 1 回 以内、散布は 2 回以内)	
てんさい		アブラムシ類 テンサイモグリハナハエ	1000～ 2000 倍	5L/ペーパー ポット 6 冊 (2.5L/m <sup>2</sup> )	移植前	1 回			灌注
		カメコハムシ	100～ 200 倍						
		アブラムシ類 テンサイモグリハナハエ テンサイトビハムシ	100～ 240 倍	6L/ペーパー ポット 6 冊 (3L/m <sup>2</sup> )					
かんきつ (苗木)		ミカンハモグリガ	50 倍	100mL/株	育苗期	5 回以内		株元 灌注	5 回以内
わさび		アブラムシ類 ナトビハムシ	2000 倍	100～ 300L/10a	畑育苗期	3 回以内		散布	3 回以内
畑わさび		アブラムシ類	3000 倍		100～ 300L/10a	収穫 3 日 前まで			2 回以内
しそ(花穂) しそ科葉菜類 (しそ、バジル を除く)	3 回以内 (定植時の土壌 混和は 1 回 以内、散布は 2 回以内)								
しそ	2 回以内								
バジル	アブラムシ類 コナジラミ類	3000 倍	100～ 300L/10a		収穫 7 日 前まで	2 回以内	散布		2 回以内
しよくよう ほおずき 食用ミニバラ 食用カーネーション 食用パンジー 食用金魚草 アマランサス(茎葉)	アブラムシ類								
食用トレニア	コナジラミ類								
食用ぎく	アブラムシ類								3 回以内 (定植時の土 壌混和は 1 回 以内、散布は 2 回以内)

\* 平成 26 年 3 月 18 日付 適用拡大申請中

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
花き類・観葉植物 (きくを除く)	-	アブラムシ類 コナジラミ類	2000～ 3000倍	100～ 300L/10a	発生初期	5回以内	散布	5回以内 (土壌混和は 1回以内)
きく		ハモグリバエ類	1000倍	1L/m <sup>2</sup>			灌注	
		アブラムシ類 コナジラミ類	2000～ 3000倍	100～ 300L/10a			散布	
		カメムシ類	2000倍					
つつじ類		ツツジガンバイ ケムシ類	2000倍	100～300L /10a	発生初期	5回以内	散布	5回以内
樹木類 (つつじ類を 除く)		ケムシ類		100～700L /10a				
いね科牧草		アブラムシ類	2000倍	100～300L /10a	収穫7日 前まで	3回以内	散布	3回以内
水田作物、 畑作物 (休耕田)		カメムシ類		60～150L /10a	-			

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
かき	コナカイガラムシ類	20～40g /樹	発芽前 ～ 発芽期	1回	本剤 1g当り水 1mL の 割合で混合し、 主幹から主枝の粗皮 を環状に剥いだ部分 に塗布する。	4回以内 (塗布は 1回以内、 散布は3回 以内)
ぶどう			幼果期まで 但し、収穫 30日 前まで			3回以内 (塗布は1回 以内)

20.0%水溶剤 (わさび用緑風SG)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
わさび	アブラムシ類	2000倍	200 L /10a	収穫 14日 前まで	3回以内	散布	3回以内

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

50.0%水溶剤 (スタークルエア-50)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	散布液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	カメムシ類 ウンカ類	40 倍	0.8L/10a	収穫 7 日前 まで	3 回以内	無人ヘリコ プターによ る散布	4 回以内 (育苗箱への処理 及び側条施用は 合計 1 回以内、 本田での散布、 空中散布、無人 ヘリ散布は合計 3 回以内)
						空中散布	

8.0%液剤 (ウッドスター)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
さくら	アメリシロヒトリ	胸高直径 10cm～20cm: 12～24ml 20cm～30cm: 24～36ml 30cm～40cm: 36～48ml 40cm～50cm: 48～60ml 50cm～60cm: 60～72ml 以降、直径が 10cm 増す 毎に 12ml を追加する	幼虫発生前 ～発生初期 但し新葉展開後	3 回以内	樹幹注 入	5 回以内
やぶつば き	チャドクガ	注入部直径 6cm～10cm: 2ml 10cm～20cm: 2～12ml 20cm～30cm: 12～18ml 30cm～40cm: 18～24ml 40cm～50cm: 24～30ml 50cm～60cm: 30～36ml 以降、直径が 10cm 増す 毎に 6ml を追加する	幼虫発生前 ～発生初期			
プラタナス	プラタナスグンバイ	胸高直径 6cm～10cm: 2ml 10cm～20cm: 2～12ml 20cm～30cm: 12～18ml 30cm～40cm: 18～24ml 40cm～50cm: 24～30ml 50cm～60cm: 30～36ml 以降、直径が 10cm 増す 毎に 6ml を追加する	新葉展開後			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

### 8.0%液剤 (ウッドセーバー)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
デイゴ	デイゴヒコバチ	胸高直径 6cm～10cm : 15～30ml 10cm～20cm : 30～60ml 以降、直径が10cm増す毎 に30～60mlを追加する	成虫発生前 又は 虫えい形成期	3回以内	樹幹注入	5回以内

## 2. 使用上の注意事項

### 0.35%粉剤(スタークルL粉剤 DL)

- (1)本剤はできるだけ飛散を少なくするように製剤されており、一般の粉剤に比べ見かけ比重がやや大きく流動性が良いので、散布の際は散粉機の開度を1目盛程度しぼって散布すること。
- (2) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (3) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - ① ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散する恐れがある場合には使用しないこと。
  - ② 養蜂が行われている地区や受粉等を目的としてミツバチ等を放飼している地区で使用する場合は、関係機関(都道府県の畜産部局や病害虫防除所等)への連絡を徹底し、ミツバチ等の危害防止に努めること。

### 0.50%粉剤(スタークル粉剤 DL)

- (1)本剤はできるだけ飛散を少なくするように製剤されており、一般の粉剤に比べ見かけ比重がやや大きく流動性が良いので、散布の際は散粉機の開度を1目盛程度しぼって散布すること。
- (2) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (3) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - ① ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散する恐れがある場合には使用しないこと。
  - ② 養蜂が行われている地区や受粉等を目的としてミツバチ等を放飼している地区で使用する場合は、関係機関(都道府県の畜産部局や病害虫防除所等)への連絡を徹底し、ミツバチ等の危害防止に努めること。

### 10.0%液剤(スタークル液剤 10)

- (1)本剤を空中散布及び無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - ① 散布は各散布機種 of 散布基準に従って実施すること。
  - ② 少量散布(8倍液)の散布には、微量散布装置以外の散布器具は使用しないこと。
  - ③ 無人ヘリコプターによる散布にあっては、散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - ④ 散布中、薬液が漏れないように機体の散布用配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
  - ⑤ 散布薬液の飛散によって動植物及び自動車やカラートタンの塗装等へ影響を与えないよう、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
  - ⑥ 作業終了後は次の事項を守ること。
    - (a) 使用後の空の容器は放置せず、適切に処理すること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

- (b)機体散布装置は十分洗浄し薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
- (2)本剤を希釈倍数 300 倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用すること。
  - (3)蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
  - (4)ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
    - ① ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散する恐れがある場合には使用しないこと。
    - ② 養蜂が行われている地区や受粉等を目的としてミツバチ等を放飼している地区で使用する場合は、関係機関(都道府県の畜産部局や病害虫防除所等)への連絡を徹底し、ミツバチ等の危害防止に努めること。

#### 0.010%液剤(オールスタースプレー)

- (1)ぶどうの幼果期から果粒肥大期の散布は果粉の溶脱のおそれがあるので使用を避けること。
- (2)つまみ菜・間引き葉には使用しないこと。
- (3)蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (4)ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - ①ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
  - ②受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。
  - ③養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意する等、ミツバチの危害防止に努めること。
- (5)空容器は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- (6)本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。とくに適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 3.0%水和剤(トレボンスターフロアブル)

- (1)使用前によく振ってから使用すること。
- (2)本剤を無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - ① 散布は各散布機種種の散布基準に従って実施すること。
  - ② 少量散布(8 倍液)の散布には、微量散布装置以外の散布器具は使用しないこと。
  - ③ 無人ヘリコプターによる散布にあつては、散布機種種に適合した散布装置を使用すること。
  - ④ 散布中、薬液が漏れないように機体の散布用配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
  - ⑤ 散布薬液の飛散によって動植物及び自動車やカラートタンの塗料等へ影響を与えないよう、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
- (3)本剤を本田の水稲に対して希釈倍数 300 倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用すること。
- (4)蚕に対して長期間強い毒性があるので、薬液の飛散により桑の茎葉を汚染することのないように桑園のある地帯では使用しないこと。

なお、実施にあたっては、事前に蚕業関係者と安全対策について十分協議すること。
- (5)散布器具、作業衣などは桑用と必ず区別すること。



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

(6) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。

- ① ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
- ② 養蜂が行われている地区や受粉等を目的としてミツバチ等を放飼している地区で使用する場合は、関係機関(都道府県の畜産部局や病害虫防除所等)への連絡を徹底し、ミツバチ等の危害防止に努めること。

#### 4.0%水和剤 (側条オリゼメートスタークル顆粒水和剤)

- (1) 予め本剤を同重量の水に混ぜ、これをペースト肥料に加えて均一に混合し、側条施肥田植機で本田に施用する。
- (2) 本剤と混合したペースト肥料は、その日のうちに使用すること。
- (3) 同一の病害を防除対象とする育苗施用薬剤とは併用しないこと。
- (4) 移植後は湛水状態(湛水深 3~5cm)を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
- (5) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合には使用をさけること。
- (6) 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合は使用をさけること。

#### 10.0%水和剤 (ビームエイトスタークルゾル)

- (1) 本剤は長時間貯蔵しておくことと分離するので、使用の際は容器をよく振って均一な状態に戻してから所定量を取り出すこと。なお、希釈する場合は、所定量の水に加えてから十分攪拌すること。
- (2) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散流入しないように十分注意すること。
- (3) 散布薬液の飛散によって動植物特に野菜類の幼苗、なし(二十世紀、幸水、新水等)等の農作物の危被害や自動車の塗装等に被害を与えるおそれがあるなど、各分野に影響があるので、散布区域内の所物件に十分注意すること。
- (4) 本剤を本田の水稻に対して希釈倍数 250~300 倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用すること。
- (5) 本剤を無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は、次の注意事項を守ること。
  - ① 散布は散布機種種の散布基準にしたがって実施すること。
  - ② 微量散布装置以外の散布器具は使用しないこと。
  - ③ 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管とその他散布装置の十分な点検を行うこと。
  - ④ 養蜂が行われている地区では都道府県の畜産部局と連絡し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (6) 蚕に付着するおそれがある地域では使用しないこと。また、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (7) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - ① ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
  - ② 養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意する等、ミツバチの危害防止に努めること。
- (8) 作業終了後は次の項目を守ること。
  - ① 空容器は圃場などに放置せず、3 回以上水洗いし洗浄廃液は適切に処理すること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

②散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。

#### 15.0%水和剤（キックオフ顆粒水和剤）

- (1)本剤を使用する際は、調製液をセル成型育苗トレイまたはペーパーポット上方から灌注すること。また、本剤が土壌に十分に吸収されない恐れがあるので処理直前や直後の灌水はさけること。
- (2)はくさいに使用する場合は、軟弱徒長苗、高温乾燥時、あるいは過剰使用により、葉縁が退色するなど薬害を生ずる恐れがあるので、健苗を用意して、適切な温度管理につとめ、所定の使用液量、濃度、使用時期を厳守して使用すること。

#### 40.0%水和剤（スケルカット顆粒水和剤）

- (1) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (2) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - ① ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散する恐れがある場合には使用しないこと。
  - ② 養蜂が行われている地区や受粉等を目的としてミツバチ等を放飼している地区で使用する場合は、関係機関（都道府県の畜産部局や病害虫防除所等）への連絡を徹底し、ミツバチ等の危害防止に努めること。

#### 1.0%粒剤（スタークル粒剤）

- (1)水稲に使用する場合には、湛水状態（3cm 程度）で田面に均一に散布し、4～5 日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水やかけ流しをしないこと。
- (2)つまみ菜・間引き菜には使用しないこと。
- (3)本剤の株元散布を行う際は、処理直後に灌水すること。
- (4)かんきつに用いる場合は、今期に収穫見込のない苗木に対して株元散布し、処理後は軽く散水すること。なお、本剤を散布してから効果を発揮するまでにある程度の期間を要するため、対象害虫の発生前に予防的に散布すること。
- (5)ふきに使用する場合には、葉に付着した薬剤は払い落とすこと。
- (6)蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (7) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - ① ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散する恐れがある場合には使用しないこと。
  - ② 養蜂が行われている地区や受粉等を目的としてミツバチ等を放飼している地区で使用する場合は、関係機関（都道府県の畜産部局や病害虫防除所等）への連絡を徹底し、ミツバチ等の危害防止に努めること。

#### 1.0%粒剤（オンコルスタークル粒剤）

- (1)稲の育苗箱に使用する場合は次の事項に注意すること
  - ① 箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植すること。
  - ② 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生じる恐れがあるので注意すること。
  - ③ 稲苗の葉が濡れている場合は薬害を生じやすいので、葉についている露を払い落とし

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

てから薬剤を散布し、軽く散水すること。

- ④ 誤って過剰に使用すると葉先枯れ等の薬害を生じることもあるので、所定の使用量、使用方法を厳守すること。
  - ⑤ 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟堆肥多用田の場合は使用を避けること。
  - ⑥ 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきは丁寧に行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。移植後は直ちに湛水し、極端な浅水、深水は避けること。また、深植にならないように注意すること。
  - ⑦ 本田への移植後低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合は使用を避けること。また、移植後極端な高温が続くと予測される場合も使用を避けること。
  - ⑧ 処理した育苗箱を移植前に田面水中に浸さないこと。
- (3) 本剤の株元散布を行う際は、処理直後に灌水すること。
- (4) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (5) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
- 1) ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散する恐れがある場合には使用しないこと。
  - 2) 養蜂が行われている地区や受粉等を目的としてミツバチ等を放飼している地区で使用する場合は、関係機関(都道府県の畜産部局や病害虫防除所等)への連絡を徹底し、ミツバチ等の危害防止に努めること。

#### 2.0%粒剤(スタークル箱粒剤)

- (1) 本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水してから田植機にかけて移植すること。
- (2) 本剤を床土又は覆土に混和処理する場合、処理後速やかに使用すること。また本剤を処理した床土又は覆土を放置しないこと。
- (3) 本剤は水面に浮きやすいので、処理した育苗箱を移植前に田面水中に浸さないこと。
- (4) 葉先枯れなどの薬害を生じることもあるので、散布ムラがないよう均一に散布すること。

#### 3.0%粒剤(スタークル1キロH粒剤)

- (1) 本剤を使用する場合には、湛水状態(3cm程度)で田面に均一に散布し、4~5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水やかけ流しをしないこと。
- (2) 本剤を無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - ① 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整し、飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から5m離れた位置から圃場内に散布すること。
  - ② 散布薬剤の飛散によって他の動植物等へ影響を与えないよう散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
  - ③ 薬剤が水源池、飲料用水、養殖池、養魚田などに飛散、流入しないように十分注意すること。
  - ④ 使用後の空袋は圃場などに放置せず、安全な場所に廃棄すること。
  - ⑤ 使用後の機体散布装置は十分洗浄し、タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
  - ⑥ 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に責任者を決めて保管すること。
- (3) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (4) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

- ① ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散する恐れがある場合には使用しないこと。
- ② 養蜂が行われている地区や受粉等を目的としてミツバチ等を放飼している地区で使用する場合は、関係機関(都道府県の畜産部局や病害虫防除所等)への連絡を徹底し、ミツバチ等の危害防止に努めること。

#### 5.0%粒剤(コラトップスタークル 1 キロ粒剤)

- (1) 散布に当っては、湛水状態(水深3cm程度)で重複をさけ均一に散布し、散布後少なくとも4~5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水及びかけ流しをしないこと。
- (2) 本剤を散布した水田の田面水を他作物の灌水に用いないこと。
- (3) 本剤を無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - ① 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整し、飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から5m離れた位置から圃場内に散布すること。
  - ② 豆、野菜類には薬害を生ずるおそれがあるので、付近にある場合には、かからないように注意して散布すること。
  - ③ 散布薬剤の飛散によって他の動植物等へ影響を与えないよう散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
  - ④ 散布薬剤の飛散によって、自動車、壁などの塗装面が変色する恐れがあるので、散布薬剤が付着しないよう注意すること。
  - ⑤ 薬剤が水源池、飲料用水、養殖池、養魚田などに飛散、流入しないように十分注意すること。
  - ⑥ 使用後の空袋は圃場などに放置せず、安全な場所に廃棄すること。
  - ⑦ 使用後の機体散布装置は十分洗浄し、タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
  - ⑧ 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に責任者を決めて保管すること。
- (4) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (5) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - ① ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散する恐れがある場合には使用しないこと。
  - ② 養蜂が行われている地区や受粉等を目的としてミツバチ等を放飼している地区で使用する場合は、関係機関(都道府県の畜産部局や病害虫防除所等)への連絡を徹底し、ミツバチ等を危害防止に努めること。

#### 12.0%粒剤(アトラクトン箱粒剤)

- (1) 本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水してから田植機にかけて移植すること。
- (2) 葉先枯れなどの薬害を生じることもあるので、散布ムラがないよう均一に散布すること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

#### 12.0%剤(スタークル豆つぶ)

- (1) 本剤を使用する場合には、湛水状態(3~5cm程度)で田面に均一に散布し、4~5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水やかけ流しをしないこと。
- (2) 藻類などの水面浮遊物が多い場合は、本剤の拡散が不十分になるおそれがあるため、周縁部散布を避け、本田内で水田全面に散布すること。
- (3) 本剤は吸湿性があるので、濡れた手で作業したり、降雨で濡れたりすることがないように注意すること。また、開封後は早めに使用すること。
- (4) 稲の葉鞘部に豆つぶ剤がはさまると、局部的に薬害を生じることがあるが、収量への影響はない。
- (5) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (6) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - ① ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
  - ② 養蜂が行なわれている地区では周辺への飛散に注意するなど、ミツバチの危害防止に努めること。
- (7) 散布に使用した器具、容器の洗浄水及び空袋等は河川等に流さず、容器、空袋は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 20.0%水溶剤(スタークル顆粒水溶剤)

- (1) ぶどうの幼果期から果粒肥大期の散布は果粉の溶脱のおそれがあるので使用を避けること。
- (2) つまみ菜・間引き菜には使用しないこと。
- (3) 本剤をセル苗に使用する際は、調製液をセル成型育苗トレイまたはペーパーポット上方から灌注すること。また、本剤が土壌に十分に吸収されない恐れがあるので処理直前や直後の灌水はさけること。
- (4) かんきつの苗木に用いる場合は、今期に収穫見込のない苗木に対して使用すること。なお、本剤を処理してから効果を発揮するまでにある程度の期間を要するため、対象害虫の発生前に予防的に処理すること。
- (5) 本剤を使用したわさびの苗を畑地からわさび田に移植する場合には、使用した農薬がわさび田の水系に持ち込まれないよう、わさびの苗に付着した土を十分に洗い落とすこと。
- (6) 水耕栽培に使用する場合、本剤を使用した施設からの廃液をかんがい水路、排水路、河川等には絶対に流さず、適切に処理すること。
- (7) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (8) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - ① ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散する恐れがある場合には使用しないこと。
  - ② 養蜂が行われている地区や受粉等を目的としてミツバチ等を放飼している地区で使用する場合は、関係機関(都道府県の畜産部局や病害虫防除所等)への連絡を徹底し、ミツバチ等の危害防止に努めること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

#### 20.0%水溶剤(わさび用緑風SG)

- (1) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (2) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - ① ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散する恐れがある場合には使用しないこと。
  - ② 養蜂が行われている地区や受粉等を目的としてミツバチ等を放飼している地区で使用する場合は、関係機関(都道府県の畜産部局や病害虫防除所等)への連絡を徹底し、ミツバチ等の危害防止に努めること。
- (3) 本剤を使用する場合、県協議会の主催する講習会を必ず受けるとともに、関係機関の指導を受けること。
- (4) 本剤の使用にあたっては、県協議会の定める使用条件等を必ず守ること。

#### 50.0%水溶剤(スタークルエア-50)

- (1) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (2) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - ① ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散する恐れがある場合には使用しないこと。
  - ② 養蜂が行われている地区や受粉等を目的としてミツバチ等を放飼している地区で使用する場合は、関係機関(都道府県の畜産部局や病害虫防除所等)への連絡を徹底し、ミツバチ等の危害防止に努めること。
- (3) 本剤を空中散布及び無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - ① 散布は各散布機種 of 散布基準に従って実施すること。
  - ② 無人ヘリコプターによる散布にあつては、散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - ③ 散布中、薬液が漏れないように機体の散布用配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
  - ④ 散布薬液の飛散によって動植物及び自動車やカラートタンの塗料等へ影響を与えないよう、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
  - ⑤ 機体散布装置は十分洗浄し薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。

#### 8.0%液剤(ウッドスター)

- (1) 他剤との混用はさけること。
- (2) 樹幹の胸高直径または注入部直径が適用表に記載のない小径木や樹勢の弱った木、空洞や腐朽がある木、極端な老齢木には使用をさけること。
- (3) 薬剤注入孔は、ドリル等を用いて注入部位に斜め下方向に45度の角度で開けること。
- (4) 対象木が二股以上に分かれている場合は薬剤が問題なく分散する様にそれぞれを1本の木と見なして所定量を注入すること。
- (5) さくらに使用する場合は以下の内容に注意すること。
  - ① 薬剤の注入部位は主幹部の地上高 50~100cm 程度を標準とすること。
  - ② 直径 10mm、深さ 6~7cm の注入孔を開け、専用注入器を用いて1孔当たり 4mL を注入する。
  - ③ 開花直後や展葉初期には薬剤が分散しにくいので、落花終了後の新葉が十分に展開した後に注入すること。
  - ④ アメリカシロヒトリの幼虫発生前に注入することが望ましい。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

- ⑤ 花、葉、果実は食用に供しないこと。
- (6) やぶつばきに使用する場合は、以下の内容に注意すること。
  - ① 薬剤の注入部位は主幹部の地上高 10～30cm 程度を標準とすること。
  - ② 直径 7mm、深さ 6～7cm の注入孔を開け、専用注入器を用いて1孔当たり 2mL を注入する。
  - ③ 小径木に使用する場合は、適宜浅めの注入孔に、所定量を 2 孔以上に分散させること。
  - ④ チャドクガの幼虫発生前に注入することが望ましい。
  - ⑤ 種子は食用に供しないこと。
- (7) プラタナスに使用する場合は、以下の内容に注意すること。
  - ① 薬剤の注入部位は主幹部の地上高 50～100cm 程度を標準とすること。
  - ② 直径 7mm、深さ 6～7cm の注入孔を開け、専用注入器を用いて1孔当たり 2mL を注入する。
  - ③ 落葉期や整枝剪定後の展葉初期には薬液が分散しにくいので、新葉展開後に注入すること。
- (8) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - ① 開花期はミツバチ等に影響を及ぼすおそれがあるので、落花終了後に使用すること。
  - ② 養蜂が行われている地区や受粉等を目的としてミツバチ等を放飼している地区で使用する場合は、関係機関(都道府県の畜産部局や病害虫防除所等)への連絡を徹底し、ミツバチ等の危害防止に努めること。
- (9) 本剤は自動車、壁等の塗装面、大理石や御影石等に薬剤が付着すると変色するおそれがあるので、こぼさないように注意すること。

#### 8.0%液剤(ウッドセーバー)

- (1) 他剤との混用はさけること。
- (2) 樹幹の胸高直径または注入部直径が適用表に記載のない小径木や樹勢の弱った木、空洞や腐朽がある木、極端な老齢木には使用をさけること。
- (3) 薬剤注入孔は、ドリル等を用いて注入部位に斜め下方向に45度の角度で開けること。
- (4) 対象木が二股以上に分かれている場合は薬剤が問題なく分散する様にそれぞれを1本の木と見なして所定量を注入すること。
- (5) 薬剤の注入部位は主幹部の地上高50～100cm程度を標準とすること。
- (6) 直径6mm、深さ4～5cmの注入孔を開け、ノズル付きボトルを差し込んで1孔当たり30mLを注入する。また、加圧注入する場合は、専用の注入容器を用いること。
- (7) デイゴヒメコバチの成虫発生前又は虫えい形成期に時期を失しないように注入すること
- (8) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - ①開花期はミツバチ等に影響を及ぼすおそれがあるので、落花終了後に使用すること。
  - ②関係機関(都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (9) 本剤は自動車、壁等の塗装面、大理石や御影石等に薬剤が付着すると変色するおそれがあるので、こぼさないように注意すること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

3. 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

0.35%粉剤、0.50%粉剤、10.0%液剤、0.010%液剤 40.0%水和剤、1.0%粒剤、2.0%粒剤、3.0%粒剤、  
12.0%粒剤、12.0%剤、20.0%水溶剤、50.0%水溶剤、8.0%液剤

この登録に係る使用方法では該当がない。



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

## V. 農薬残留量

### 1. 作物残留

#### 1) ジノテフラン

##### (1)分析法の原理と操作概要

試料からアセトニトリル又は含水メタノールにより抽出し、ヘキサンで洗浄後、多孔性ケイソウ土カラム、ベンゼンスルホンプロピルシリル化シリカゲル(SCX)、グラファイトカーボン・エチレンジアミン-N-プロピルシリル化シリカゲルカラム(PSA)、トリメチルアミノプロピルシリル化シリカゲル(SAX)等を用いて精製する。または、試料からアセトニトリルで抽出し、多孔性ケイソウ土、中性アルミナ、グラファイトカーボン、グラファイトカーボン・PSA等のカラムで精製する。高速液体クロマトグラフ(UV、PDA)もしくは液体クロマトグラフ・質量分析計 LC-MS、LC-MS/MS)を用いて定量する。

##### (2)分析対象の化合物

(RS)-1-メチル-2-ニトロ-3-(テトラヒドロ-3-フリルメチル)グアニジン

分子式 :  $C_7H_{14}N_4O_3$

分子量 : 202.21

##### (3)残留試験結果

以降の表に示した。

分析値は定量限界の次の桁で四捨五入した。

平均値の求め方は JIS Z8401(1999)に従った。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					日本食品分析センター		三井化学㈱	
水稻 (玄米) 平成10年度	粒剤(2%) 50g/箱 育苗箱処理(1回) 粉剤(0.5%) 3kg/10a 散布(3回)	新潟植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			4	7	0.127	0.124	0.069	0.068
			4	14	0.098	0.094	0.099	0.096
			4	21	0.102	0.100	0.096	0.094
		和歌山植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			4	7	0.059	0.059	0.134	0.131
			4	14	0.080	0.078	0.089	0.088
			4	21	0.048	0.048	0.049	0.047
水稻 (稲わら) 平成10年度	粒剤(2%) 50g/箱 育苗箱処理(1回) 粉剤(0.5%) 3kg/10a 散布(3回)	新潟植防	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			4	7	0.20	0.19	0.17	0.16
			4	14	0.08	0.08	0.08	0.08
			4	21	0.06	0.06	<0.05	<0.05
		和歌山植防	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			4	7	0.30	0.29	0.22	0.21
			4	14	0.13	0.12	0.09	0.09
			4	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
水稻 (玄米) 平成11年度	粒剤(2%) 50g/箱 育苗箱処理(1回) 粒剤(1%) 4kg/10a 散布(1回) 粉剤(0.5%) 3kg/10a 散布(2回)	青森農試	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			4	7	0.128	0.127	0.094	0.092
			4	14	0.116	0.114	0.046	0.046
			4	21	0.068	0.066	0.049	0.048
		日植防研	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			4	7	0.056	0.054	0.064	0.063
			4	14	0.060	0.058	0.029	0.029
			4	21	0.048	0.048	0.040	0.040
水稻 (稲わら) 平成11年度	粒剤(2%) 50g/箱 育苗箱処理(1回) 粒剤(1%) 4kg/10a 散布(1回) 粉剤(0.5%) 3kg/10a 散布(2回)	青森農試	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			4	7	0.43	0.42	0.56	0.52
			4	14	0.12	0.12	0.12	0.11
			4	21	<0.05	<0.05	0.08	0.08
		日植防研	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			4	7	1.11	1.10	0.94	0.92
			4	14	1.08	1.05	0.98	0.98
			4	21	0.17	0.16	0.32	0.30
水稻 (玄米) 平成13年度	粒剤(2%) 50g/箱 育苗箱処理(1回) 粒剤(1%) 4kg/10a 散布(3回)	滋賀植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			4	7	0.01	0.01	0.02	0.02
			4	14	0.04	0.04	0.05	0.04
			4	21	0.04	0.04	0.04	0.04
		日植防研 (高知)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			4	7	0.01	0.01	0.01	0.01
			4	14	0.01	0.01	0.01	0.01
			4	21	0.01	0.01	0.01	0.01
水稻 (稲わら) 平成13年度	粒剤(2%) 50g/箱 育苗箱処理(1回) 粒剤(1%) 4kg/10a 散布(3回)	滋賀植防	0	-	<0.05	<0.05	<0.04	<0.04
			4	7	0.38	0.38	0.46	0.44
			4	14	0.21	0.20	0.36	0.32
			4	21	0.28	0.28	0.22	0.20
		日植防研 (高知)	0	-	<0.05	<0.05	<0.04	<0.04
			4	7	0.60	0.59	0.98	0.94
			4	14	0.17	0.17	0.16	0.16
			4	21	0.06	0.06	0.05	0.04

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					日本食品分析センター		三井化学㈱	
水稲 (玄米) 平成13年度	粒剤(2%) 50g/箱 移植当日 育苗箱処理(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 150L/10a 散布(3回)	日植防研	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			4	7	0.28	0.28	0.29	0.26
			4	14	0.39	0.38	0.44	0.40
			4	21	0.45	0.44	0.45	0.44
		新潟植防	4	28	0.32	0.32	0.31	0.30
			0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			4	7	0.25	0.25	0.26	0.25
			4	14	0.49	0.48	0.51	0.50
水稲 (稲わら) 平成13年度	粒剤(2%) 50g/箱 移植当日 育苗箱処理(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 150L/10a 散布(3回)	日植防研	0	-	<0.05	<0.05	<0.04	<0.04
			4	7	0.31	0.30	0.37	0.34
			4	14	0.15	0.15	0.15	0.14
			4	21	0.11	0.11	0.10	0.10
		新潟植防	4	28	0.08	0.07	0.10	0.10
			0	-	<0.05	<0.05	<0.04	<0.04
			4	7	0.67	0.66	0.84	0.81
			4	14	0.29	0.28	0.38	0.38
水稲 (玄米) 平成14年度	粒剤(2%) 50g/箱 育苗箱処理(1回) 液剤(10%) 1000倍 150L/10a 茎葉散布(3回)	群馬植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			4	7	0.23	0.23	0.24	0.23
			4	14	0.22	0.22	0.23	0.22
			4	21	0.30	0.29	0.29	0.28
		三重植防	4	28	0.23	0.22	0.23	0.22
			0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			4	7	0.15	0.15	0.19	0.19
			4	14	0.25	0.24	0.25	0.25
水稲 (稲わら) 平成14年度	粒剤(2%) 50g/箱 移植当日 育苗箱処理(1回) 液剤(10%) 1000倍 150L/10a 散布(3回)	群馬植防	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			4	7	1.06	1.02	1.55	1.54
			4	14	0.54	0.53	0.43	0.42
			4	21	0.09	0.09	0.10	0.10
		三重植防	4	28	<0.05	<0.05	0.06	0.06
			0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			4	7	0.86	0.83	0.55	0.55
			4	14	0.32	0.30	0.43	0.42
			4	19	0.21	0.21	0.20	0.20
			4	28	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果				
					公的分析機関		社内分析機関		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
					日本食品分析センター		三井化学㈱		
水稻 (玄米) 平成14・15年	粒剤(2%) 50g/箱 育苗箱処理(1回) 液剤(10%) 8倍 0.8L/10a 無人ヘリ(3回)	千葉植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			4	7	0.28	0.28	0.26	0.24	
			4	14	0.40	0.39	0.38	0.38	
			4	21	0.24	0.24	0.36	0.36	
			4	28	0.11	0.10	0.10	0.10	
						日本食品分析センター		化学分析コンサルタント	
		福岡植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			4	7	0.19	0.18	0.18	0.17	
			4	21	0.40	0.40	0.37	0.37	
			4	28	0.16	0.16	0.16	0.16	
水稻 (稲わら) 平成14・15年	粒剤(2%) 50g/箱 育苗箱処理(1回) 液剤(10%) 8倍 0.8L/10a 無人ヘリ(3回)	千葉植防	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
			4	7	3.10	3.00	2.68	2.64	
			4	14	0.31	0.30	0.47	0.46	
			4	21	0.20	0.20	0.22	0.22	
			4	28	0.05	0.05	0.13	0.12	
						日本食品分析センター		化学分析コンサルタント	
		福岡植防	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
			4	7	0.64	0.62	0.76	0.74	
			4	21	0.52	0.52	0.52	0.51	
			4	28	0.17	0.17	0.20	0.20	
水稻 (玄米) 平成16年度	粒剤(12%) 50g/箱 育苗箱処理(1回) 水和剤(40%) 100倍 500mL/箱 育苗箱灌注処理 (1回) ゾル(10%)1000倍 150L/10a 茎葉散布(3回)	石川植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	
			5	7	0.40	0.39	0.37	0.36	
			5	21	0.68	0.66	0.75	0.74	
			5	28	0.28	0.28	0.19	0.18	
							日本食品分析センター		三井化学㈱
		大分 肥料植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	
			5	7	0.43	0.43	0.42	0.42	
			5	21	0.54	0.54	0.55	0.54	
			5	28	0.40	0.40	0.42	0.42	
			水稻 (稲わら) 平成16年度	粒剤(12%) 50g/箱 育苗箱処理(1回) 水和剤(40%) 100倍 500mL/箱 育苗箱灌注処理 (1回) ゾル(10%)1000倍 150L/10a 茎葉散布(3回)	石川植防	0	-	<0.05	<0.05
5	7	2.25				2.22	3.6	3.6	
5	21	0.19				0.19	0.4	0.4	
5	28	0.07				0.06	<0.1	<0.1	
							日本食品分析センター		三井化学㈱
大分 肥料植防	0	-			<0.05	<0.05	<0.1	<0.1	
	5	7			0.89	0.88	0.8	0.8	
	5	21			0.10	0.10	0.1	0.1	
	5	28			0.05	0.05	0.1	0.1	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					日本食品分析センター		三井化学㈱	
水稲 (玄米) 平成16年度	粒剤(12%) 50g/箱 育苗箱処理(1回) 水和剤(40%) 100倍 500mL/箱 育苗箱灌注処理(1回) ゾル(10%)原液 200mL/10a 無人ヘリコプター散布 (3回)	岩手植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	7	0.40	0.40	0.37	0.36
			5	21	0.30	0.28	0.29	0.28
			5	28	0.27	0.26	0.25	0.24
		千葉県山武 植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	7	0.86	0.84	0.95	0.94
			5	21	0.26	0.25	0.25	0.24
			5	28	0.02	0.02	0.02	0.02
水稲 (稲わら) 平成16年度	粒剤(12%) 50g/箱 育苗箱処理(1回) 水和剤(40%) 100倍 500mL/箱 育苗箱灌注処理(1回) ゾル(10%)原液 200mL/10a 無人ヘリコプター散布 (3回)	岩手植防	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			5	7	0.56	0.54	1.26	1.22
			5	21	0.17	0.16	0.20	0.20
			5	28	0.13	0.13	0.16	0.16
		千葉県山武 植防	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			5	7	3.86	3.80	5.15	5.10
			5	21	0.38	0.37	0.39	0.39
			5	28	0.10	0.10	0.13	0.13
水稲 (玄米) 平成16年度	粒剤(12%) 50g/箱 育苗箱処理(1回) 水和剤(40%) 100倍 500mL/箱 育苗箱灌注処理(1回) 液剤(10%) 250倍 25L/10a パンクル散布(3回)	日植防研	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	7	0.24	0.24	0.19	0.18
			5	21	0.20	0.20	0.18	0.18
			5	28	0.08	0.08	0.07	0.07
		日植防研 (宮崎)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	7	0.24	0.24	0.28	0.28
			5	21	0.58	0.58	0.61	0.58
			5	28	0.49	0.48	0.50	0.49
水稲 (稲わら) 平成16年度	粒剤(12%) 50g/箱 育苗箱処理(1回) 水和剤(40%) 100倍 500mL/箱 育苗箱灌注処理(1回) 液剤(10%) 250倍 25L/10a パンクル散布(3回)	日植防研	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			5	7	0.20	0.20	0.23	0.22
			5	21	0.05	0.05	0.08	0.08
			5	28	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
		日植防研 (宮崎)	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			5	7	0.20	0.19	0.31	0.30
			5	21	<0.05	<0.05	0.07	0.06
			5	28	<0.05	<0.05	0.05	0.05
水稲 (玄米) 平成16年度	粒剤(12%) 50g/箱 育苗箱処理(1回) 水和剤(40%) 100倍 500mL/箱 育苗箱灌注処理(1回) ゾル(10%) 250倍 25L/10a パンクル散布(3回)	千葉 農総研	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	7	0.16	0.15	0.16	0.16
			5	21	0.08	0.08	0.06	0.06
			5	28	<0.01	<0.01	0.01	0.01
		岐阜植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	7	0.24	0.23	0.25	0.24
			5	21	0.23	0.22	0.20	0.20
			5	28	0.13	0.13	0.10	0.10
水稲 (稲わら) 平成16年度	粒剤(12%) 50g/箱 育苗箱処理(1回) 水和剤(40%) 100倍 500mL/箱 育苗箱灌注処理(1回) ゾル(10%) 250倍 25L/10a パンクル散布(3回)	千葉 農総研	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			5	7	0.38	0.37	0.40	0.40
			5	21	0.09	0.08	0.14	0.14
			5	28	0.07	0.06	0.13	0.13
		岐阜植防	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			5	7	0.45	0.44	0.37	0.36
			5	21	0.05	0.05	0.05	0.05
			5	28	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果					
					公的分析機関		社内分析機関			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
					日本食品分析センター		三井化学㈱			
水稻 (玄米) 平成16年度	箱粒剤(12%) 50g/箱 育苗箱処理(1回) 水和剤(40%) 100倍 500mL/箱 育苗箱灌注処理(1回) 粒剤(3%) 3kg/10a 散布(3回)	石川植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			5	7	0.08	0.08	0.04	0.04		
			5	21	0.06	0.06	0.05	0.04		
			5	28	0.03	0.03	0.02	0.02		
			5	35	0.01	0.01	0.01	0.01		
		大分 肥料植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			5	7	0.03	0.03	0.03	0.03		
			5	21	0.04	0.04	0.03	0.03		
			5	28	0.03	0.03	0.02	0.02		
			5	35	0.02	0.02	0.02	0.02		
水稻 (稲わら) 平成16年度	箱粒剤(12%) 50g/箱 育苗箱処理(1回) 水和剤(40%) 100倍 500mL/箱 育苗箱灌注処理(1回) 粒剤(3%) 3kg/10a 散布(3回)	石川植防	0	-	<0.05	<0.05	<0.1	<0.1		
			5	7	2.42	2.30	1.7	1.7		
			5	21	0.37	0.36	0.5	0.4		
			5	28	0.07	0.06	<0.1	<0.1		
			5	35	<0.05	<0.05	<0.1	<0.1		
		大分 肥料植防	0	-	<0.05	<0.05	<0.1	<0.1		
			5	7	0.88	0.86	0.8	0.8		
			5	21	0.11	0.11	0.2	0.2		
			5	28	0.06	0.06	<0.1	<0.1		
			5	35	<0.05	<0.05	<0.1	<0.1		
					日本食品分析センター		化学分析コンサルタント			
水稻 (玄米) 平成21年度	粒剤(12%) 50g/箱 育苗箱処理(1回) 液剤(10%) 1000倍 150L/10a 散布(3回)	日植防研 (牛久)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			4	7	0.32	0.32	0.29	0.28		
			4	14	0.36	0.36	0.33	0.32		
			4	28	0.29	0.29	0.28	0.28		
		日植防研 (成東)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			4	7	1.01	1.00	0.91	0.88		
			4	14	0.99	0.98	0.84	0.83		
			4	28	0.46	0.46	0.44	0.44		
		水稻 (稲わら) 平成21年度	粒剤(12%) 50g/箱 育苗箱処理(1回) 液剤(10%) 1000倍 150L/10a 散布(3回)	日植防研 (牛久)	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
					4	7	2.96	2.93	3.47	3.42
4	14				0.47	0.47	0.51	0.50		
4	28				0.12	0.12	0.11	0.11		
日植防研 (成東)	0			-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	4			7	3.62	3.62	4.24	4.23		
	4			14	2.45	2.39	2.98	2.94		
	4			28	0.14	0.14	0.18	0.18		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					日本食品分析センター		化学分析コンサルタント	
水稲 (玄米) 平成21年度	粒剤(12%) 50g/箱 育苗箱処理(1回) 液剤(10%) 8倍 0.8L/10a 無人ヘリ散布(3回)	青森植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			4	7	0.24	0.24	0.23	0.23
			4	14	0.23	0.23	0.27	0.27
			4	21	0.13	0.12	0.13	0.12
		福井植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			4	7	0.36	0.36	0.31	0.31
			4	14	0.12	0.12	0.12	0.12
			4	21	0.14	0.14	0.13	0.13
水稲 (稲わら) 平成21年度	粒剤(12%) 50g/箱 育苗箱処理(1回) 液剤(10%) 8倍 0.8L/10a 無人ヘリ散布(3回)	青森植防	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			4	7	1.45	1.44	1.33	1.28
			4	14	1.10	1.06	0.80	0.79
			4	21	0.17	0.17	0.11	0.10
		福井植防	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			4	7	2.69	2.61	3.98	3.85
			4	14	0.24	0.23	0.40	0.39
			4	21	0.10	0.10	0.13	0.13
水稲 (玄米) 平成21年度	液剤(10%) 300倍 25L/10a 散布(3回)	日植防協会 成東	0	-	-	-	<0.01	<0.01
			3	7	-	-	0.14	0.14
			3	14	-	-	0.21	0.20
			3	21	-	-	0.21	0.21
		日植防協会 高知	0	-	-	-	<0.01	<0.01
			3	7	-	-	0.14	0.14
			3	14	-	-	0.16	0.16
			3	21	-	-	0.16	0.16
		日植防協会 宮崎	0	-	-	-	<0.01	<0.01
			3	7	-	-	0.12	0.12
			3	14	-	-	0.11	0.10
			3	21	-	-	0.18	0.18
水稲 (稲わら) 平成21年度	液剤(10%) 300倍 25L/10a 散布(3回)	日植防協会 成東	0	-	-	-	<0.01	<0.01
			3	7	-	-	0.81	0.81
			3	14	-	-	0.72	0.72
			3	21	-	-	0.12	0.12
		日植防協会 高知	0	-	-	-	<0.01	<0.01
			3	7	-	-	0.27	0.26
			3	14	-	-	0.07	0.06
			3	21	-	-	0.07	0.07
		日植防協会 宮崎	0	-	-	-	<0.01	<0.01
			3	7	-	-	0.26	0.25
			3	14	-	-	0.08	0.08
			3	21	-	-	0.11	0.11

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果					
					公的分析機関		社内分析機関			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
					化学分析コンサルタント					
水稻 (乾燥籾米) 平成21年度	液剤(10%) 300倍 25L/10a 散布(3回)	日植防協会 成東	0	-	-	-	<0.01	<0.01		
			3	7	-	-	0.83	0.82		
			3	14	-	-	1.04	1.00		
			3	21	-	-	0.58	0.56		
		日植防協会 高知	0	-	-	-	<0.01	<0.01		
			3	7	-	-	0.82	0.81		
			3	14	-	-	0.52	0.52		
			3	21	-	-	0.44	0.44		
		日植防協会 宮崎	0	-	-	-	<0.01	<0.01		
			3	7	-	-	0.81	0.80		
			3	14	-	-	0.94	0.94		
			3	21	-	-	0.58	0.56		
					日本食品分析センター		JA全農 営農・技術センタ			
未成熟 とうもろこし (種子) 平成22年度	水溶剤(20%) 2000倍 200L/10a 散布(3回)	北海道植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			3	3	0.01	0.01	<0.01	<0.01		
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			3	14	0.01	0.01	<0.01	<0.01		
		石川植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			3	1	0.02	0.02	0.02	0.02		
			3	3	0.02	0.02	0.02	0.02		
			3	7	0.02	0.02	0.01	0.01		
			3	14	0.01	0.01	0.02	0.02		
		とうもろこし (子実) (乾燥子実) 平成22年度	水溶剤(20%) 2000倍 200L/10a 散布(3回)	日植防 (千葉)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
					3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
3	3				<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
3	7				<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
3	14				<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
福井植防	0			-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
	3			1	0.02	0.02	0.02	0.02		
	3			3	0.01	0.01	0.02	0.02		
	3			7	0.02	0.02	0.02	0.02		
	3			14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					日本食品分析センター		三井化学㈱	
だいず (乾燥子実) 平成12年度	粒剤(1%) 6kg/10a 播種時播溝 土壌混和(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 250・300 L/10a 散布(2回)	背森県 畑作園芸 試験場	0	-	<0.005	<0.005	0.005	0.005
			3	7	<0.005	<0.005	0.005	0.005
			3	14	<0.005	<0.005	0.007	0.006
			3	21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			3	28	<0.005	<0.005	0.005	0.005
		大分県 肥料植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			3	7	0.006	0.006	0.008	0.008
			3	14	0.014	0.014	0.015	0.012
			3	21	0.014	0.014	0.012	0.012
			3	28	0.006	0.006	0.007	0.006
だいず (乾燥子実) 平成17年度	粒剤(1%) 6kg/10a 播種時播溝 処理(1回) 液剤(10%) 8倍 0.8L/10a 無人ヘリ散布(2回)	北海道植防	0	-	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	7	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	14	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	21	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	28	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		岩手植防	0	-	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	7	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	14	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	21	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	28	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
だいず (乾燥子実) 平成17年度	粒剤(1%) 6kg/10a 播種時播溝 処理(1回) 粉剤(0.5%) 4kg/10a 散布(2回)	石川植防	0	-	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	7	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	14	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	21	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	28	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		大分 肥料植防	0	-	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	7	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	14	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	21	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	28	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
だいず (乾燥子実) 平成21年度	粒剤(1%) 播種時播溝土壌混和 6kg/10a(1回) フロアブル(3%) (トレボンスターフロアブル) 8倍 0.8L/10a 無人ヘリ散布(2回)	新潟植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	13	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	20	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		福井植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
あずき* (乾燥子実) 平成22・23年度	水溶剤(20%) 3000倍 200・173L/10a 散布(3回)	新潟農総研	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	0.09	0.09	0.09	0.09
			3	14	0.04	0.04	0.05	0.05
			3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		日植防 (茨城)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	0.05	0.05	0.04	0.04
			3	14	0.05	0.05	0.04	0.04
			3	14	0.05	0.05	0.04	0.04
			3	21	0.03	0.03	0.03	0.03

\* 適用拡大申請中(平成26年3月18日付)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					日本食品分析センター		三井化学㈱	
ばれいしょ (塊茎) 平成13年度	粒剤(1%) 6kg/10a 植付時植溝 土壌混和(1回) 水溶剤(20%) 1000倍 150・200L/10a 散布(2回)	北海道植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	0.03	0.03	<0.01	<0.01
			3	13	0.03	0.03	<0.01	<0.01
			3	28	0.02	0.02	0.01	0.01
			3	42	0.01	0.01	0.01	0.01
		日植防研	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	0.02	0.02
			3	14	<0.01	<0.01	0.02	0.02
			3	28	<0.01	<0.01	0.02	0.02
			3	42	<0.01	<0.01	0.01	0.01
					宮崎県総合農業試験場		日本環境科学㈱	
かんしょ (塊茎) 平成18年度	水溶剤(20%) 2000倍 300・200L/10a 散布(1回)	宮崎県 南那珂 農業改良 普及センター	0	-	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			1	3	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			1	7	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			1	14	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		徳島県立 農林水産 総合技術 支援センター	0	-	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			1	3	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			1	7	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
					日本食品分析センター		三井化学㈱	
てんさい (根部) 平成13年度	水溶剤(20%) 100倍 1L/冊 (6L/6冊・10a) 定植当日 苗澆注(1回) 1000倍 300・150L/10a 散布(2回)	北海道 中央農試	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	0.02	0.02	0.04	0.04
			3	14	<0.01	<0.01	0.02	0.02
			3	22	0.02	0.02	0.02	0.02
		北海道植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	6	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	13	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
					化学分析コンサルタント			
さとうきび** (茎) 平成26年度 (GLP)	粒剤(1%) 9kg/10a 散布(2回) 液剤(10%) 1000倍 278・200・174L/10a 散布(3回)	日植防高知	0	-	-	-	<0.01	<0.01
			5	45	-	-	<0.01	<0.01
			5	60	-	-	<0.01	<0.01
			5	75	-	-	<0.01	<0.01
		日植防宮崎	0	-	-	-	<0.01	<0.01
			5	45	-	-	<0.01	<0.01
			5	60	-	-	0.01	0.01
			5	75	-	-	<0.01	<0.01
		鹿児島植防	0	-	-	-	<0.01	<0.01
			5	45	-	-	0.07	0.07
			5	60	-	-	0.04	0.04
			5	75	-	-	0.02	0.02

\*\* 適用拡大申請中(平成27年7月29日付)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					日本食品分析センター		三井化学㈱	
だいこん (根部) 平成11年度	粒剤(1%) 6kg/10a 播種時播漙 土壌混和(1回)	日植防研	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			1	50	0.013	0.012	0.014	0.014
			1	57	0.026	0.026	0.015	0.014
			1	64	0.012	0.012	0.009	0.008
		日植防研 (宮崎)	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			1	56	0.008	0.008	0.011	0.010
			1	63	0.010	0.010	0.012	0.010
			1	70	0.008	0.008	0.008	0.008
だいこん (葉部) 平成11年度	粒剤(1%) 6kg/10a 播種時播漙 土壌混和(1回)	日植防研	0	-	<0.02	<0.02	<0.005	<0.005
			1	50	0.04	0.04	0.065	0.064
			1	57	0.03	0.03	0.042	0.041
			1	64	<0.02	<0.02	0.019	0.018
		日植防研 (宮崎)	0	-	<0.02	<0.02	<0.005	<0.005
			1	56	0.02	0.02	0.036	0.036
			1	63	0.03	0.03	0.039	0.038
			1	70	0.03	0.03	0.026	0.026
だいこん (根) 平成13年度	粒剤(1%) 6kg/10a 播種時播漙 土壌混和(1回) 6kg/10a 生育期 株元処理(1回) 水溶剤(20%) 1000倍 200L/10a 散布(2回)	日植防研	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			4	7	0.08	0.08	0.08	0.08
			4	14	0.04	0.04	0.03	0.03
			4	21	0.05	0.05	0.04	0.04
		岐阜植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			4	7	0.12	0.12	0.09	0.08
			4	14	0.07	0.06	0.05	0.05
			4	21	0.06	0.06	0.08	0.08
だいこん (葉) 平成13年度	粒剤(1%) 6kg/10a 播種時播漙 土壌混和(1回) 6kg/10a 生育期 株元処理(1回) 水溶剤(20%) 1000倍 200L/10a 散布(2回)	日植防研	0	-	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			4	7	1.52	1.50	1.28	1.28
			4	14	0.56	0.56	0.53	0.50
			4	21	0.15	0.15	0.11	0.11
		岐阜植防	0	-	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			4	7	1.34	1.34	1.05	1.02
			4	14	0.24	0.24	0.16	0.16
			4	21	0.07	0.07	0.12	0.12

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					日本食品分析センター		三井化学㈱	
だいこん (根部) 平成15年度	粒剤(1%) 12kg/10a 播種前全面処理 土壌混和(1回) 6kg/10a 播種時播溝 処理(1回) 6kg/10a 生育期葉面散布 (1回) 水溶剤(20%) 1000倍 200・150L/10a 茎葉散布(2回)	日植防研 (茨城)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	7	0.12	0.12	0.09	0.08
			5	14	0.08	0.08	0.08	0.08
			5	21	0.08	0.08	0.08	0.08
		日植防研 (宮崎)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	7	0.08	0.08	0.07	0.07
			5	14	0.05	0.05	0.06	0.06
			5	21	0.05	0.05	0.04	0.04
だいこん (葉部) 平成15年度	粒剤(1%) 12kg/10a 播種前全面処理 土壌混和(1回) 6kg/10a 播種時播溝 処理(1回) 6kg/10a 生育期葉面散布 (1回) 顆粒水溶剤(20%) 1000倍 200・150L/10a 散布(2回)	日植防研 (茨城)	0	-	<0.05	<0.05	<0.02	<0.02
			5	7	1.98	1.94	2.07	1.99
			5	14	0.55	0.54	0.91	0.90
			5	21	0.26	0.26	0.31	0.30
		日植防研 (宮崎)	0	-	<0.05	<0.05	<0.02	<0.02
			5	7	4.19	4.12	3.94	3.80
			5	14	1.85	1.80	1.41	1.40
			5	21	0.50	0.48	0.94	0.90
かぶ (露地) (葉部) 平成16年度	粒剤(1%) 9kg/10a 播種時 土壌混和(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 150L・ 150~200L/10a 茎葉散布(2回)	北海道 道南農試	0	-	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
			3	3	2.10	2.08	1.60	1.51
			3	7	1.21	1.20	0.79	0.77
			3	14	0.33	0.32	0.21	0.20
		青森県 農総研	0	-	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
			3	3	2.86	2.82	2.89	2.80
			3	7	0.85	0.84	0.48	0.46
			3	14	0.19	0.19	0.11	0.11
かぶ (露地) (根部) 平成16年度	粒剤(1%) 9kg/10a 播種時 土壌混和(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 150L・ 150~200L/10a 茎葉散布(2回)	北海道 道南農試	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	3	0.09	0.08	0.10	0.10
			3	7	0.10	0.10	0.07	0.07
			3	14	0.08	0.08	0.06	0.06
		青森県 農総研	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	3	0.14	0.14	0.15	0.15
			3	7	0.08	0.08	0.07	0.06
			3	14	0.05	0.05	0.04	0.04
					愛知県農業総合試験場			
クレソン (施設) (茎葉) 平成20年度	水溶剤(20%) 3000倍 150L/10a 散布(3回)	愛知県 農総試 (幡豆郡 吉良町)	0	-	<0.4	<0.4	-	-
			3	3	0.9	0.9	-	-
			3	7	0.5	0.5	-	-
			3	14	<0.4	<0.4	-	-
		愛知県 農総試 (愛西市)	0	-	<0.4	<0.4	-	-
			3	3	1.1	1.1	-	-
			3	7	0.4	0.4	-	-
			3	14	<0.4	<0.4	-	-

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果					
					公的分析機関		社内分析機関			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
					日本食品分析センター		三井化学㈱			
はくさい (茎葉) 平成12年度	粒剤(1%) 3g/株 定植時植穴 土壌混和(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 200・200~ 300L/10a 散布(2回)	新潟農総研 (高冷地 農業技術 センター)	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
			3	3	0.246	0.238	0.323	0.320		
			3	7	0.155	0.150	0.165	0.160		
			3	14	0.110	0.106	0.097	0.091		
			3	21	0.046	0.044	0.060	0.058		
		日植防研 (高知)	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
			3	3	0.251	0.240	0.436	0.426		
			3	7	0.235	0.234	0.310	0.309		
			3	14	0.145	0.139	0.169	0.167		
			3	21	0.091	0.086	0.094	0.092		
はくさい (茎葉) 平成18・17 年度	水溶剤(20%) 100倍, 500ml/トレイ 定植時灌注処理 (1回) 2000倍, 300L/10a 散布(2回)	日植防研 (牛久)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			3	3	0.51	0.50	0.55	0.54		
			3	7	0.33	0.32	0.14	0.14		
			3	14	0.06	0.06	0.07	0.06		
		長野植防 (南信)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			3	3	0.12	0.12	0.13	0.12		
			3	7	0.38	0.38	0.36	0.36		
			3	14	0.13	0.13	0.14	0.14		
							日本食品分析センター		化学分析コンサルタント	
			キャベツ (葉球) 平成10年度	粒剤(1%) 3g/株 定植時植穴 土壌混和(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 200L/10a 散布(2回)	日植防研	0	-	<0.005	<0.005	<0.005
3	3	0.823				0.820	0.672	0.656		
3	7	0.428				0.422	0.398	0.383		
3	14	0.288				0.286	0.222	0.204		
兵庫植防	0	-			<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
	3	3			0.783	0.762	0.562	0.561		
	3	7			0.924	0.913	0.704	0.694		
	3	14			0.776	0.774	0.409	0.408		
					日本食品分析センター		化学分析コンサルタント			
	キャベツ (葉球) 平成15年度	水溶剤(20%) 50倍, 500ml/箱 灌注処理(1回) 粒剤(1%) 3g/株 定植時植穴 土壌混和(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 200L/10a 葉面散布(2回)			兵庫植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01
4			3	0.09		0.08	0.18	0.18		
4			7	0.08		0.08	0.16	0.16		
4			14	0.08		0.08	0.09	0.08		
日植防研 (高知)			0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			4	3	0.18	0.18	0.28	0.27		
			4	7	0.13	0.12	0.20	0.20		
			4	14	0.15	0.14	0.18	0.18		
							日本食品分析センター		三井化学㈱	
			こまつな (施設) (茎葉) 平成16年度	粒剤(1%) 6kg/10a 定植時 植溝土壌混和 (1回) 水溶剤(20%) 2000倍 150~200・ 200L/10a 茎葉散布(2回)	日植防研	0	-	<0.01	<0.01	<0.02
3	3	3.24				3.17	2.46	2.43		
3	7	3.29				3.28	3.87	3.86		
3	14	2.05				2.02	1.61	1.58		
兵庫植防	0	-			<0.01	<0.01	<0.02	<0.02		
	3	3			1.37	1.36	1.25	1.18		
	3	7			0.94	0.92	0.68	0.66		
	3	15			0.41	0.40	0.34	0.34		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					日本食品分析センター		化学分析コンサルタント	
みずな (茎葉) 平成16年度	粒剤(1%) 6kg/10a 定植時 植溝土壌混和 (1回) 水溶剤(20%) 2000倍 200・50~100L/10a 茎葉散布(2回)	広島農技 センター (東広島市)	0	-	-	-	<0.01	<0.01
			3	3	-	-	3.44	3.32
			3	7	-	-	0.53	0.53
			3	14	-	-	0.18	0.18
		日植防研 (高知)	0	-	-	-	<0.01	<0.01
			3	3	-	-	4.12	4.06
			3	7	-	-	1.34	1.30
			3	14	-	-	0.38	0.38
					日本食品分析センター		三井化学㈱	
チンゲンサイ (施設) (茎葉) 平成15年度	粒剤(1%) 6kg/10a 定植時 植溝土壌混和 (1回) 水溶剤(20%) 2000倍 150~300・ 200L/10a 茎葉散布(2回)	埼玉植防	0	-	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
			3	3	3.94	3.92	3.65	3.62
			3	7	1.65	1.61	2.94	2.94
			3	14	1.73	1.70	0.64	0.63
		徳島 農水総技 センター	0	-	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
			3	3	1.49	1.48	2.07	2.02
			3	7	1.06	1.03	0.81	0.81
			3	14	0.48	0.48	0.74	0.68
ブロッコリー (花蕾) 平成13年度	粒剤(1%) 2g/株 定植時植穴 土壌混和(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 200L/10a 散布(2回)	日植防研	0	-	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			3	3	0.68	0.64	0.51	0.50
			3	7	0.31	0.31	0.29	0.28
			3	14	0.04	0.04	0.04	0.04
		日植防研 (高知)	0	-	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			3	3	0.12	0.12	0.14	0.14
			3	7	0.11	0.11	0.10	0.10
			3	14	0.04	0.04	0.04	0.04
			3	21	0.04	0.04	0.02	0.02
ブロッコリー (花蕾) 平成17年度	水溶剤(20%) 50倍 500mL/トレイ 灌注処理(1回) 2000倍 150・200L/10a 散布(2回)	日植防研 (茨城)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	3	0.74	0.70	0.87	0.86
			3	7	0.34	0.33	0.41	0.41
			3	14	0.07	0.07	0.07	0.06
		日植防研 (高知)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	3	0.21	0.20	0.29	0.28
			3	7	0.29	0.28	0.16	0.16
			3	14	0.05	0.05	0.05	0.05
					長野県農業総合試験場			
わさび (施設) (根茎) 平成17年度	水溶剤(20%) 2000倍 200L/10a 散布(3回)	長野県 安曇野市	0	-	<0.1	<0.1	-	-
			3	7	0.5	0.4	-	-
			3	14	0.4	0.4	-	-
			3	21	0.2	0.2	-	-
		静岡県 伊豆市	0	-	<0.1	<0.1	-	-
			3	7	0.2	0.2	-	-
			3	14	<0.1	<0.1	-	-
			3	21	<0.1	<0.1	-	-
			3	28	<0.1	<0.1	-	-
			3	28	<0.1	<0.1	-	-

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位)	剤型(有効成分) 使用量 及び	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果								
					公的分析機関		社内分析機関						
					最高値	平均値	最高値	平均値					
畑わさび (施設) (根茎) 平成24年度	水溶剤(20%) 2000倍 486~1025・300L /10a 散布(3回)	島根県 (鹿足郡)	0	-	島根県農業技術センター	<0.02	<0.02	-	-				
			3	3						0.72	0.70	-	-
			3	7						0.37	0.36	-	-
			3	14						0.23	0.22	-	-
		徳島県立農林水産総合 技術支援センター											
		徳島県 (那賀郡)	0	-	徳島県立農林水産総合 技術支援センター	<0.02	<0.02	-	-				
			3	3						1.54	1.54	-	-
			3	7						1.21	1.20	-	-
			3	14						0.51	0.51	-	-
							日本食品分析センター	化学分析コンサルタント					
なばな (茎葉) 平成16年度	粒剤(1%) 6kg/10a 定植時植溝 土壌混和(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 250・150L/10a 散布(2回)	三重植防	0	-	日本食品分析センター	-	-	<0.05	<0.05				
			3	1						-	-	4.39	4.38
			3	3						-	-	1.49	1.48
			3	7						-	-	0.97	0.96
		日植防研 (高知)	0	-	日本食品分析センター	-	-	<0.05	<0.05				
			3	1						-	-	7.75	7.34
			3	3						-	-	3.33	3.18
			3	7						-	-	1.33	1.33
		オータムホエム (施設) (茎葉) 平成16年度	粒剤(1%) 6kg/10a 定植時植溝土壌 混和(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 200・300L/10a 散布(2回)	福島植防 (郡山)	0	-	化学分析コンサルタント	-	-	<0.01	<0.01		
					3	1						-	-
3	3				-	-						4.25	4.24
3	7				-	-						2.74	2.74
新潟農総研 園芸研究 センター	0	-	化学分析コンサルタント	-	-	<0.01	<0.01						
	3	1						-	-	2.28	2.28		
	3	3						-	-	2.91	2.90		
	3	7						-	-	2.48	2.48		
しゅんぎく (施設) (茎葉) 平成16年度	水溶剤(20%) 2000倍 100・500mL/箱 茎葉散布(1回) 50倍 500mL/箱 灌注処理(1回) 粒剤(1%) 20kg/10a 定植時植溝 土壌混和(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 200L/10a 茎葉散布(2回)	群馬植防	0	-	化学分析コンサルタント	<0.1	<0.1	<0.05	<0.05				
			5	1						7.6	7.5	7.56	7.46
			5	3						4.6	4.6	6.47	6.42
			5	7						1.1	1.1	1.20	1.20
		兵庫植防	0	-	化学分析コンサルタント	<0.1	<0.1	<0.05	<0.05				
			5	1						11.9	11.4	12.7	12.7
			5	3						10.5	10.4	11.0	11.0
			5	7						7.0	6.9	7.19	7.16
5	14	3.8	3.8	5.66	5.54								

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位)	剤型(有効成分) 使用量 及び	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					日本食品分析センター		三井化学㈱	
レタス (施設) (茎葉) 平成12年度	粒剤(1%) 2g/株 定植時植穴 土壌混和(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 200・300L/10a 散布(2回)	日植防研	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			3	3	0.755	0.745	1.01	1.00
			3	7	0.628	0.607	0.942	0.935
			3	14	0.334	0.330	0.520	0.508
		長野植防 (南信)	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			3	3	0.576	0.546	0.643	0.635
			3	7	0.161	0.160	0.449	0.446
			3	14	0.251	0.244	0.221	0.215
			3	21	0.145	0.142	0.176	0.174
					日本食品分析センター		化学分析コンサルタント	
レタス (施設) (茎葉) 平成14年度	水溶剤(20%) 50倍,500ml/箱 灌注処理(1回) 粒剤(1%) 3g/株 定植時植穴 土壌混和(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 200・202L/10a 葉面散布(2回)	日植防研 (高知)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			4	3	1.53	1.47	1.70	1.67
			4	7	1.51	1.48	1.23	1.20
			4	14	0.74	0.72	0.67	0.66
		日植防研 (宮崎)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			4	3	2.61	2.58	2.28	2.28
			4	7	1.33	1.32	1.42	1.41
			4	14	1.37	1.33	1.24	1.23
					日本食品分析センター		三井化学㈱	
レタス (施設) (茎葉) 平成17年度	粒剤(1%) 30g/L(培土) 播種当日培土処理 (1回) 水溶剤(20%) 2000倍 500mL/トレイ 定植5日前セルトレイ 散布(1回) 50倍 500mL/トレイ セルトレイ灌注(1回) 2000倍 200L/10a 散布(2回)	日植防研 (牛久)	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02
			5	3	3.17	3.16	2.78	2.70
			5	7	2.14	2.09	2.19	2.17
			5	14	1.66	1.65	1.49	1.48
		日植防研 (高知)	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02
			5	3	1.97	1.96	2.04	2.04
			5	7	1.01	1.00	1.13	1.12
			5	14	0.57	0.56	0.55	0.54
					日本食品分析センター		三井化学㈱	
レタス (施設) (茎葉) 平成18年度	粒剤(1%) 30g/L(培土) 播種前培土 処理(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 500mL/トレイ 定植5日前セルトレイ散 布(1回) 粒剤(1%) 2g/株 定植時植穴処理 土壌混和(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 200L/10a 散布(2回)	岐阜植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	3	2.74	2.64	3.11	3.11
			5	7	0.96	0.94	0.76	0.76
			5	14	0.49	0.49	0.70	0.68
		日植防研 (高知)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	3	1.59	1.53	0.64	0.64
			5	7	0.91	0.88	0.84	0.83
			5	14	0.36	0.36	0.53	0.52



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位)	剤型(有効成分) 使用量 及び	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					日本食品分析センター		三井化学㈱	
レタス (施設) (茎葉) 平成20年度	粒剤(1%) 15g/L(培土) 播種前培土 処理(1回) 水和剤(15%)	三重植防	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			4	3	3.20	3.19	2.99	2.90
			4	7	1.80	1.80	1.92	1.90
			4	14	1.56	1.56	1.09	1.02
	100倍 500mL/トレイ セルトレイ灌注(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 200L/10a 散布(2回)	日植防研 (宮崎)	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			4	3	2.17	2.12	1.60	1.57
			4	7	1.17	1.15	0.72	0.72
			4	14	0.21	0.21	0.34	0.33
					日本食品分析センター		化学分析コンサルタント	
リーフレタス (茎葉) 平成17年度	粒剤(1%) 30g/L(培土) 播種前培土 処理(1回) 水溶剤(20%)	日植防研 (牛久)	0	-	-	-	<0.01	<0.01
			5	3	-	-	5.07	4.97
			5	7	-	-	1.22	1.20
			5	14	-	-	0.37	0.37
	2000倍 500mL/トレイ セルトレイ散布(1回) 50倍 500mL/トレイ セルトレイ灌注(1回) 2000倍 200L/10a 散布(2回)	長野植防 須坂 研究所	0	-	-	-	<0.01	<0.01
			5	3	-	-	2.69	2.61
			5	7	-	-	1.31	1.30
			5	14	-	-	0.29	0.28
リーフレタス (施設) (茎葉) 平成18年度	粒剤(1%) 30g/L(培土) 播種前培土 処理(1回) 水溶剤(20%)	福井植防	0	-	-	-	<0.1	<0.1
			5	3	-	-	14.7	14.6
			5	7	-	-	9.7	9.6
			5	14	-	-	0.5	0.4
	2000倍 500mL/トレイ セルトレイ散布(1回) 粒剤(1%) 2g/株 定植時植穴処理 土壌混和(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 300・200L/10a 散布(2回)	岐阜植防	0	-	-	-	<0.1	<0.1
			5	3	-	-	11.9	11.8
			5	7	-	-	4.6	4.6
			5	14	-	-	1.6	1.6

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位)	剤型(有効成分) 使用量 及び	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					日本食品分析センター		化学分析コンサルタント	
サラダ菜 (施設) (茎葉) 平成17年度	粒剤(1%) 30g/L(培土) 播種前培土 処理(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 500mL/トレイ セルトレイ散布(1回)	岐阜植防	0	-	-	-	<0.01	<0.01
			5	3	-	-	11.5	11.4
			5	7	-	-	5.82	5.72
			5	14	-	-	2.09	2.07
	50倍 500mL/トレイ セルトレイ灌注(1回) 2000倍 300・200L/10a 散布(2回)	三重植防	0	-	-	-	<0.01	<0.01
			5	3	-	-	10.4	10.2
			5	7	-	-	14.7	14.6
			5	14	-	-	10.5	10.4
サラダ菜 (施設) (茎葉) 平成18年度	粒剤(1%) 30g/L(培土) 播種前培土 処理(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 500mL/トレイ セルトレイ散布(1回)	福井植防	0	-	-	-	<0.01	<0.01
			5	3	-	-	16.4	16.0
			5	7	-	-	8.48	8.35
			5	14	-	-	5.64	5.52
	粒剤(1%) 2g/株 定植時植穴処理 土壌混和(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 300・200L/10a 散布(2回)	岐阜植防	0	-	-	-	<0.01	<0.01
			5	3	-	-	5.22	5.21
			5	7	-	-	2.30	2.28
			5	14	-	-	2.56	2.51
					エコプロ・リサーチ			
食用ぎく (施設) (花部) 平成17年度	粒剤(1%) 2g/株 定植時 植穴土壌混和 (1回) 水溶剤(20%) 3000倍 150L/10a 茎葉散布(2回)	山形農総 センター	0	-	-	-	<0.1	<0.1
			3	7	-	-	2.0	2.0
			3	14	-	-	0.2	0.2
			3	21	-	-	<0.1	<0.1
	粒剤(1%) 2g/株 定植時 植穴土壌混和 (1回) 水溶剤(20%) 2000倍 200L/10a 茎葉散布(2回)	愛知農総試	0	-	-	-	<0.1	<0.1
			3	7	-	-	1.4	1.3
			3	14	-	-	0.2	0.2
			3	21	-	-	0.2	0.2

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位)	剤型(有効成分) 使用量 及び	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					石川県保健環境センター			
すいぜんじな (施設) (茎葉) 平成19年度	水溶剤(20%) 2000倍, 200L/10a 散布(2回)	石川県 農業総合 研究センター (金沢市)	0	-	<0.5	<0.5	-	-
			2	1	5.3	5.1	-	-
			2	3	3.0	2.9	-	-
			2	7	0.8	0.8	-	-
			2	14	<0.5	<0.5	-	-
		2	21	<0.5	<0.5	-	-	
		石川県 農業総合 研究センター 砂丘地農試 (かほく市)	0	-	<0.5	<0.5	-	-
			2	1	6.3	6.2	-	-
			2	3	2.3	2.2	-	-
			2	7	0.8	0.8	-	-
2	14		<0.5	<0.5	-	-		
2	21	<0.5	<0.5	-	-			
					愛知県農業総合試験場			
ふき (施設) (葉柄) 平成19年度	水溶剤(20%) 2000倍, 300L/10a 散布(2回)	愛知県 農総試 (知多市)	0	-	<0.40	<0.40	-	-
			2	7	0.54	0.52	-	-
			2	14	<0.40	<0.40	-	-
			2	21	<0.40	<0.40	-	-
		愛知県 農総試 (東海市)	0	-	<0.40	<0.40	-	-
			2	7	0.70	0.70	-	-
			2	14	<0.40	<0.40	-	-
			2	21	<0.40	<0.40	-	-
					愛知県農業総合試験場			
ふき (施設) (葉柄) 平成21年度	粒剤(1%) 20kg/10a 散布(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 300L/10a 散布(2回)	愛知県 農総試 (知多市)	0	-	<0.05	<0.05	-	-
			3	7	0.42	0.42	-	-
			3	14	0.10	0.10	-	-
			3	21	0.05	0.05	-	-
		愛知県 農総試 (東海市)	0	-	<0.05	<0.05	-	-
			3	7	0.41	0.41	-	-
			3	14	0.09	0.09	-	-
			3	21	<0.05	<0.05	-	-
					日本食品分析センター		三井化学㈱	
ねぎ (茎葉) 平成13年度	粒剤(1%) 6kg/10a 定植時植溝 土壌混和(1回) 6kg/10a 生育期 株元処理(1回) 水溶剤(20%) 1000倍 200L/10a 散布(2回)	日植防研  (根深ねぎ)	0	-	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			4	3	0.63	0.63	0.72	0.70
			4	7	0.57	0.56	0.73	0.70
			4	14	0.32	0.32	0.22	0.21
			4	21	0.17	0.16	0.17	0.16
		兵庫植防  (葉ねぎ)	0	-	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
			4	3	0.85	0.84	0.70	0.68
			4	7	0.87	0.86	0.81	0.81
			4	14	1.01	1.00	0.91	0.86
			4	21	0.64	0.64	0.69	0.61

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					日本食品分析センター		三井化学㈱	
ねぎ (茎葉) 平成16年度	水溶剤(20%) 50倍, 500ml/トレイ 灌注処理(1回) 粒剤(1%) 9kg/10a, 定植時 植溝土壌混和(1回) 水溶剤(20%) 100倍, 100L/10a 生育期株元散布(1回) ①2000倍, 200L/10a 1000倍, 100L/10a 散布(各1回) ②2000倍, 120~ 150L/10a 散布(2回)	①日植防研  (根深ねぎ)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	3	0.88	0.85	1.09	1.03
			5	7	0.88	0.86	0.66	0.66
			5	14	0.64	0.63	0.90	0.88
			5	21	0.62	0.62	0.51	0.48
		②日植防研 (高知) (葉ねぎ)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			5	3	1.86	1.82	1.43	1.41
			5	7	1.19	1.18	0.85	0.84
			5	14	0.50	0.50	0.62	0.60
			5	21	0.29	0.29	0.31	0.31
ねぎ (茎葉) 平成17年度	水溶剤(20%) 50倍, 500ml/トレイ 定植時灌注処理 (1回) 100倍, 100L/10a 生育期株元灌注(1回) 粒剤(1%) 9kg/10a, 生育期 株元散布(2回)	滋賀植防  (葉ねぎ)	0	-	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
			4	3	1.62	1.61	1.47	1.47
			4	7	1.61	1.61	1.97	1.97
			4	14	1.42	1.35	1.78	1.76
			4	21	1.01	1.00	1.67	1.62
		鳥取園試  (根深ねぎ)	0	-	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
			4	3	5.15	4.96	5.04	5.02
			4	7	4.74	4.66	8.37	8.04
			4	14	3.24	3.22	4.53	4.52
			4	21	4.53	4.52	4.28	4.27
ねぎ (茎葉) 平成17年度	粒剤(1%) 6kg/10a, 定植時 植溝土壌混和(1回) 水溶剤(20%) 100倍, 100L/10a 生育期株元灌注(1回) 粒剤(1%) 9kg/10a, 生育期 株元散布(2回)	滋賀植防  (葉ねぎ)	0	-	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
			4	3	0.48	0.48	0.76	0.76
			4	7	0.57	0.56	0.75	0.74
			4	14	0.95	0.94	1.24	1.24
			4	21	0.88	0.84	1.00	1.00
		鳥取園試  (根深ねぎ)	0	-	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
			4	3	5.09	4.96	4.19	4.16
			4	7	8.11	7.78	5.57	5.51
			4	14	4.48	4.46	5.10	4.98
			4	21	4.97	4.96	4.53	4.48
にら (施設) (茎葉) 平成18年度	水溶剤(20%) 400倍, 400L/10a 生育期株元灌注(1回) 2000倍, 200・150L/10a 茎葉散布(2回)	福島植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02
			3	1	4.25	4.23	4.28	4.24
			3	3	5.02	4.98	5.24	5.20
			3	7	3.73	3.54	3.54	3.50
			3	14	2.23	2.14	2.47	2.43
		高知県 農業技術 センター	0	-	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02
			3	1	2.45	2.44	2.44	2.39
			3	3	2.00	1.98	2.22	2.20
			3	7	1.55	1.52	1.49	1.46
			3	14	1.79	1.76	1.97	1.95

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果				
					公的分析機関		社内分析機関		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
					化学分析コンサルタント				
アスパラガス (施設) 若茎(茎) 平成18年度	水溶剤(20%) 2000倍, 800L/10a 散布(3回)	長野植防	0	-	-	-	<0.01	<0.01	
			3	1	-	-	0.09	0.08	
			3	7	-	-	<0.01	<0.01	
			3	14	-	-	<0.01	<0.01	
			3	21	-	-	<0.01	<0.01	
		香川農試	0	-	-	-	<0.01	<0.01	
			3	1	-	-	0.13	0.13	
			3	7	-	-	<0.01	<0.01	
			3	14	-	-	<0.01	<0.01	
			3	21	-	-	<0.01	<0.01	
				化学分析コンサルタント					
わけぎ* (施設) (茎葉) 平成25年度	粒剤(1%) 6kg/10a, 生育期株 元散布(1回) 水溶剤(20%) 400倍, 0.4L/m <sup>2</sup> 生育期株元灌注(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 181・158L/10a 散布(2回)	日植防 (高知)	0	-	-	-	<0.01	<0.01	
			4	3	-	-	2.82	2.82	
			4	7	-	-	1.92	1.88	
			4	14	-	-	1.54	1.53	
			4	21	-	-	1.72	1.71	
		日植防 (宮崎)	0	-	-	-	<0.01	<0.01	
			4	3	-	-	3.16	3.04	
			4	7	-	-	2.61	2.60	
			4	14	-	-	2.06	1.96	
			4	21	-	-	1.76	1.74	
				日本食品分析センター		三井化学㈱			
らっきょう (鱗茎) 平成14年度	水溶剤(20%) 1000倍 200・300L/10a 散布(3回)	福井植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	1	0.14	0.14	0.19	0.18	
			3	3	0.14	0.13	0.13	0.12	
			3	7	0.17	0.17	0.17	0.16	
			3	14	0.16	0.16	0.18	0.18	
		鳥取県 園芸試験場	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	1	0.23	0.22	0.27	0.26	
			3	3	0.20	0.20	0.21	0.20	
			3	7	0.17	0.16	0.26	0.26	
			3	14	0.20	0.19	0.21	0.21	
				日本食品分析センター		化学分析コンサルタント			
にんじん (露地) (根部) 平成15・16 年度	粒剤(1%) 9kg/10a 播種時播溝 土壌混和(1回) 水溶剤(20%) 1000倍 170L・541.7~597.2 L/10a 茎葉散布(2回)	岡山県 農総農試	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	7	0.12	0.12	0.10	0.10	
			3	14	0.13	0.13	0.11	0.11	
			3	21	0.07	0.07	0.05	0.05	
		香川県農試	病害虫 防除所	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				3	7	0.29	0.28	0.26	0.26
				3	14	0.35	0.34	0.35	0.34
				3	21	0.24	0.24	0.23	0.23
				3	7	0.29	0.28	0.26	0.26
				3	14	0.35	0.34	0.35	0.34

\* 適用拡大申請中(平成26年3月18日付)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果				
					公的分析機関		社内分析機関		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
					日本食品分析センター		化学分析コンサルタント		
にんじん (根部) 平成18年度	粒剤(1%) 9kg/10a 播種時播溝 土壌混和(1回) 水溶剤(20%) 400倍, 400L/10a 生育期株元灌注(1回)	日植防研	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			4	7	0.38	0.38	0.31	0.30	
			4	14	0.24	0.24	0.23	0.23	
			4	21	0.35	0.34	0.25	0.24	
			4	28	0.25	0.24	0.22	0.21	
	2000倍, 200L/10a 茎葉散布(2回)	新潟農総研	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			4	7	0.21	0.20	0.16	0.16	
			4	14	0.21	0.20	0.16	0.16	
			4	21	0.11	0.11	0.09	0.08	
			4	28	0.10	0.10	0.10	0.10	
セルリー (施設) (茎葉) 平成14年度	粒剤(1%) 2g/株 定植時植穴処理 土壌混和(1回) 水溶剤(20%) 1000倍 150・200L/10a 散布(2回)	長野農試 (原村)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	7	2.25	2.20	2.25	2.20	
			3	14	1.00	0.98	1.00	0.98	
			3	21	0.28	0.28	0.28	0.28	
			3	21	1.23	1.22	1.23	1.22	
			静岡植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				3	7	3.05	3.04	3.05	3.04
				3	14	1.83	1.82	1.83	1.82
				3	14	1.83	1.82	1.83	1.82
				3	21	1.23	1.22	1.23	1.22

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果				
					公的分析機関		社内分析機関		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
					(株)エスコ				
せり (茎葉) 平成 16・18 年度	水溶剤(20%) (2000倍) 150・200L/10a 散布(3回)	秋田農試	0	-	-	-	<0.01	<0.01	
			3	7	-	-	0.05	0.04	
			3	14	-	-	0.02	0.02	
			3	21	-	-	0.01	0.01	
				(株)クレハ分析センター					
		宮城農総研	0	-	-	-	<0.5	<0.5	
			3	7	-	-	1.7	1.7	
			3	14	-	-	0.8	0.8	
3	21		-	-	<0.5	<0.5			
					愛知県農業総合試験場				
せり (水耕栽培) (施設) 平成 19・20 年度	水溶剤(20%) 2000倍, 150L/10a 散布(3回)	豊田市圃場	0	-	<0.4	<0.4	-	-	
			3	3	0.6	0.6	-	-	
			3	7	<0.4	<0.4	-	-	
			3	14	<0.4	<0.4	-	-	
		豊田市圃場	0	-	<0.4	<0.4	-	-	
			3	3	0.8	0.8	-	-	
			3	7	0.4	0.4	-	-	
			3	14	<0.4	<0.4	-	-	
					日本食品分析センター		三井化学(株)		
トマト (施設) (果実) 平成 10 年度	粒剤(1%) 2g/株 定植時植穴 土壌混和(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 200・300L/10a 散布(2回)	愛知農総試 (山間)	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			3	1	0.085	0.084	0.146	0.142	
			3	3	0.095	0.094	0.121	0.120	
			3	7	0.087	0.086	0.116	0.110	
		日植防研 (高知)	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
			3	1	0.222	0.219	0.256	0.248	
			3	3	0.349	0.347	0.244	0.240	
			3	7	0.252	0.252	0.190	0.188	
トマト (施設) (果実) 平成 17 年度	粒剤(1%) 40g/L 育苗培土 混和处理(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 1・0.2L/トレイ 茎葉散布(1回) 50倍 500mL/箱 灌注処理(1回) 粒剤(1%) 2g/株 育苗期ポット 株元散布(1回) 定植時植穴 土壌混和(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 250L/10a 茎葉散布(2回)	日植防研	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			7	1	0.19	0.18	0.26	0.25	
			7	3	0.27	0.27	0.34	0.33	
			7	7	0.28	0.28	0.34	0.34	
			7	14	0.25	0.25	0.29	0.25	
			日植防研 (高知)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				7	1	0.20	0.20	0.15	0.15
				7	3	0.14	0.14	0.18	0.18
		7		7	0.15	0.14	0.14	0.14	
				7	14	0.19	0.18	0.12	0.12

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果						
					公的分析機関		社内分析機関				
					最高値	平均値	最高値	平均値			
					日本食品分析センター		三井化学㈱				
トマト (施設) (果実) 平成15・16 年度	粒剤(1%) 40g/L 播種時育苗培土 混和处理(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 1・0.2L/トレイ セルトレイ散布(1回) 50倍 500mL/トレイ 育苗期セルトレイ 灌注処理(1回) 粒剤(1%) 2g/株 育苗期ポット 株元散布(1回) 定植時植穴処理 (1回) 株元散布(2回)	日植防研 (茨城)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			7	1	0.09	0.08	0.08	0.08			
			7	7	0.10	0.10	0.09	0.09			
			7	14	0.09	0.09	0.08	0.08			
			7	21	0.09	0.08	0.08	0.08			
			7	28	0.10	0.10	0.09	0.08			
		日植防研 (高知)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			7	1	0.09	0.08	0.06	0.06			
			7	7	0.08	0.08	0.08	0.08			
			7	14	0.07	0.07	0.06	0.06			
			7	21	0.06	0.06	0.05	0.05			
			7	28	0.05	0.05	0.04	0.04			
			ミニトマト (施設) (果実) 平成16・17 年度	粒剤(1%) 40g/L 育苗培土 混和处理(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 1・0.2L/トレイ 茎葉散布(1回) 50倍 500mL/箱 灌注処理(1回) 粒剤(1%) 2g/株 育苗期ポット 株元散布(1回) 定植時植穴 土壌混和(1回) 水溶剤(20%)2000倍 250・200L/10a 茎葉散布(2回)	日植防研	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
						7	1	0.50	0.50	0.52	0.52
7	3	0.40				0.40	0.48	0.48			
7	7	0.57				0.56	0.58	0.58			
7	14	0.46				0.46	0.52	0.50			
7	28	0.35				0.34	0.38	0.37			
日植防研 (高知)	0	-			<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
	7	1			0.25	0.25	0.32	0.32			
	7	3			0.20	0.20	0.26	0.26			
	7	7			0.36	0.36	0.46	0.43			
	7	14			0.42	0.40	0.35	0.34			
	7	28			0.24	0.24	0.26	0.26			
	ミニトマト (施設) (果実) 平成16年度	粒剤(1%) 40g/L 育苗培土混和 処理(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 1・0.2L/トレイ セルトレイ散布(1回) 50倍 500mL/トレイ 育苗期セルトレイ 灌注処理(1回) 粒剤(1%) 2g/株 育苗期ポット 株元散布(1回) 定植時植穴処理 (1回) 株元散布(2回)			日植防研 (茨城)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
						7	1	0.15	0.14	0.14	0.14
7			3	0.16		0.16	0.17	0.17			
7			7	0.12		0.12	0.13	0.12			
7			14	0.11		0.10	0.10	0.10			
7			28	0.07		0.07	0.07	0.07			
日植防研 (高知)			0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			7	1	0.14	0.14	0.14	0.14			
			7	3	0.17	0.17	0.14	0.13			
			7	7	0.15	0.14	0.12	0.12			
			7	14	0.13	0.12	0.12	0.12			
			7	28	0.09	0.08	0.08	0.08			



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果						
					公的分析機関		社内分析機関				
					最高値	平均値	最高値	平均値			
					日本食品分析センター		三井化学㈱				
ピーマン (施設) (果実) 平成12年度	粒剤(1%) 2g/株 定植時植穴 土壌混和(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 200L/10a 散布(2回)	岩手植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
			3	1	0.437	0.431	0.395	0.380			
			3	3	0.366	0.362	0.316	0.310			
			3	7	0.285	0.275	0.296	0.280			
			3	14	0.085	0.080	0.144	0.122			
		日植防研	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
			3	1	1.18	1.18	1.12	1.06			
			3	3	1.09	1.06	0.571	0.571			
			3	7	0.851	0.846	0.795	0.795			
			3	14	0.667	0.648	0.693	0.666			
ピーマン (施設) (果実) 平成14年度	粒剤(1%) 2g/株 定植時植穴 土壌混和(1回) 2g/株 生育期 株元処理(2回)	日植防研	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			3	1	0.08	0.08	0.08	0.08			
			3	3	0.09	0.08	0.10	0.10			
			3	7	0.09	0.09	0.09	0.09			
		長野植防 (中信)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			3	1	0.04	0.04	0.07	0.07			
			3	3	0.06	0.06	0.06	0.06			
			3	7	0.05	0.05	0.06	0.06			
			なす (施設) (果実) 平成10年度	粒剤(1%) 2g/株 定植時植穴 土壌混和(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 250L/10a 散布(2回)	長野植防 (南信)	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
						3	1	0.270	0.264	0.174	0.170
3	3	0.159				0.153	0.122	0.117			
3	7	0.080				0.078	0.071	0.071			
日植防研 (宮崎)	0	-			<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
	3	1			0.529	0.504	0.435	0.434			
	3	3			0.489	0.487	0.497	0.463			
	3	7			0.400	0.397	0.339	0.304			
	なす (施設) (果実) 平成13年度	粒剤(1%) 2g/株 定植時植穴 土壌混和(1回) 2g/株 生育期 株元処理(2回) 水溶剤(20%) 2000倍 200・157L/10a 散布(2回)			日植防研	0	-	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
						4	1	0.35	0.35	0.49	0.48
4			3	0.29		0.28	0.39	0.36			
4			7	0.20		0.20	0.21	0.20			
日植防研 (宮崎)			0	-	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01			
			4	1	0.34	0.34	0.47	0.46			
			4	3	0.28	0.28	0.34	0.28			
			4	7	0.13	0.13	0.23	0.19			
			なす (施設) (果実) 平成14年度	粒剤(1%) 2g/株 定植時植穴 土壌混和(1回) 2g/株 生育期 株元処理(2回)	長野植防 (南信)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
						3	1	0.04	0.04	0.06	0.06
3	3	0.05				0.05	0.06	0.06			
3	7	0.03				0.02	0.05	0.05			
日植防研 (高知)	0	-			<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
	3	1			0.04	0.04	0.05	0.04			
	3	3			0.04	0.04	0.07	0.06			
	3	7			0.07	0.07	0.08	0.08			
	3	14			0.07	0.06	0.07	0.07			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果						
					公的分析機関		社内分析機関				
					最高値	平均値	最高値	平均値			
					日本食品分析センター		化学分析コンサルタント				
ししとう (施設) (果実) 平成15・16	粒剤(1%) 2g/株 定植時植穴 土壌混和(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 250L・150L/10a 茎葉散布(2回)	高知県 農技センター (南国市)	0	-	<0.01	<0.01	-	-			
			3	1	1.47	1.44	-	-			
			3	3	1.20	1.16	-	-			
			3	7	0.77	0.75	-	-			
		高知県 農技センター (高岡郡)	0	-	-	-	<0.01	<0.01			
			3	1	-	-	1.22	1.22			
			3	3	-	-	1.53	1.50			
			3	7	-	-	0.55	0.55			
ししとう (施設) (果実) 平成17年度	水溶剤(20%) 2000倍 500・100mL/箱 茎葉散布(1回) 50倍 500mL/箱 灌注処理(1回) 200倍 20mL/株 ホット灌注処理 (1回) 粒剤(1%) 2g/株 定植時植穴 土壌混和(1回) 株元散布(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 300・90L又は 120L/10a 茎葉散布(2回)	岐阜植防	0	-	-	-	<0.01	<0.01			
			7	1	-	-	1.22	1.21			
			7	3	-	-	1.42	1.42			
			7	7	-	-	0.82	0.80			
			7	14	-	-	0.58	0.57			
			日植防研 (高知)	0	-	-	-	<0.01	<0.01		
				7	1	-	-	1.60	1.60		
		7		3	-	-	1.21	1.21			
		7		7	-	-	0.77	0.76			
		7		14	-	-	0.38	0.38			
		とうがらし (施設) (果実) 平成16年度		水溶剤(20%) 2000倍 1000mL/箱・ 200mL/3箱 茎葉散布(1回) 50倍 500mL/箱 灌注処理(1回) 200倍 20mL/株 ホット灌注処理 (1回) 粒剤(1%) 2g/株 定植時植穴 土壌混和(1回) 株元散布(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 200・170L/10a 茎葉散布(2回)	岐阜植防 (恵那)	0	-	-	-	<0.1	<0.1
						7	1	-	-	1.7	1.6
			7			3	-	-	1.1	1.1	
			7			7	-	-	1.8	1.8	
7	14		-		-	1.5	1.5				
日植防研 (高知)	0		-		-	-	<0.1	<0.1			
	7		1		-	-	1.6	1.6			
	7	3	-	-	1.2	1.2					
	7	7	-	-	0.5	0.5					
7	14	-	-	0.4	0.4						

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果						
					公的分析機関		社内分析機関				
					最高値	平均値	最高値	平均値			
					京都府農業総合研究所						
とうがらし(葉) (施設) (茎葉) 平成20年度	粒剤(1%) 1g/株 定植時植穴 土壌混和(1回)	京都市圃場	0	-	<0.02	<0.02	-	-			
			1	30	2.3	2.2	-	-			
			1	45	1.3	1.2	-	-			
			1	60	0.63	0.58	-	-			
		京都府 農総研 (亀岡市)	0	-	<0.02	<0.02	-	-			
			1	30	0.86	0.82	-	-			
			1	45	0.29	0.29	-	-			
			1	60	0.15	0.14	-	-			
とうがらし(葉) (施設) (茎葉) 平成20年度	粒剤(1%) 1g/株 定植時植穴 土壌混和(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 300L/10a 散布(2回)	京都市圃場	0	-	<0.02	<0.02	-	-			
			3	1	37	36	-	-			
			3	3	26	26	-	-			
			3	7	10.2	9.8	-	-			
		京都府 農総研 (亀岡市)	0	-	<0.02	<0.02	-	-			
			3	1	18	18	-	-			
			3	3	14	14	-	-			
			3	7	8.4	8.2	-	-			
			3	14	3.4	3.4	-	-			
								日本食品分析センター		三井化学㈱	
			きゅうり (施設) (果実) 平成10年度	粒剤(1%) 2g/株 定植時植穴 土壌混和(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 200L/10a 散布(2回)	埼玉植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005
						3	1	0.39	0.38	0.349	0.349
3	3	0.43				0.43	0.389	0.358			
3	7	0.31				0.30	0.293	0.287			
愛知農総試 (安城)	0	-			<0.01	<0.01	0.005	0.005			
	3	1			0.51	0.49	0.483	0.452			
	3	3			0.53	0.52	0.491	0.472			
	3	7			0.50	0.48	0.455	0.447			
	きゅうり (施設) (果実) 平成13年度	粒剤(1%) 2g/株 定植時植穴 土壌混和(1回) 2g/株 生育期 株元処理(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 200・250L/10a 散布(2回)			日植防研	0	-	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
						4	1	0.60	0.60	0.60	0.56
						4	3	0.66	0.65	0.57	0.56
						4	7	0.34	0.33	0.40	0.39
長野植防 (南信)			0	-	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01			
			4	1	0.39	0.38	0.34	0.32			
			4	3	0.28	0.28	0.36	0.36			
			4	7	0.08	0.08	0.11	0.10			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					日本食品分析センター		三井化学㈱	
かぼちゃ (果実) 平成18年度	粒剤(1%) 2g/株 定植時植穴 土壌混和(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 200L/10a 散布(2回)	三重植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	0.05	0.05	0.06	0.06
			3	7	0.03	0.03	<0.01	<0.01
			3	14	0.03	0.03	<0.01	<0.01
			3	21	0.02	0.02	<0.01	<0.01
		日植防研 (宮崎)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	0.08	0.08	0.13	0.12
			3	7	0.05	0.05	0.07	0.07
			3	14	0.11	0.10	0.11	0.10
			3	21	0.07	0.07	0.09	0.08
すいか (施設) (果実) 平成13年度	粒剤(1%) 5g/株 定植時植穴 土壌混和(1回) 2g/株 生育期 株元処理(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 200・250L/10a 散布(2回)	日植防研	0	0	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			4	7	0.12	0.12	0.11	0.10
			4	14	0.16	0.16	0.13	0.12
			4	21	0.15	0.15	0.20	0.20
			4	28	0.14	0.14	0.17	0.16
		石川植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			4	7	0.06	0.06	0.05	0.05
			4	14	0.08	0.08	0.06	0.06
			4	21	0.11	0.11	0.13	0.13
			4	28	0.10	0.10	0.09	0.09
メロン (施設) (果実) 平成11年度	粒剤(1%) 2g/株 定植時植穴 土壌混和(1回)	石川植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			1	80	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			1	87	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			1	94	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			1	99	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		日植防研 (宮崎)	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			1	85	0.021	0.021	0.021	0.021
			1	92	0.030	0.030	0.027	0.024
			1	99	0.020	0.020	0.022	0.019
			1	99	0.020	0.020	0.022	0.019
メロン (施設) (果実) 平成14・15年	粒剤(1%) 2g/株 定植時植穴 土壌混和(1回) 水溶剤(20%) 1000倍 250L/10a 散布(2回)	日植防研	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	3	0.28	0.28	0.17	0.16
			3	14	0.32	0.30	0.31	0.30
			3	28	0.47	0.47	0.49	0.46
			3	42	0.35	0.34	0.30	0.30
		石川植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	3	0.04	0.04	0.03	0.03
			3	14	0.10	0.10	0.09	0.08
			3	28	0.15	0.15	0.26	0.26
			3	42	0.15	0.14	0.25	0.24

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					山口県農林総合技術 センター			
まくわうり (施設) (果実) 平成21年度	水溶剤(20%) 3000倍, 300L/10a 散布(1回)	山口県 農林総合技 センター (下関市)	0	-	<0.02	<0.02	-	-
			1	3	0.06	0.06	-	-
			1	7	0.08	0.08	-	-
			1	14	0.10	0.10	-	-
			1	21	0.10	0.10	-	-
			1	28	0.07	0.07	-	-
			1	35	0.02	0.02	-	-
		山口県 農林総合技 センター (山口市)	0	-	<0.02	<0.02	-	-
			1	3	0.07	0.07	-	-
			1	7	0.11	0.11	-	-
			1	14	0.19	0.19	-	-
			1	21	0.14	0.14	-	-
			1	28	0.05	0.05	-	-
			1	35	0.03	0.03	-	-
まくわうり (施設) (果実) 平成21年度	水溶剤(20%) 3000倍, 300L/10a 散布(2回)	山口県 農林総合技 センター (下関)	0	-	<0.02	<0.02	-	-
			2	3	0.17	0.17	-	-
			2	7	0.19	0.19	-	-
			2	14	0.21	0.21	-	-
			2	21	0.14	0.14	-	-
			2	28	0.09	0.08	-	-
			2	35	0.02	0.02	-	-
		山口県 農林総合技 センター (山口市)	0	-	<0.02	<0.02	-	-
			2	3	0.23	0.22	-	-
			2	7	0.28	0.28	-	-
			2	14	0.39	0.38	-	-
			2	21	0.40	0.40	-	-
			2	28	0.31	0.30	-	-
			2	35	0.03	0.03	-	-

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					化学分析コンサルタント㈱			
にがうり (施設) (果実) 平成17年度	水溶剤(20%) 2000倍 500mL/トレイ セルトレイ灌注(1回) 粒剤(1%) 2g/株 定植時植穴 処理(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 250・200L/10a 散布(2回)	日植防研 (高知)	0	-	-	-	<0.01	<0.01
			4	1	-	-	0.40	0.40
			4	3	-	-	0.34	0.34
			4	7	-	-	0.15	0.15
			4	14	-	-	<0.01	<0.01
		日植防研 (宮崎)	0	-	-	-	<0.01	<0.01
			4	1	-	-	0.69	0.69
			4	3	-	-	0.34	0.34
			4	7	-	-	0.39	0.38
			4	14	-	-	0.19	0.19
					愛知県農業総合試験場			
きゅうり (施設) (葉) 平成18年度	水溶剤(20%) 3000倍 240・200L/10a 茎葉散布(2回)	愛知県 農総試 (豊橋市)	0	-	<0.20	<0.20	-	-
			2	3	4.04	4.00	-	-
			2	7	1.13	1.12	-	-
			2	14	0.28	0.28	-	-
		愛知県 農総試 (額田郡 幸田町)	0	-	<0.20	<0.20	-	-
			2	3	1.15	1.14	-	-
			2	7	0.24	0.24	-	-
			2	14	<0.20	<0.20	-	-
きゅうり (施設) (花) 平成18年度	水溶剤(20%) 3000倍 240・200L/10a 茎葉散布(2回)	愛知県 農総試 (豊橋市)	0	-	<0.20	<0.20	-	-
			2	1	2.42	2.40	-	-
			2	3	1.16	1.15	-	-
			2	7	0.32	0.32	-	-
		愛知県 農総試 (額田郡 幸田町)	0	-	<0.20	<0.20	-	-
			2	1	2.85	2.79	-	-
			2	3	0.87	0.86	-	-
			2	7	0.31	0.30	-	-

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					日本食品分析センター		三井化学㈱	
ほうれんそう (施設) (茎葉) 平成16年度	粒剤(1%) 9kg/10a 定植時 植溝土壌混和 (1回) 水溶剤(20%) 2000倍 150・250L/10a 茎葉散布(2回)	岩手農研 センター	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	3	9.43	9.14	9.38	9.33
			3	7	4.77	4.66	4.32	4.22
			3	14	3.29	3.25	3.24	3.15
		奈良植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	3	7.22	7.10	5.50	5.24
			3	7	1.75	1.74	1.58	1.53
		3	14	0.33	0.32	0.16	0.16	
					化学分析コンサルタント			
オクラ (果実) 平成17年度	粒剤(1%) 9kg/10a 生育期 株元処理(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 180~250・300L/10a 散布(2回)	日植防研 (高知)	0	-	-	-	<0.01	<0.01
			3	1	-	-	0.46	0.46
			3	3	-	-	0.33	0.33
			3	7	-	-	0.17	0.16
		沖縄県 病害虫 防除所	0	-	-	-	<0.01	<0.01
			3	1	-	-	0.57	0.56
			3	3	-	-	0.33	0.32
		3	7	-	-	0.14	0.14	
		3	14	-	-	0.10	0.10	
					日本食品分析センター		三井化学㈱	
しょうが (露地) (塊茎) 平成17年度	粒剤(1%) 9kg/10a 生育期株元処理 (1回) 水溶剤(20%) 2000倍 200L/10a 茎葉散布(2回)	三重植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	0.10	0.10	0.17	0.17
			3	3	0.15	0.14	0.18	0.18
			3	7	0.14	0.14	0.13	0.13
			3	14	0.07	0.06	0.07	0.06
		日植防研 (高知)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	0.07	0.07	0.15	0.15
		3	3	0.09	0.09	0.12	0.12	
		3	7	0.16	0.16	0.11	0.10	
		3	14	0.08	0.08	0.14	0.14	
					化学分析コンサルタント			
さやえんどう (施設) (さや) 平成16年度	水溶剤(20%) 100倍 30mL/株 定植時灌注処理 (1回) 粒剤(1%) 9kg/10a 定植時植溝 土壌混和(1回) 株元散布(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 300・200L/10a 茎葉散布(2回)	和歌山植防	0	-	-	-	<0.05	<0.05
			5	1	-	-	2.35	2.31
			5	3	-	-	2.54	2.49
			5	7	-	-	1.90	1.89
			5	14	-	-	1.11	1.10
		日植防研 (高知)	0	-	-	-	<0.05	<0.05
			5	1	-	-	1.19	1.17
		5	3	-	-	1.18	1.14	
		5	7	-	-	0.90	0.86	
		5	14	-	-	0.68	0.68	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果						
					公的分析機関		社内分析機関				
					最高値	平均値	最高値	平均値			
					日本食品分析センター		三井化学㈱				
さやいんげん (施設) さや 平成18年度	粒剤(1%) 9kg/10a 生育期株元処理 (1回) 水溶剤(20%) 2000倍, 200・150L/10a 茎葉散布(2回)	高知県 農業技術 センター	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			3	1	0.79	0.78	0.83	0.82			
			3	3	0.60	0.59	0.63	0.63			
			3	7	0.43	0.42	0.38	0.37			
			3	14	0.14	0.14	0.13	0.12			
		日植防研 (宮崎)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			3	1	0.80	0.80	0.60	0.58			
			3	3	0.53	0.52	0.40	0.40			
			3	7	0.52	0.52	0.50	0.50			
			3	14	0.37	0.36	0.40	0.40			
えだまめ (さや) 平成12年度	粒剤(1%) 6kg/10a 播種時播溝 土壌混和(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 200・220 L/10a 散布(2回)	新潟植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
			3	7	0.427	0.417	0.523	0.523			
			3	14	0.348	0.337	0.537	0.534			
			3	21	0.297	0.282	0.502	0.502			
			3	28	0.090	0.088	0.105	0.100			
		岐阜植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
			3	7	0.704	0.678	0.475	0.414			
			3	14	0.215	0.214	0.340	0.340			
			3	21	0.230	0.230	0.191	0.187			
			3	28	0.116	0.113	0.133	0.132			
えだまめ (さや) 平成17年度	粒剤(1%) 6kg/10a 播種時播溝 処理(1回) 粉剤(0.5%) 4kg/10a 散布(2回)	長野植防	0	-	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04			
			3	1	0.72	0.71	1.03	1.02			
			3	3	0.41	0.40	0.47	0.46			
			3	7	0.26	0.25	0.33	0.32			
			3	14	0.22	0.22	0.26	0.25			
			3	21	0.14	0.13	0.14	0.13			
		徳島植防	0	-	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04			
			3	1	0.31	0.30	0.36	0.36			
			3	3	0.23	0.23	0.30	0.28			
			3	7	0.20	0.20	0.14	0.14			
			3	14	0.16	0.16	0.15	0.14			
			3	21	0.09	0.08	0.11	0.10			
							広島農業技術センター				
			くわい (露地) (塊茎) 平成15年度	粒剤(1%) 3kg/10a 散布(3回)	広島農技 センター (新涯町)	0	-	-	-	<0.02	<0.02
						3	30	-	-	0.03	0.03
3	60	-				-	<0.02	<0.02			
3	90	-				-	<0.02	<0.02			
広島農技 センター (山手町)	0	-			-	-	<0.02	<0.02			
	3	30	-	-	0.06	0.06					
	3	60	-	-	0.03	0.03					
	3	90	-	-	<0.02	<0.02					



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					日本食品分析センター		三井化学㈱	
食用ほおずき (施設) (果実) 平成18年度	水溶剤(20%) 3000倍 250L/10a 茎葉散布(2回)	愛知県 農総試 (豊橋市)	0	-	<0.40	<0.40	-	-
			2	3	<0.40	<0.40	-	-
			2	7	<0.40	<0.40	-	-
			2	14	<0.40	<0.40	-	-
		愛知県 農総試 (蒲郡市)	0	-	<0.40	<0.40	-	-
			2	3	<0.40	<0.40	-	-
			2	7	<0.40	<0.40	-	-
			2	14	<0.40	<0.40	-	-
食用カーネーション (施設) (花) 平成18年度	水溶剤(20%) 3000倍 150L/10a 茎葉散布(2回)	愛知県 豊橋市 五井町	0	-	<0.40	<0.40	-	-
			2	3	5.48	5.48	-	-
			2	7	0.75	0.72	-	-
			2	14	<0.40	<0.40	-	-
		愛知県 豊橋市 川崎町	0	-	<0.40	<0.40	-	-
			2	3	5.47	5.40	-	-
			2	7	1.39	1.39	-	-
			2	14	<0.40	<0.40	-	-
食用トレニア (施設) (花器全体) 平成18年度	水溶剤(20%) 3000倍 150・200L/10a 茎葉散布(2回)	愛知県 農総試 (豊橋市)	0	-	<0.40	<0.40	-	-
			2	3	3.98	3.96	-	-
			2	7	1.43	1.42	-	-
			2	14	0.48	0.48	-	-
		愛知県 農総試 (宝飯郡 小坂井町)	0	-	<0.40	<0.40	-	-
			2	3	4.16	4.13	-	-
			2	7	1.63	1.60	-	-
			2	14	0.68	0.68	-	-
食用ハンゾー (施設) (花器全体) 平成18年度	水溶剤(20%) 3000倍 150L/10a 散布(2回)	愛知県 農総試 (豊橋市 川崎町)	0	-	<0.4	<0.4	-	-
			2	3	6.5	6.4	-	-
			2	7	2.5	2.5	-	-
			2	14	1.0	1.0	-	-
		愛知県 農総試 (豊橋市 高洲町)	0	-	<0.4	<0.4	-	-
			2	3	11.7	11.6	-	-
			2	7	1.7	1.7	-	-
			2	14	0.5	0.5	-	-
食用ミニバラ (施設) (花器全体) 平成18年度	水溶剤(20%) 3000倍 200L/10a 散布(2回)	愛知県 農総試 (豊橋市 大崎町)	0	-	<0.40	<0.40	-	-
			2	3	1.07	1.06	-	-
			2	7	0.61	0.60	-	-
			2	14	<0.40	<0.40	-	-
		愛知県 農総試 (豊橋市 富久織町)	0	-	<0.40	<0.40	-	-
			2	3	0.82	0.82	-	-
			2	7	<0.40	<0.40	-	-
			2	14	<0.40	<0.40	-	-
食用金魚草 (施設) (花器全体) 平成21年度	水溶剤(20%) 3000倍 200L/10a 散布(2回)	愛知県 農総試 (豊橋市 川崎町)	0	-	-	-	-	-
			2	3	7.25	7.22	-	-
			2	7	3.29	3.25	-	-
			2	14	0.97	0.96	-	-
		愛知県 農総試 (豊橋市 高洲町)	0	-	-	-	-	-
			2	3	2.78	2.76	-	-
			2	7	0.93	0.92	-	-
			2	14	0.29	0.29	-	-

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果					
					公的分析機関		社内分析機関			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
					愛知県農業総合試験場					
えごま (施設) (葉) 平成19年度	水溶剤(20%) 3000倍 200L/10a 散布(2回)	愛知県 農総試 (豊橋市)	0	-	<0.4	<0.4	-	-		
			2	3	12.5	12.3	-	-		
			2	7	6.7	6.6	-	-		
			2	14	1.4	1.4	-	-		
		愛知県 農総試 (豊川市)	0	-	<0.4	<0.4	-	-	-	
			2	3	15.6	15.5	-	-	-	
			2	7	9.4	9.3	-	-	-	
			2	14	1.7	1.7	-	-	-	
					愛知県農業総合試験場					
なんてん (施設) (葉) 平成25年度	水溶剤(20%) 2000倍 200L/10a 散布(2回)	愛知県 農総試 (幸田町)	0	-	<0.04	<0.04	-	-		
			2	7	12.9	12.6	-	-		
			2	14	2.73	2.72	-	-		
			2	21	2.04	1.98	-	-		
		愛知県 農総試 (蒲郡市)	0	-	<0.04	<0.04	-	-	-	
			2	7	17.1	16.9	-	-	-	
			2	14	8.12	8.06	-	-	-	
			2	21	6.88	6.84	-	-	-	
					日本食品分析センター		三井化学㈱			
温州みかん (施設) (果肉) 平成12年度	水溶剤(20%) 1000倍 400L/10a 散布(2回)	日植防研 (高知)	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005		
			2	7	0.107	0.103	0.139	0.132		
			2	14	0.153	0.148	0.180	0.178		
			2	28	0.407	0.402	0.461	0.460		
			2	42	0.262	0.248	0.259	0.256		
			2	56	0.307	0.300	0.346	0.339		
			佐賀県 果樹試験場	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	
				2	8	0.133	0.131	0.184	0.184	
		2		14	0.221	0.216	0.156	0.154		
		2		28	0.459	0.456	0.588	0.581		
		2		42	0.365	0.363	0.487	0.484		
		2		49	0.389	0.369	0.497	0.484		
		温州みかん (施設) (果皮) 平成12年度	水溶剤(20%) 1000倍 400L/10a 散布(2回)	日植防研 (高知)	0	-	<0.04	<0.04	<0.01	<0.01
					2	7	1.79	1.77	2.08	1.95
2	14				1.20	1.18	1.65	1.58		
2	28				1.22	1.19	1.08	1.08		
2	42				0.39	0.37	0.39	0.38		
2	56				0.27	0.26	0.33	0.33		
佐賀県 果樹試験場	0				-	<0.04	<0.04	<0.01	<0.01	
	2				8	3.05	2.96	3.47	3.46	
	2			14	3.49	3.36	3.48	3.30		
	2			28	1.25	1.25	1.51	1.46		
	2			42	0.84	0.82	0.85	0.85		
	2			49	0.46	0.45	0.87	0.87		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果						
					公的分析機関		社内分析機関				
					最高値	平均値	最高値	平均値			
					日本食品分析センター		三井化学㈱				
温州みかん (施設) (果肉) 平成18年度	水溶剤(20%) 1000倍 400・660L/10a 散布(3回)	愛知県 農総試	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			3	1	0.32	0.32	0.34	0.34			
			3	7	0.52	0.51	0.46	0.46			
			3	21	0.78	0.76	0.61	0.60			
			3	28	0.79	0.79	0.71	0.68			
			3	42	0.58	0.57	0.52	0.50			
			3	56	0.37	0.36	0.52	0.50			
		大分 肥料協会	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			3	1	0.23	0.22	0.19	0.18			
			3	7	0.14	0.14	0.13	0.12			
			3	21	0.49	0.48	0.57	0.55			
			3	28	0.54	0.54	0.30	0.30			
			3	42	0.51	0.51	0.65	0.64			
			3	56	0.52	0.52	0.52	0.50			
温州みかん (施設) (果皮) 平成18年度	水溶剤(20%) 1000倍 400・660L/10a 散布(3回)	愛知県 農総試	0	-	<0.05	<0.05	<0.02	<0.02			
			3	1	5.23	5.16	5.97	5.96			
			3	7	6.02	5.76	5.74	5.74			
			3	21	2.32	2.29	2.03	1.98			
			3	28	1.82	1.78	1.77	1.74			
			3	42	0.60	0.60	0.62	0.62			
			3	56	0.44	0.43	0.42	0.40			
		大分 肥料協会	0	-	<0.05	<0.05	<0.02	<0.02			
			3	1	4.69	4.64	3.49	3.47			
			3	7	1.64	1.64	1.56	1.56			
			3	21	2.27	2.16	2.16	2.14			
			3	28	1.51	1.46	0.62	0.60			
			3	42	0.57	0.56	0.79	0.78			
			3	56	0.39	0.38	0.40	0.40			
なつみかん (果肉) 平成10年度	水溶剤(20%) 1000倍 500L/10a 散布(2回)	静岡柑橘試	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
			2	7	0.007	0.007	0.006	0.006			
			2	14	0.012	0.012	0.010	0.008			
			2	21	0.011	0.011	0.007	0.006			
		徳島植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
			2	7	0.021	0.020	0.007	0.006			
			2	14	0.035	0.034	0.020	0.019			
			2	21	0.033	0.032	0.018	0.016			
			なつみかん (果皮) 平成10年度	水溶剤(20%) 1000倍 500L/10a 散布(2回)	静岡柑橘試	0	-	<0.04	<0.04	<0.005	<0.005
						2	7	0.65	0.64	0.626	0.622
2	14	1.36				1.34	1.35	1.33			
2	21	0.76				0.74	0.432	0.418			
徳島植防	0	-	<0.04	<0.04	<0.005	<0.005					
	2	7	1.00	0.99	0.864	0.856					
	2	14	0.78	0.75	0.628	0.620					
	2	21	0.98	0.94	0.613	0.604					

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					日本食品分析センター		三井化学㈱	
なつみかん (全果実) 平成10年度	水溶剤(20%) 1000倍 500L/10a 散布(2回)	静岡柑橘試	0	-	<0.04	<0.04	<0.005	<0.005
			2	7	0.20	0.20	0.181	0.179
			2	14	0.43	0.43	0.495	0.486
			2	21	0.24	0.24	0.147	0.141
		徳島植防	0	-	<0.04	<0.04	<0.005	<0.005
			2	7	0.24	0.23	0.237	0.233
			2	14	0.19	0.19	0.168	0.165
			2	21	0.22	0.21	0.154	0.150
なつみかん (果実全体) 平成18年度	水溶剤(20%) 1000倍, 833~1250・ 500L/10a 散布(3回)	山口県 萩柑きつ 試験場	0	-	<0.01	<0.01	<0.1	<0.1
			3	1	0.84	0.80	0.8	0.8
			3	7	0.79	0.76	0.8	0.8
			3	14	1.23	1.18	1.1	1.1
			3	21	0.94	0.93	0.8	0.8
			3	28	1.19	1.15	1.0	1.0
		鹿児島県 農業環境協 植防部会	0	-	<0.01	<0.01	<0.1	<0.1
			3	1	1.21	1.16	1.3	1.2
			3	7	1.07	1.06	1.3	1.3
			3	14	1.98	1.90	1.9	1.8
			3	21	1.50	1.48	1.3	1.3
			3	28	1.51	1.50	1.3	1.3
すだち (果実) 平成10年度	水溶剤(20%) 1000倍 500L/10a 散布(2回)	徳島植防	0	-	-	-	<0.01	<0.01
			2	7	-	-	1.12	1.04
			2	14	-	-	0.80	0.76
			2	21	-	-	0.58	0.54
かぼす (果実) 平成10年度	水溶剤(20%) 1000倍 750L/10a 散布(2回)	大分柑橘試	0	-	-	-	<0.01	<0.01
			2	7	-	-	0.84	0.83
			2	14	-	-	0.56	0.54
			2	21	-	-	0.59	0.58
					化学分析コンサルタント			
すだち (果実全体) 平成18年度	水溶剤(20%) 1000倍, 500・600L/10a 散布(3回) 水溶剤(20%) 1000倍, 500・600L/10a 散布(3回)	徳島県 農林水産 総合技術 支援センター	0	-	-	-	<0.01	<0.01
			3	1	-	-	4.67	4.66
			3	7	-	-	3.60	3.59
			3	14	-	-	1.42	1.39
			3	21	-	-	1.55	1.50
かぼす (果実全体) 平成18年度	水溶剤(20%) 1000倍, 500・600L/10a 散布(3回)	大分県 農林水産 研究センター	0	-	-	-	<0.01	<0.01
			3	1	-	-	0.41	0.40
			3	7	-	-	0.48	0.46
			3	14	-	-	0.77	0.77
			3	21	-	-	0.62	0.60
			3	28	-	-	0.40	0.38

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果						
					公的分析機関		社内分析機関				
					最高値	平均値	最高値	平均値			
					日本食品分析センター		三井化学㈱				
りんご (果実) 平成10年度	水溶剤(20%) 1000倍 500・600L/10a 散布(2回)	青森植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
			2	7	0.279	0.276	0.270	0.264			
			2	14	0.202	0.200	0.191	0.190			
			2	21	0.187	0.186	0.161	0.158			
		石川植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
			2	7	0.190	0.187	0.154	0.148			
			2	14	0.167	0.164	0.117	0.112			
			2	21	0.131	0.127	0.111	0.104			
りんご (露地) (果実) 平成15・16 年度	水溶剤(20%) 500倍 500L/10a 土壌表面散布 (1回) 2000倍 600・500L/10a 茎葉散布 (3回)	長野県 果樹試験場	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			4	1	0.14	0.14	0.10	0.10			
			4	3	0.12	0.12	0.05	0.05			
			4	7	0.08	0.08	0.05	0.05			
			4	14	0.04	0.04	0.03	0.03			
			4	21	0.03	0.03	0.04	0.04			
		青森植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			4	1	0.09	0.09	0.09	0.08			
			4	3	0.08	0.08	0.08	0.08			
			4	7	0.11	0.10	0.10	0.10			
			4	14	0.08	0.08	0.09	0.08			
			4	21	0.09	0.09	0.08	0.08			
								日本食品分析センター		化学分析コンサルタント	
			りんご (果実) (無袋) 平成18年度	水和剤(40%) 2000倍 600・500L/10a 散布(3回)	青森植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
3	1	0.62				0.62	0.63	0.61			
3	3	0.40				0.40	0.38	0.36			
3	7	0.37				0.36	0.38	0.37			
3	14	0.33				0.32	0.33	0.33			
3	21	0.30				0.30	0.27	0.27			
石川植防	0	-			<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
	3	1			0.42	0.41	0.48	0.48			
	3	3			0.46	0.45	0.52	0.52			
	3	7			0.50	0.48	0.48	0.47			
	3	14			0.50	0.49	0.50	0.50			
	3	21			0.48	0.48	0.45	0.44			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果						
					公的分析機関		社内分析機関				
					最高値	平均値	最高値	平均値			
					日本食品分析センター		三井化学㈱				
なし (果実) 平成11年度	水溶剤(20%) 1000倍 400・500L/10a 散布(2回)	静岡柑橘試 (落葉果樹 分場)	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
			2	7	0.748	0.719	0.744	0.736			
			2	14	0.413	0.392	0.603	0.593			
			2	21	0.387	0.372	0.395	0.388			
			2	28	0.362	0.362	0.397	0.394			
		福井農試	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
			2	7	0.386	0.380	0.458	0.454			
			2	14	0.326	0.312	0.318	0.312			
			2	21	0.378	0.368	0.444	0.435			
			2	28	0.262	0.256	0.250	0.246			
日本なし (果実) 平成15年度	水溶剤(20%) 500倍 500L/10a 土壌表面散布(1回) 2000倍 350L/10a 茎葉散布(3回)	長野植防 (南信)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			4	1	0.16	0.16	0.08	0.08			
			4	3	0.16	0.16	0.11	0.10			
			4	7	0.07	0.07	0.06	0.06			
			4	14	0.09	0.08	0.06	0.06			
			4	21	0.11	0.10	0.08	0.08			
			4	28	0.10	0.10	0.08	0.07			
			石川植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
		4		1	0.42	0.42	0.30	0.29			
		4		3	0.39	0.38	0.18	0.18			
		4		7	0.27	0.26	0.17	0.17			
		4		14	0.15	0.15	0.12	0.12			
		4		21	0.16	0.16	0.09	0.08			
		びわ (果肉) 平成19年度	水溶剤(20%) 2000倍, 400L/10a 散布(2回)	千葉県農総研 暖地園芸研	0	-	-	-	<0.01	<0.01	
2	1				-	-	0.26	0.26			
2	3				-	-	0.19	0.19			
2	7				-	-	0.15	0.15			
2	14				-	-	0.36	0.36			
2	21				-	-	0.34	0.34			
長崎県果樹	0			-	-	-	<0.01	<0.01			
	2			1	-	-	0.07	0.07			
	2			3	-	-	0.16	0.16			
	2			7	-	-	0.18	0.18			
	2			14	-	-	0.10	0.10			
	2			21	-	-	0.16	0.16			
						化学分析コンサルタント					

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					日本食品分析センター		三井化学㈱	
もも (果肉) 平成11年度	水溶剤(20%) 2000倍 400・450L/10a 散布(2回)	岐阜植防 (東濃)	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	7	0.205	0.196	0.118	0.118
			2	14	0.193	0.190	0.109	0.108
			2	20	0.115	0.114	0.107	0.096
			2	26	0.052	0.050	0.055	0.054
		徳島植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	7	0.477	0.476	0.428	0.415
			2	14	0.368	0.364	0.315	0.294
			2	21	0.305	0.304	0.246	0.238
			2	27	0.115	0.114	0.169	0.168
もも (果皮) 平成11年度	水溶剤(20%) 2000倍 400・450L/10a 散布(2回)	岐阜植防 (東濃)	0	-	<0.04	<0.04	<0.01	<0.01
			2	7	1.25	1.24	1.11	1.05
			2	14	0.74	0.74	0.93	0.90
			2	20	0.26	0.26	0.26	0.25
			2	26	0.15	0.14	0.18	0.17
		徳島植防	0	-	<0.04	<0.04	<0.01	<0.01
			2	7	1.92	1.90	1.72	1.67
			2	14	1.22	1.18	0.78	0.76
			2	21	0.80	0.80	0.68	0.68
			2	27	0.33	0.32	0.33	0.32
もも (果肉) 平成15年度 果実	水溶剤(20%) 500倍 400・500L/10a 土壌表面散布(1回) 2000倍 400・500L/10a 茎葉散布(3回)	福島植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			4	1	0.97	0.96	0.52	0.50
			4	3	0.75	0.75	0.49	0.49
			4	7	0.82	0.82	0.44	0.42
			4	14	1.00	0.99	0.73	0.68
			4	21	1.03	1.03	0.48	0.48
			4	28	0.70	0.68	0.56	0.56
		長野県 果樹試験場	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			4	1	0.46	0.45	0.32	0.32
			4	3	0.56	0.54	0.37	0.36
			4	7	0.41	0.40	0.44	0.38
			4	14	0.53	0.52	0.47	0.46
			4	21	0.52	0.52	0.54	0.54
			4	28	0.47	0.46	0.43	0.42

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					日本食品分析センター		三井化学㈱	
もも (果皮) 平成15年度	水溶剤(20%) 500倍 400・500L/10a 土壌表面散布(1回) 2000倍 400・500L/10a 茎葉散布(3回)	福島植防	0	-	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05
			4	1	5.40	5.28	3.95	3.94
			4	3	4.99	4.80	3.67	3.65
			4	7	3.23	3.14	2.12	2.11
			4	14	2.63	2.60	2.24	2.20
			4	21	2.17	2.16	1.44	1.41
			4	28	1.37	1.34	1.32	1.28
		長野県 果樹試験場	0	-	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05
			4	1	5.39	5.26	4.17	4.16
			4	3	2.87	2.86	3.01	2.92
			4	7	1.70	1.70	1.53	1.52
			4	14	1.29	1.28	1.38	1.29
			4	21	1.02	1.01	0.99	0.97
			4	28	0.87	0.86	0.77	0.77
ネクタリン (果実) 平成15年度	水溶剤(20%) 2000倍 270・700L/10a 散布(3回)	青森植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	0.94	0.93	0.76	0.75
			3	3	0.80	0.80	0.70	0.68
			3	7	0.34	0.34	0.14	0.14
		長野県 果樹試験場	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	0.73	0.73	0.78	0.78
			3	3	0.87	0.86	0.71	0.70
			3	7	0.59	0.58	0.60	0.60
			3	14	0.46	0.46	0.32	0.32
			3	21	0.45	0.45	0.30	0.28
化学分析コンサルタント								
すもも (果実) 平成16年度	水溶剤(20%) 500倍 500L/10a 土壌表面散布 (1回) 2000倍 400・500L/10a 茎葉散布(3回)	長野植防 須坂 研究所	0	-	-	-	<0.01	<0.01
			4	1	-	-	0.22	0.22
			4	3	-	-	0.18	0.18
			4	7	-	-	0.18	0.18
			4	21	-	-	0.17	0.17
		和歌山植防	0	-	-	-	<0.01	<0.01
			4	1	-	-	0.11	0.10
			4	3	-	-	0.10	0.10
			4	7	-	-	0.18	0.18
			4	21	-	-	0.12	0.12
					日本食品分析センター		三井化学㈱	
うめ (果実) 平成11年度	水溶剤(20%) 2000倍 400L/10a 散布(2回)	福井植防 (園芸試)	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	7	1.22	1.22	1.42	1.36
			2	14	0.993	0.975	1.00	0.952
			2	21	0.798	0.786	0.804	0.790
		大分農技セ	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
			2	7	1.22	1.22	1.97	1.94
			2	14	0.697	0.692	0.788	0.750
			2	21	0.691	0.683	0.691	0.675



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果						
					公的分析機関		社内分析機関				
					最高値	平均値	最高値	平均値			
					日本食品分析センター		三井化学㈱				
うめ (果実) 平成18年度	水溶剤(20%) 2000倍 300・480L/10a 散布(3回)	和歌山植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05			
			3	1	0.56	0.56	0.81	0.78			
			3	7	0.37	0.37	0.28	0.28			
			3	14	0.55	0.54	0.47	0.46			
			3	21	0.26	0.26	0.20	0.19			
		徳島植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05			
			3	1	1.30	1.28	1.21	1.20			
			3	7	0.46	0.44	0.47	0.47			
			3	14	0.92	0.92	0.73	0.69			
			3	21	0.50	0.50	0.40	0.39			
おうとう (施設) (果実) 平成14年度	水溶剤(20%) 1000倍 400・500L/10a 散布(2回)	岩手植防	0	-	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02			
			2	7	0.73	0.71	0.70	0.68			
			2	14	2.72	2.66	2.34	2.28			
			2	21	2.72	2.64	2.78	2.76			
			2	28	0.79	0.78	0.64	0.56			
		新潟 農総研 (園芸研究 センター)	0	-	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02			
			2	7	1.39	1.38	1.55	1.54			
			2	14	1.50	1.44	1.15	1.06			
			2	21	1.01	0.98	0.91	0.86			
			2	28	0.84	0.82	0.76	0.76			
おうとう (施設) (果実) 平成15年度	水溶剤(20%) 500倍 500L/10a 土壌表面散布(1回) 2000倍 400・500L/10a 茎葉散布(2回)	岩手植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.1	<0.1			
			3	1	2.03	2.03	1.8	1.7			
			3	7	1.53	1.52	1.4	1.4			
			3	14	1.57	1.49	1.2	1.2			
			3	21	1.06	1.04	0.5	0.5			
		長野植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.1	<0.1			
			3	1	5.16	5.05	5.0	5.0			
			3	7	4.10	4.02	3.5	3.4			
			3	13	2.58	2.56	2.3	2.3			
			3	20	1.57	1.56	1.3	1.3			
いちご (施設) (果実) 平成11年度	粒剤(1%) 1g/株 定植時植穴 土壌混和(1回) 水溶剤(20%) 2000倍 200・201L/10a 散布(2回)	岐阜植防	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
			3	1	1.22	1.20	1.54	1.54			
			3	3	1.24	1.23	1.60	1.58			
			3	7	0.921	0.914	1.04	0.936			
		日植防 (宮崎)	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005			
			3	1	2.28	2.22	2.26	2.08			
			3	3	1.96	1.92	2.42	2.30			
			3	7	2.12	2.08	2.06	2.00			
			いちご (施設) (果実) 平成11年度	粒剤(1%) 1g/株 定植時植穴処理 (1回)	日植防研	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
						1	121	0.520	0.515	0.686	0.606
1	128	0.582				0.577	0.475	0.474			
1	135	0.427				0.425	0.332	0.325			
奈良県農試	0	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005					
	1	130	0.021	0.021	0.024	0.023					
	1	137	0.030	0.030	0.043	0.039					
	1	144	0.031	0.030	0.036	0.036					

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果					
					公的分析機関		社内分析機関			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
					日本食品分析センター		化学分析コンサルタント			
ぶどう (施設) (果実) 平成11年度	水溶剤(20%) 1000倍 400・280~360L /10a 散布(2回)	石川植防 (大粒) (巨峰)	0	-	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04		
			2	7	3.52	3.36	3.10	3.05		
			2	14	3.01	2.99	2.91	2.90		
			2	21	2.40	2.35	2.30	2.29		
		三重科技振 (伊賀) (小粒) (デラウェア)	0	-	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	
			2	7	1.95	1.86	2.36	2.36		
			2	14	3.22	3.16	1.83	1.82		
			2	21	1.45	1.38	1.72	1.72		
			2	28	1.96	1.86	1.47	1.46		
							日本食品分析センター		三井化学㈱	
ぶどう (施設) (果実) 平成18年度	水溶剤(20%) 1000倍 400・500L/10a 散布(3回)	秋田県 農林水産 技術センター (小粒) (デラウェア)	0	-	<0.01	<0.01	<0.5	<0.5		
			3	1	5.72	5.56	6.3	6.1		
			3	7	6.69	6.67	6.6	6.3		
			3	14	6.27	6.18	7.9	7.8		
			3	21	5.87	5.82	4.6	4.6		
			3	28	6.57	6.54	6.2	6.2		
		石川植防 (大粒) (巨峰)	0	-	<0.01	<0.01	<0.5	<0.5		
			3	1	0.21	0.21	1.0	0.9		
			3	7	0.97	0.95	0.9	0.8		
			3	14	1.13	1.12	1.0	1.0		
			3	21	1.82	1.82	0.7	0.7		
			3	28	0.44	0.43	0.7	0.6		
							日本食品分析センター		化学分析コンサルタント	
			ぶどう (施設) (果実) 平成21年度	水溶剤(20%) 40g+水40mL/樹 幼果期樹幹塗布 (1回)	島根農技セ (小粒) (デラウェア)	0	-	-	-	<0.01
1	30	-				-	0.07	0.07		
1	37	-				-	0.03	0.02		
1	44	-				-	0.04	0.04		
山梨果試 (大粒) (巨峰)	0	-			-	-	<0.01	<0.01		
	1	30			-	-	0.06	0.06		
	1	37			-	-	0.01	0.01		
	1	44			-	-	0.02	0.02		
	植防山梨 (小粒) (デラウェア)	0			-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		4			1	2.72	2.70	2.75	2.72	
4		7	2.98	2.96	2.88	2.84				
4		14	2.72	2.66	3.32	3.29				
4		21	4.65	4.53	3.95	3.89				
4		27	4.70	4.60	3.78	3.76				
長野植防 須坂 (大粒) (巨峰)		0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
		4	1	0.65	0.65	0.71	0.70			
	4	7	0.94	0.91	0.77	0.76				
	4	14	0.82	0.81	0.69	0.68				
	4	21	1.07	1.03	1.11	1.06				
	4	27	1.93	1.92	1.32	1.28				

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果				
					公的分析機関		社内分析機関		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
					日本食品分析センター		化学分析コンサルタント		
ぶどう (施設) (果実) 平成22年度	水溶剤(20%) 40g+水40mL/樹 幼果期樹幹塗布 (1回) 1000倍 303・300L/10a 散布(2回)	長野植防 須坂  (大粒) (巨峰)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	1	1.35	1.34	1.42	1.40	
			3	3	1.60	1.58	1.83	1.82	
			3	7	1.33	1.32	1.49	1.46	
			3	14	0.42	0.40	1.03	1.00	
			3	28	0.96	0.96	1.03	1.02	
			3	35	0.90	0.88	0.74	0.74	
		3	45	1.24	1.20	1.47	1.46		
		日植防研 (宮崎)  (小粒) (デラウェア)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	1	1.18	1.12	0.88	0.86	
			3	3	0.81	0.78	0.93	0.93	
			3	7	1.25	1.22	0.92	0.91	
			3	14	0.71	0.70	0.91	0.90	
			3	28	1.00	0.98	0.93	0.89	
3	35		0.80	0.78	0.85	0.84			
3	45	0.73	0.70	0.82	0.78				
					日本食品分析センター		三井化学㈱		
かき (果実) 平成13年度	水溶剤(20%) 1000倍 300・313L/10a 散布(2回)	愛知農総試 (豊橋農業 技術 センター)	0	-	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01	
			2	7	0.50	0.50	0.41	0.40	
			2	14	0.15	0.14	0.22	0.22	
			2	20	0.33	0.32	0.35	0.32	
		奈良県 果樹振興 センター	0	-	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01	
			2	7	0.63	0.63	0.48	0.48	
			2	14	0.64	0.61	0.72	0.70	
2	21	0.50	0.48	0.54	0.54				
かき (果実) 平成15年度	水溶剤(20%) 500倍 5L/樹 土壌表面散布(1回) 2000倍 300・500L/10a 茎葉散布(3回)	岐阜植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			4	1	0.27	0.26	0.27	0.24	
			4	3	0.21	0.20	0.37	0.34	
			4	7	0.20	0.20	0.21	0.20	
			4	14	0.14	0.14	0.12	0.12	
			4	21	0.19	0.18	0.14	0.14	
		和歌山植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			4	1	0.47	0.46	0.55	0.55	
			4	3	0.47	0.47	0.38	0.36	
			4	7	0.39	0.39	0.37	0.36	
			4	14	0.29	0.29	0.30	0.27	
			4	21	0.32	0.32	0.27	0.26	
			岐阜植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				4	1	0.26	0.25	0.28	0.27
4	3	0.21		0.21	0.23	0.22			
4	7	0.21		0.20	0.22	0.22			
4	14	0.23		0.22	0.15	0.14			
奈良植防	0	-		<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
	4	1		0.26	0.26	0.33	0.32		
	4	3	0.21	0.21	0.21	0.20			
	4	7	0.22	0.22	0.24	0.22			
4	14	0.23	0.22	0.16	0.16				
かき (果実) 平成20年度	水溶剤(20%) 40g+水40mL/樹 樹幹塗布(1回) 2000倍 400L/10a 散布(3回)	岐阜植防	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			4	1	0.26	0.25	0.28	0.27	
			4	3	0.21	0.21	0.23	0.22	
			4	7	0.21	0.20	0.22	0.22	
		奈良植防	4	14	0.23	0.22	0.15	0.14	
			0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			4	1	0.26	0.26	0.33	0.32	
4	3	0.21	0.21	0.21	0.20				
4	7	0.22	0.22	0.24	0.22				
4	14	0.23	0.22	0.16	0.16				

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果						
					公的分析機関		社内分析機関				
					最高値	平均値	最高値	平均値			
					化学分析コンサルタント						
キウイフルーツ (果肉) 平成18年度	水溶剤(20%) 1000倍, 300・500L/10a 散布(3回)	奈良植防	0	-	-	-	<0.01	<0.01			
			3	1	-	-	0.09	0.09			
			3	7	-	-	0.11	0.10			
			3	14	-	-	0.06	0.06			
			3	21	-	-	0.10	0.10			
			3	28	-	-	0.09	0.09			
		和歌山植防	0	-	-	-	<0.01	<0.01			
			3	1	-	-	0.12	0.12			
			3	7	-	-	0.11	0.10			
			3	14	-	-	0.20	0.20			
			3	21	-	-	0.20	0.20			
			3	28	-	-	0.14	0.14			
マンゴー (果実) 平成17年度	水溶剤(20%) 2000倍 200・320L/10a 散布(3回)	日植防研 (宮崎)	0	-	-	-	<0.01	<0.01			
			3	1	-	-	0.35	0.34			
			3	3	-	-	0.08	0.08			
			3	7	-	-	0.15	0.14			
		沖縄農試	0	-	-	-	<0.01	<0.01			
			3	1	-	-	0.33	0.32			
			3	3	-	-	0.11	0.11			
			3	7	-	-	0.17	0.16			
								山形県農総研究センター			
			あけび (果実) 平成18・19 年度	水溶剤(20%) 2000倍 500L/10a 散布(2回)	山形県 最上総合支	0	-	<0.05	<0.05	-	-
2	14	0.09				0.08	-	-			
2	21	0.05				0.05	-	-			
2	28	<0.05				<0.05	-	-			
山形県 最上総合支	0	-			<0.05	<0.05	-	-			
	2	14			0.05	0.05	-	-			
	2	21			<0.05	<0.05	-	-			
	2	28			<0.05	<0.05	-	-			
					化学分析コンサルタント						
オリーブ* (果実) 平成25年度	水溶剤(20%) 2000倍 200・571L/10a 散布(1回)	香川県農試	0	-	-	-	<0.01	<0.01			
			1	14	-	-	0.74	0.72			
			1	21	-	-	1.13	1.08			
			1	28	-	-	0.75	0.72			
		熊本県天草 地域振興局	0	-	-	-	<0.01	<0.01			
			1	14	-	-	0.46	0.46			
			1	21	-	-	0.82	0.82			
			1	28	-	-	0.62	0.60			
オリーブ* (果実) 平成25年度	水溶剤(20%) 2000倍 200・571L/10a 散布(2回)	香川県農試	0	-	-	-	-	-			
			2	1	-	-	1.75	1.74			
			2	7	-	-	1.72	1.66			
			2	14	-	-	1.61	1.58			
		2	21	-	-	1.48	1.46				
		熊本県天草 地域振興局	0	-	-	-	-	-			
			2	1	-	-	1.82	1.78			
			2	7	-	-	0.74	0.74			
			2	14	-	-	1.18	1.18			
			2	21	-	-	1.06	1.04			

\* 適用拡大申請中(平成26年3月18日付)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果					
					公的分析機関		社内分析機関			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
					日本食品分析センター		化学分析コンサルタント			
茶 (荒茶) 平成11年度	水溶剤(20%) 2000倍 200L/10a 散布(2回)	神奈川 農総研 (津久井 試験場)	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			2	7	8.97	8.56	9.33	9.10		
			2	14	5.10	4.89	5.10	5.04		
			2	21	0.69	0.68	0.66	0.64		
		奈良農試 (茶葉分場)	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			2	7	19.5	19.1	19.7	18.8		
			2	14	4.76	4.55	4.74	4.74		
			2	21	1.64	1.62	1.47	1.44		
茶 (荒茶) 平成16年度	粒剤(1%) 12kg/10a 株元散布 (2回)	神奈川 農総研 (津久井)	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			2	7	0.38	0.38	0.42	0.42		
			2	14	1.09	1.08	1.37	1.36		
			2	28	2.88	2.78	3.26	3.25		
			2	56	2.80	2.78	3.07	3.02		
		三重植防	0	-	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			2	7	0.16	0.16	0.15	0.14		
			2	14	0.40	0.38	0.42	0.42		
			2	28	1.19	1.17	1.44	1.43		
			2	56	0.93	0.90	1.02	1.02		
			長野県農業総合試験場							
			わさび (施設) (花及び花 葉) 平成17年度	水溶剤(20%) 2000倍 200L/10a 散布(3回)	長野県 安曇野市	0	-	<0.05	<0.05	-
3	7	3.59				3.46	-	-		
3	14	2.08				2.04	-	-		
3	21	0.88				0.87	-	-		
3	28	0.34				0.34	-	-		
静岡県 伊豆市	0	-			<0.05	<0.05	-	-		
	3	7			2.24	2.22	-	-		
	3	14			0.90	0.89	-	-		
	3	21			0.50	0.48	-	-		
	3	28			0.38	0.37	-	-		
	長野県 安曇野市	0			-	<0.05	<0.05	-	-	
		3			7	4.07	4.00	-	-	
		3			14	2.02	2.01	-	-	
3		21	1.55	1.55	-	-				
3		28	1.40	1.40	-	-				
静岡県 伊豆市		0	-	<0.05	<0.05	-	-			
		3	7	1.04	1.00	-	-			
	3	14	0.26	0.26	-	-				
	3	21	0.19	0.18	-	-				
3	28	0.09	0.09	-	-					

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果				
					公的分析機関		社内分析機関		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
					島根県農業技術センター				
畑わさび (施設) (茎葉) 平成24年度	水溶剤(20%) 2000倍 486~1025・300L /10a 散布(3回)	島根県 (鹿足郡)	0	-	<0.02	<0.02	-	-	
			3	3	4.95	4.78	-	-	
			3	7	3.33	3.33	-	-	
			3	14	2.45	2.42	-	-	
						徳島県立農林水産総合 技術支援センター			
		徳島県 (那賀郡)	0	-	<0.02	<0.02	-	-	
			3	3	3.90	3.87	-	-	
			3	7	3.03	3.02	-	-	
3	14		1.24	1.24	-	-			
畑わさび (施設) (花茎) 平成24年度	水溶剤(20%) 2000倍 215~262・300L /10a 散布(3回)	島根県 (益田市)	0	-	<0.02	<0.02	-	-	
			3	3	19.0	18.9	-	-	
			3	7	11.6	11.5	-	-	
			3	14	4.14	4.12	-	-	
		徳島県 (那賀郡)	0	-	<0.02	<0.02	-	-	
			3	3	3.90	3.90	-	-	
			3	7	2.67	2.64	-	-	
			3	14	2.21	2.20	-	-	
				愛知県農業総合試験場					
はっか (施設) (茎葉) 平成18年度	水溶剤(20%) 3000倍 180・170L/10a 茎葉散布(2回)	愛知県 農総試 (豊橋市)	0	-	<0.40	<0.40	-	-	
			2	3	3.39	3.37	-	-	
			2	7	0.73	0.72	-	-	
			2	14	<0.40	<0.40	-	-	
		愛知県 農総試 (豊川市)	0	-	<0.40	<0.40	-	-	
			2	3	3.11	3.08	-	-	
			2	7	0.97	0.96	-	-	
			2	14	<0.40	<0.40	-	-	
しそ (施設) (花穂) 平成18年度	水溶剤(20%) 3000倍 200L/10a 茎葉散布(2回)	愛知県 農総試 (豊橋市)	0	-	<0.40	<0.40	-	-	
			2	3	3.50	3.48	-	-	
			2	7	1.32	1.32	-	-	
			2	14	<0.40	<0.40	-	-	
		愛知県 農総試 (宝飯郡 小坂井町)	0	-	<0.40	<0.40	-	-	
			2	3	4.39	4.38	-	-	
			2	7	1.57	1.56	-	-	
			2	14	<0.40	<0.40	-	-	
				化学分析コンサルタント					
しそ (施設) (茎葉) 平成18年度	水溶剤(20%) 3000倍 200L/10a 茎葉散布(2回)	日植防研	0	-	-	-	<0.01	<0.01	
			2	3	-	-	14.7	14.6	
			2	7	-	-	6.24	6.20	
			2	14	-	-	1.69	1.64	
			2	21	-	-	0.47	0.46	
		愛知県 農総試	0	-	-	-	<0.01	<0.01	
			2	3	-	-	9.39	9.32	
			2	7	-	-	4.22	4.20	
			2	14	-	-	0.77	0.77	
			2	21	-	-	0.30	0.30	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果					
					公的分析機関		社内分析機関			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
					高知県農業技術センター					
しそ (施設) (葉) 平成23・24年	粒剤(1%) 2g/株 定植時植穴 土壌混和(1回) 水溶剤(20%) 3000倍 200L/10a 散布(2回)	高知県 (南国市)	0	-	<0.1	<0.1	-	-		
			3	3	15	15	-	-		
			3	7	8.3	8.2	-	-		
			3	14	2.6	2.6	-	-		
			3	21	1.3	1.3	-	-		
		高知県 (南国市)	0	-	<0.1	<0.1	-	-		
			3	3	13	13	-	-		
			3	7	8.7	8.7	-	-		
			3	14	4.3	4.2	-	-		
			3	21	3.4	3.4	-	-		
					愛知県農業総合試験場					
バジル (施設) (茎葉) 平成18・19 年度	水溶剤(20%) 3000倍 250・300L/10a 散布(2回)	愛知県 (豊橋市)	0	-	<0.40	<0.40	-	-		
			2	3	5.56	5.56	-	-		
			2	7	3.17	3.14	-	-		
			2	14	0.63	0.62	-	-		
							大分県農林水産研究 センター			
		大分県 安全農業 研究所	0	-	<0.5	<0.5	-	-		
			2	3	4.92	4.80	-	-		
			2	7	1.09	1.02	-	-		
2	14		<0.5	<0.5	-	-				
					日本食品分析センター					
いね科牧草 (茎葉) 平成19年度	水溶剤(20%) 2000倍, 150L/10a 散布(3回)	信州大学 農学部 (長野)	0	-	<0.01	<0.01	-	-		
			3	1	3.68	3.66	-	-		
			3	3	0.16	0.16	-	-		
			3	7	0.11	0.10	-	-		
			3	21	0.02	0.02	-	-		
		日植防研 (宮崎)	0	-	<0.01	<0.01	-	-		
			3	1	5.96	5.94	-	-		
			3	3	4.05	4.00	-	-		
			3	7	0.31	0.31	-	-		
			3	21	0.04	0.04	-	-		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

## 2) 代謝物

### (1)分析法の原理と操作概要

### (2)分析対象の化合物

### (3)残留試験結果





本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果(実測値、ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					日本食品分析センター		三井化学㈱	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果(実測値、ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					日本食品分析センター		三井化学㈱	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果(実測値、ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					日本食品分析センター		三井化学㈱	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果(実測値、ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					日本食品分析センター		三井化学㈱	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果(実測値、ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					日本食品分析センター		三井化学㈱	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果(実測値、ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					日本食品分析センター		三井化学㈱	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果(実測値、ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					日本食品分析センター		三井化学㈱	



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果(実測値、ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					日本食品分析センター		三井化学㈱	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果(実測値、ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					日本食品分析センター		三井化学㈱	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果(実測値、ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					日本食品分析センター		三井化学㈱	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果(実測値、ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					日本食品分析センター		三井化学㈱	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果(実測値、ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					日本食品分析センター		三井化学㈱	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果(実測値、ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					日本食品分析センター		三井化学㈱	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果(実測値、ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					日本食品分析センター		三井化学㈱	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分) 使用量 及び 使用方法	試料 調製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果(実測値、ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					日本食品分析センター		三井化学㈱	



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

## 2. 乳汁への移行試験

### (1) 乳汁中のジノテフラン濃度

試験機関：(財)畜産生物科学安全研究所

分析機関：(財)畜産生物科学安全研究所

報告書作成年：1999年

供試化合物：

名称：ジノテフラン

化学名：(RS)-1-メチル-2-ニトロ-3-(テトラヒドロ-3-フリルメチル)グアニジン

供試動物：ホルスタイン種系乳牛、1群各2頭

体重：454~637kg(投与開始時)、搾乳量16.3~25.9kg/日(投与開始前日)

試験期間：7日間連続投与、投与後7日間観察

試験方法：

#### 1) 投与方法

供試化合物の3、12及び48mgをカプセル(日本薬局方NO.000)に封入し、供試動物に7日間連続投与した。

#### 2) 観察項目

一般状態、搾乳量(朝、夕)、体重(投与開始日、最終投与後7日)

#### 3) 分析項目

乳汁：投与開始前日、投与開始後1、3、7日、最終投与後1、3、5、7日

#### 4) 分析方法

朝及び夕に搾乳した乳汁を混合し、溶媒抽出を行い、精製後、HPLCを用いてジノテフランの定量を行った。

試験結果：

乳汁中におけるジノテフランの分析結果を表1に示した。いずれの試料中においてもジノテフラン濃度は検出限界である0.04 $\mu$ g/g以下であった。

表1 乳汁中におけるジノテフランの分析結果

投与量 (mg)	個体 番号	ジノテフラン濃度( $\mu$ g/g)							
		投与開 始前日	投与開始後日数			最終投与後日数			
			1	3	7	1	3	5	7
3	501	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	502	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
12	503	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	504	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
48	505	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	506	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND

ND：検出限界以下0.04 $\mu$ g/g以下

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。